

授  
業  
概  
要  
  
SYLLABUS

# 授 業 概 要

SYLLABUS

2020

令和2年度



豊岡短期大学

令和2年度(2020年)

豊岡短期大学

学籍 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

# 目 次

## カリキュラム一覧

• 総合科目 .....	1
• 専門教育科目 .....	29
教科専門科目 .....	30
教職専門科目 .....	88



# カリキュラム一覧

授業科目名	開 講 期				担 当 者 名		頁	備 考
	1 年 次		2 年 次		豊岡キャンパス	姫路キャンパス		
	前期	後期	前期	後期				
総 合 科 目								
弘 徳 教 育 I	○				担 当 教 員	担 当 教 員	2	
生 命 倫 理	○				永 井 秀 和	担 当 教 員	4	
女 性 と 文 化	○				西 村 豊	西 村 豊	6	
環 境 と 人 間	○				西 村 重 喜	川 渕 博 祥	8	
こ ども 環 境 学	○				西村豊・西村重	西村豊・西村重	10	
憲 法	○				野 畑 健 太 郎	姫路大学開講科目担当者	12	
情報リテラシーと処理技術	○				西 村 重 喜	大 塚 貴 之	14	別に定める授業科目
健 康 科 学		○			椿 (集中講義)	姫路大学開講科目担当者	16	
ス ポ ー ツ (実 技)	○				野 口 ・ 大 塚		18	別に定める授業科目
英語コミュニケーション		○			西 村 豊	西 村 豊	20	別に定める授業科目
キャリアアップⅠ	○				担 当 教 員	担 当 教 員	22	別に定める授業科目
キャリアアップⅡ		○			担 当 教 員	担 当 教 員	24	別に定める授業科目
キャリアアップⅢ			○		担 当 教 員	担 当 教 員	26	別に定める授業科目



# ◎総合科目

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
弘徳教育Ⅰ	1年・前期	演習	30時間 (2単位)	担当教員
実務経験の概要				
授業概要	<p>本学の建学の精神「人に愛される人 信頼される人 尊敬される人を育成することにある」の理解と、本学が掲げる「共生の心」を備えた人材の育成に基づき、本学での学ぶための基礎的な心構えと態度を養い、卒業後も視野にいたした社会人基礎力を養います。</p> <p>また、体験的な学習を多く取り入れ、学生間、学生と教職員といった様々な人間関係に基づく、コミュニケーション力の向上、課題解決力の向上を目指します。</p>			
授業科目の目的	<p>本学の「建学の精神」を理解し、「共生の心」を身につけ、本学の学びが、人格形成や社会人基礎力をはぐくみ、卒業の進路において、より豊かな人生をおくれるような人材育成を行います。</p> <p>また、短期大学で学ぶという観点から、勉学、研究、実習など、物事に積極的に取り組む力を身につけることを目的としています。</p>			
学習成果	<p>建学の精神にもとづき、下記の5点が学習成果となります</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間は人間だけでなく生きていくのではなく、自然のなかで他の生命とともに、生かされているという認識を持つとともに、その思想を実践する力を身につけることができますようにします。</li> <li>2. 専門職業人としての基本的な倫理観を養うとともに、他人を思いやる心を身につけることができますようにします。</li> <li>3. 専門職に必要な基礎的知識・技術を修得するとともに、創造性を身につけることができますようにします。</li> <li>4. 社会・歴史に対する深い洞察力を身につけるとともに、豊かな人間性を身につけることができますようにします。</li> <li>5. 国際社会に適応しうる感性を育むとともに、異文化を理解しうる力を身につけることができますようにします。</li> </ol>			
テキスト	随時資料を配付します。			
参考書	随時紹介します。			
フィードバックの方法	各授業の最後に、振り返りシートを提出してもらいます。各教員が、振り返りシートを添削し、返却します。その際、さらに学びを深めてほしい内容等を紹介します。			
成績評価基準	各授業ごとの授業態度・意欲30%、課題（振り返りシート含む）を70%として評価し、校内での授業と合宿での学びを総合して評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>本授業は、皆さんが本学に入学してから卒業するまでの間、どのように学んでいくべきなのかを体系的に学ぶことが求められています。</p> <p>豊かな人生を送るためには、普段から自身の考えを持ち、主体的に行動をしていくことが必要です。</p> <p>本学に入学した皆さんには、普段から、「建学の理念」と「共生の心」を核とし、学びの姿勢を持ち続け、日常生活でも実践していただけることを求めます。本授業に対する予習復習は、自身の教養を深めるために、本を読むこととし、その読んだ内容について、教員や学生同士で話し合うよう心がけてください。この予習復習におおよそ、60～90分ずつ要します。</p>			
その他事項	この授業では、宿泊形式の「弘徳合宿」があります。詳細は、追って連絡します。 合宿を欠席した場合は、別途補講を受講することとします。			

## 授業内容進行表

1 回	<学校法人弘徳学園で学ぶことの意義1> 建学の精神、共生の心、学園歌
2 回	<学校法人弘徳学園で学ぶことの意義2> 豊岡短期大学の沿革、豊岡短期大学で学ぶということ
3 回	<共生の心1> 自己発見、自己理解、自己表現、他者理解、コミュニケーション力
4 回	<共生の心2> 多文化共生
5 回	<共生の心3> 保育者としての自覚、保育者としての魅力
6 回	<リベラルアーツ教育1> 情報リテラシー、情報洞察力
7 回	<リベラルアーツ教育2> 健康教育、感性を磨く
8 回	<弘徳合宿に向けて> 合宿に向けた事前学習、グループ会議
9 回	<弘徳合宿> 1泊2日の合宿形式で実施 自己理解、他者理解を深めよう
10 回	<弘徳合宿> 1泊2日の合宿形式で実施 保育者としての自然体験
11 回	<弘徳合宿> 1泊2日の合宿形式で実施 保育者としての自然体験
12 回	<弘徳合宿> 1泊2日の合宿形式で実施 自尊感情を高めよう
13 回	<弘徳合宿> 1泊2日の合宿形式で実施 チームワークを高めよう
14 回	<弘徳合宿> 1泊2日の合宿形式で実施 課題解決力を高めよう
15 回	<弘徳合宿> 1泊2日の合宿形式で実施 社会人基礎力を高めよう
【定期試験】 有 ・ (無)	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
生 命 倫 理		1年・前期	講義	30時間 (2単位)	永井秀和
実務経験の概要					
授 業 概 要	人間を主人公とした生命科学を多角的な視点から講義し、生命にかかわる人間の行為について学生諸君とともに考察します。				
授 業 科 目 の 目 的	生命現象の奥に隠されている自然の法則を理解し、生命に関する人間の責任ある関わり方について、学生諸君の考えを表現できるようになることを目的とします。				
学 習 成 果	1. 生命の在り方、生命に対する人間の責任あるかかわり方について、自らの言葉で考えを述べることができるようにします。				
テ キ ス ト	なし				
参 考 書	基礎から学ぶ生命倫理学／村上喜良／勁草書房／2,700円 生命倫理と医療倫理／伏木信次／金芳堂／2,500円				
フ ィ ー ド バ ック の 方 法	テーマごとにまとめの小テストを実施し、次回以降の授業で、その結果もとに学生の諸君と議論を行い理解を深めていきます。				
成 績 評 価 基 準	授業態度20%、レポート10%、定期試験70%により総合的に評価します。				
メ ッ セ ー ジ 受 講 の 心 構 え と	生命現象の基本的な仕組みを理解するとともに、生命の尊さと真摯に向き合い受講することを望んでいます。予習復習、各々90分から120分の学習時間が求められます。				
の そ の 他					

## 授業内容進行表

1 回	生きていることの証と生命（有機物<生命>と無機物<ロボット>）
2 回	生命倫理とは何か1 渾沌と秩序・欲望と理性
3 回	生命倫理とは何か2 生命倫理とエコロジーや医療との関係
4 回	生殖生理（生む生まないは女性の権利か）
5 回	生殖補助技術（人工授精・受精卵移植）
6 回	遺伝子操作
7 回	脳死と臓器移植
8 回	安楽死と尊厳死
9 回	生命倫理と宗教の関係 1
10 回	生命倫理と宗教の関係 2
11 回	自己の存在と時間の概念について
12 回	生命の誕生について考える 生まれること・生むこと
13 回	死について考える 1
14 回	死について考える 2
15 回	人工知能と生命との関係
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
女性と文化	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	西村 豊
実務経験の概要				
授業概要	<p>現在、政府は一億総活躍社会の実現に向けた働き方改革に取り組んでいます。これは、男女共同参画社会の実現が叫ばれ、社会における女性の果たすべき役割が大きくなる中で、女性も男性も、それぞれが納得のいく働き方ができる社会の実現を目指したものです。しかしながら、依然として男性中心社会であり、多くの女性が社会においてどのように生き、どのような役割を果たしていけばいいのか悩み、迷っているのが現実です。女性が築いてきた文化の視点から、社会を見つめ直し、自分の将来のあり方を考察していきます。</p>			
授業科目の目的	<p>女性としての人権、地位が認められるようになったと言われるものの、実際には男女差別と思われる状況が存在します。「セクハラ」の問題もなくなる気配がありません。過去の歴史から学び、その知識や認識をふまえた上で、現代社会に生きる女性を俯瞰的に捉える視点や問題意識を持って、自らの生き方を考えることができるようになることを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 女性の人権、社会的地位など過去の歴史、及び身近な人たちからのこれまでの歴史を学び、女性を理解できるようにします。</li> <li>2. 具体的な女性を取り上げ、その生き方から学ぶ点を見出し、女性の理解について考えることができるようにします。</li> <li>3. 現代社会の女性が抱える問題点を認識し、現代社会に生きる女性の生き方を探求することができるようにします。</li> <li>4. 現代社会の男性が抱える問題点も認識しながら、男女にかかわる現代社会全体の問題を考えることができるようにします。</li> </ol>			
テキスト	特に指定せず、教材プリントを配付します。			
参考書	<p>女性学入門／杉本貴代栄編著／ミネルヴァ書房／2,700円          女性の品格／坂東真理子／PHP 新書／777円          男女共同参画白書平成29年版／内閣府男女共同参画局          ニッポン一億総活躍プラン／内閣官房一億総活躍推進室</p>			
フィードバックの方法	授業初めに、前回の授業のフィードバックから始めていきます。			
成績評価基準	定期試験60%、課題・発表30%、授業態度10%で総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>本授業では、これまで女性が抱えてきた問題点を、講義や調査・意見発表等で展開します。日頃からニュース等を見て、世の中の出来事に興味・関心を持つとともに、そのことが自分にどのように関わっているのかを常に考えるようにしてください。</p> <p>予習：前もって配付するプリントにしっかり目を通し、自分なりの疑問点等を整理しておいてください。</p> <p>復習：助言を付して返却を受けた振り返りプリントを用いて授業内容を振り返ってください。</p> <p>予習・復習ともに90～120分程度の時間を要します。</p>			
その他				

## 授業内容進行表

1 回	<女性と歴史> 古代 中世 近世
2 回	<女性と歴史> 明治 大正 戦後
3 回	<平等とは> 男女共同参画社会 ニッポン一億総活躍プラン・働き方改革実現会議
4 回	<家族とは何か> なぜ人間は家族をつくるのか 近代家族 家族のゆくえ
5 回	<結婚1> 結婚観 配偶者
6 回	<結婚2> 日本の婚姻率 結婚しない女性・男性
7 回	<子育て1> 誰が担うのか、担ってきたか
8 回	<子育て2> 子育て政策と今後について
9 回	<身近な女性の生き方から学ぶ1> レポート作成
10 回	<身近な女性の生き方から学ぶ2> レポート作成
11 回	<身近な女性の生き方から学ぶ3> 発表
12 回	<家庭生活> 家事・地域とのふれあい
13 回	<困難を抱える女性> 貧困 暴力（男性の子ども・女性に対する） 性
14 回	<高齢者問題> 高齢者と介護 誰が担うのか、担ってきたのか
15 回	<まとめ> 女性の歴史と自分の将来像
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
環 境 と 人 間		1 年・前期	講義	30時間 (2 単位)	西 村 重 喜
実務経験の概要					
授業概要	<p>幼児期の教育において、自然や動植物とのかかわりが欠かせません。自然や動植物とのかかわりは、その対象を命あるものとしてとらえ、心を動かし、多くのことに気付く経験につながります。本授業では、「自然や動植物」と関わろうとする幼児を支援するために必要な「自然や動植物」及び「自然環境」に関する基礎知識を習得することを目指します。</p>				
授業科目の目的	<p>社会の一員として求められる環境分野の基礎的な知識を習得し、身近な環境に対する理解を深めます。</p> <p>雑木林や水田など身近な自然環境の特徴や生息・生育する動植物について知識を深めます。</p> <p>動植物の同定、危険の有無など、子どもたちと自然との関わりを促す上で必要な基礎知識の習得を図ります。</p> <p>「20年、30年先の社会を担う子どもたちに自然への興味関心を抱かせる視点」を身につけます。</p>				
学習成果	<p>代表的な環境問題の仕組みについて説明する知識を身につけることができますようにします。</p> <p>雑木林や水田に生息・生育する同植物について、種名、色、形、生息・生育場所などの基礎知識を深めることができますようにします。</p> <p>身近な自然の変化に気づく視点を身につけることができますようにします。</p> <p>子どもたちが自然に親しむきっかけを与える能力を身につけることができますようにします。</p>				
テキスト	授業内でプリント等を配付します。				
参考書	<p>改訂新版地球環境がわかる／技術評論社</p> <p>くらべてわかる木の葉っぱ／林 将之／山と溪谷社</p> <p>自然観察ハンドブック／日本自然保護協会／平凡社</p> <p>野外における危険な生物／日本自然保護協会／平凡社</p>				
フィードバックの方法	授業初めに、前回の授業のフィードバックから始めていきます。				
基準成績評価	定期試験60%、小テスト15%、レポート15%、授業態度10%により、総合的に評価します。				
受講の心構えとセッション	<p>環境分野の基礎的な知識には、近年話題になっている PM2.5や二酸化炭素の排出など、社会の一員として理解が求められる広域的な環境問題を含めます。</p> <p>雑木林や水田で観察できる動植物は、春から夏にかけて観察できる種を対象とし、キャンパス内を中心とした野外観察を実施します。</p> <p>図鑑や WEB ページを活用した情報収集と整理を必要とすることがあります。</p> <p>対象とする動植物は代表的な種に限ることとし、詳細な分類には踏み込みません。</p> <p>予習：この授業では予習は求めません。</p> <p>復習：助言を付して返却を受けた「授業記録」を用いて授業内容を振り返ってください。この振り返りは、90分から120分前後の学習時間を要します。</p>				
その他					

## 授業内容進行表

1 回	<環境と人間の関係について> 人が自然に影響を及ぼしている事例について学び、「環境と人間」の目的を理解する
2 回	<「里山」について> 人が関わることによって環境が維持されている里山について学び、キャンパス内の生きもの観察を行う
3 回	<こどもと自然体験について> 子どもの豊かな人格形成に及ぼす自然体験の役割と、指導者の適切な関わり方について学ぶ
4 回	<「コウノトリの野生復帰事業」について> コウノトリの絶滅要因、絶滅要因への対応について学ぶ
5 回	<「生物多様性」の事例について> 水辺の生態系について学び、戸牧地区の農地の生きもの分析・評価を行う
6 回	<「生物多様性の維持・保全・回復」について> 河川の魚道、水田魚道、里山の裾刈り、ひょうご元気マツの開発等について学ぶ
7 回	<里山・水田の生き物について> 水田の生態系を学び、カエルの卵塊や幼生（オタマジャクシ）、ミジンコ等の観察を行う
8 回	<「生物多様性」と関係条約について> 生物多様性の重要性、絶滅の要因、ワシントン条約、ラムサール条約、生物多様性条約について学ぶ
9 回	<広域的な環境問題について> 地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、PM2.5について学ぶ
10 回	<身近な樹木について> 子どもと自然との関わりを支援する上で必要な樹木に関する基礎的な知識を学ぶ
11 回	<身近に生育・生息する危険な生き物について> 自然とふれあう活動を計画する上で必要な危険生物に関する基礎的な知識を学ぶ
12 回	<アニマルトラッキングについて> 足跡や残された糞、爪跡などのフィールドサインについて学び、キャンパス内のフィールドサインを分析・評価する
13 回	<自然体験の指導・支援について> 子どもの発達段階に応じた自然体験、幼児に望ましい自然体験、自然体験を支援するための留意点などについて学ぶ
14 回	<フィールドマップの作成> 「環境と人間」で習得した知識を活用して、キャンパス周辺の生き物地図を作成し、活用方法を考案する
15 回	<フィールドマップの発表> 完成したフィールドマップを発表し、質疑・応答を通して、情報交換を行う
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こども環境学	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	西村 豊喜 西村 重喜
実務経験の概要				
授業概要	<p>&lt;自然環境&gt; 幼児期の教育において、自然や動植物とのかかわりが欠かせません。本授業では、「自然や動植物」と関わろうとする幼児を支援するために必要な「自然や動植物」及び「自然環境」に関する基礎知識を習得し、野外での幼児の遊びに通ずることを目指します。</p> <p>&lt;社会環境&gt; こどもが育つ上で、家庭環境も含めた社会環境は大きな意味を持ちます。その社会環境がどのように変化し、どのような影響を子どもたちに与えてきたのか、現在の社会環境はどのような状況になっているのかを多角的に考える機会とします。</p>			
授業科目の目的	<p>&lt;自然環境&gt; この授業では、身近な自然環境について理解を深め、子どもと自然との関わりを促すための基礎的知識や野外での子どもの遊びを支援する方法を習得します。</p> <p>&lt;社会環境&gt; この授業では、こどもの成長にかかわる家庭を含めた社会環境を多角的な視点から見つめることによって、社会環境がこどもにどのような影響を与えるのかを理解できるようになります。</p>			
学習成果	<p>&lt;自然環境&gt; 1. 幼児が自然に親しむきっかけを与える能力を身につけることができますようにします。 2. 幼児を野外に引率する際に必要な安全確保に関する基礎的知識を身につけることができますようにします。</p> <p>&lt;社会環境&gt; 3. こどもと家族を含めた社会環境の関わりや現代のこどもに関わる様々な問題を多角的に考察することができますようにします。</p>			
テキスト	講義用に作成したプリント等を必要に応じて、その都度配付します。			
参考書	<p>&lt;自然環境&gt; 自然観察ハンドブック／日本自然保護協会／平凡社 野外における危険な生物／日本自然保護協会／平凡社</p> <p>&lt;社会環境&gt; こども学序説 変わる子ども変わらぬ子ども／浜田寿美男／岩波出版／1,980円 ニッポン一億総活躍プラン／内閣官房一億総活躍推進室</p>			
フィードバックの方法	<p>&lt;自然環境&gt; 授業終了時に、授業記録の提出を求め、提出を受けた授業記録には助言を付して返却します。</p> <p>&lt;社会環境&gt; 授業終了時に、振り返りプリントの提出を求め、提出を受けた振り返りプリントには助言を付して返却します。</p>			
成績抽査	定期試験60%、小テスト15%、レポート15%、授業態度10%により、総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>&lt;自然環境&gt; 予習：この授業では予習は求めません。 復習：助言を付して返却を受けた「授業記録」を用いて授業内容を振り返ってください。この振り返りには、90分から120分前後の学習時間を要します。また、生き物の種名と実体は、通学、教室移動などの機会に繰り返し確認を行ってください。2つのレポート作成に向けて、関連する書籍を読んだり、身近な自然を意識して、観察することに取り組んでください。</p> <p>&lt;社会環境&gt; 予習：各回の授業テーマについて、身近な年代の異なる人たちと話をしたり、書籍を読んだり、学ぶ前の準備に取り組んでください。この予習には90分から120分程度の学習時間を要します。 復習：助言を付して返却を受けた振り返りプリントを用いて授業内容を振り返ってください。この振り返りには90分から120分前後の学習時間を必要とします。</p>			
その他	<p>&lt;自然環境&gt; 「身近な自然」、「幼児の遊び」に関するレポート課題を課します。 希望に応じて、野菜草花の栽培を行います。</p>			

## 授業内容進行表

1 回	<自然環境1> こどもと自然体験 自然体験の指導・支援について
2 回	<社会環境1> 移り変わる社会の中のこども
3 回	<自然環境2> 人里に生息・生育する生き物(1) 春に確認できる代表的な生き物、身近な生き物に親しむ子どもの遊び（収集・整理）
4 回	<自然環境3> フィールド観察(1) キャンパス及び周辺の生き物の確認、子どもの遊び（体験）
5 回	<社会環境2> こどもと家族（こども観の変遷と多様な家族のあり方）
6 回	<自然環境4> 身近に生育・生息する危険な生き物(1) 危険な動植物と対応方法、安全確保の方法
7 回	<自然環境5> 身近に生育・生息する危険な生き物(2) 危険な動植物と対応方法、安全確保の方法
8 回	<社会環境3> こどもと貧困（変遷と現状）
9 回	<自然環境6> フィールドマップの作成(1) フィールドマップ対象エリアの決定、フィールドマップに記載する情報の整理
10 回	<社会環境4> 「子育て」：誰が担うのか、担ってきたか（晩婚化、未婚化との関係において）
11 回	<自然環境7> 人里に生息・生育する生き物(2) 初夏に確認できる代表的な生き物、身近な生き物に親しむ子どもの遊び（収集・整理）
12 回	<自然環境8> フィールド観察(2) キャンパス及び周辺の生き物の確認、子どもの遊び（体験）
13 回	<社会環境5> 「子育て」政策と今後について ニッポン一億総活躍プラン、働き方改革実現会議
14 回	<自然環境9> フィールドマップの作成(2) フィールドマップに記載する情報の整理、フィールドマップの完成
15 回	<自然環境10> フィールドマップの発表 フィールドマップの発表、質疑応答と講評
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
憲 法		1年・前期	講義	30時間 (2単位)	野 畑 健太郎
実務経験の概要					
授 業 概 要	<p>保育者をめざす学生にとって「憲法」を学ぶ意味は何かという視点から、日本国憲法の人権保障と統治機構に関する主要な諸規定や基本的諸事項についての分かりやすい説明を行います。考察の対象となる憲法諸規定の解説については、可能なかぎり判例や有権解釈に触れつつ、通説の見解に基づいた解説を行います。</p> <p>授業では、憲法への親しみが湧くよう、ビジュアルな要素を取り入れたパワーポイントによる授業を実施します。</p>				
授 業 科 目 の 目 的	<p>この授業では、近代憲法の嫡流にあり、現代憲法的特徴をも有する日本国憲法を考察対象として、近代憲法および現代憲法の価値・原理を内包する日本国憲法の特徴を理解することをねらいとします。とりわけ、日本国憲法の基本原理および人権保障についての学修が、本学の教育方針中の「専門職業人としての基本的な倫理観を養うとともに、他人を思いやる心を培う」という教育目標の達成に、また、〈日本国憲法の統治機構〉および〈憲法成立に至る経緯とその後の展開〉についての学修が、「社会・歴史に対する深い洞察力を身に着けるとともに、豊かな人間性を培う」という教育目標の達成に資することを目的としています。</p>				
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本国憲法に関する基本的事項を修得し、修得事項を保育と関連づけることができるようになります。</li> <li>2. 日本国憲法の基本原理と人権保障・統治構造の概要を説明できるようにします。</li> <li>3. 日本国憲法の基本的な諸規定について通説・判例の見解を説明できるようにします。</li> </ol>				
テ キ ス ト	<p>現代憲法概説／上田正一／嵯峨野書院 毎回、授業内容に関するプリントを教材として配布します。</p>				
参 考 書	<p>憲法（第六版）／芦部信喜（高橋和之補訂）／岩波書店 憲法学事始（第2版）／野畑健太郎・東 裕 編／一学舎</p>				
フ ィ ィ ッ ド バ ッ ク の 方 法	<p>毎回行う「確認テスト」問題の答え合わせを次回の授業のはじめに全員で行い、理解が不十分と思われる点については、教員がその都度説明を加えるようにします。</p>				
成 績 評 価 基 準	<p>授業態度・確認テスト30%、定期試験70%により総合的に数量化して評価します。</p>				
メ ッ セ ー ジ と 受 講 の 心 構 え	<p>「日本国憲法」は、社会科の教科書にも出てくる基本学習項目で、「とっつきやすい」科目といえますが、憲法は間口が広いとともに、法律科目の中でも、特に奥行きが深い科目です。憲法に関する多量で多様な事柄に接したとき、何を、どのように学べばよいのか、戸惑いを感じる受講者が少なくないと思います。</p> <p>確かな学びの獲得のためには、以下の予習・復習が必要です。</p> <p>予習：各回の授業内容には、〈テーマ〉と学びのキーワードが設けられています。次回授業用の配布資料には、〈テーマ〉とキーワードを学ぶための基本的事項・重要事項を記載しています。予習では、キーワードに関する基本的事項・重要事項を理解できるように熟読し、理解できない事項は課題として残して、次回の授業に臨んでください。講義は、理解できた事項を確認し、理解できなかった事項について理解の助けとなる説明を行うことを眼目とします。この予習には約90分から120分の学習時間を要します。</p> <p>復習：授業で学んだ「日本国憲法」に関する基本的事項・重要事項を「保育と関連づけることができるように」、さらには、自分なりに「説明できるように」復習してください。この復習には約90分から120分の学習時間を要します。</p>				
の そ の 他 事 項	<p>授業中の私語を禁じます。他の学生の聴講を妨害し、注意しても私語を繰り返す学生には、退出を求めます。</p>				

## 授業内容進行表

1 回	<保育・保育者と日本国憲法> 1.憲法とは何か 2.立憲主義
2 回	<日本憲法の成立と基本原理> 1.明治憲法の特質 2.日本国憲法の制定 3.日本国憲法的基本原理
3 回	<象徴天皇制と平和主義> 1.天皇の地位と権能 2.平和主義と憲法第9条
4 回	<人権宣言の歴史と人権の観念> 1.近代的人権宣言の確立と歴史 2.人権の観念 3.新しい人権
5 回	<人権の享有主体と人権保障の限界> 1.人権の享有主体 2.権利制約の概念（公共の福祉） 3.私人間における人権保障
6 回	<個人の尊重と幸福追求権> 1.個人の尊重 2.幸福追求権 3.憲法13条から導出される人権
7 回	<法の下での平等> 1.平等原則・平等権 2.不合理な差別の禁止
8 回	<信教の自由・学問の自由> 1.思想・良心の自由 2.信教の自由 3.政教分離 4.学問の自由
9 回	<表現の自由> 1.表現の自由 2.知る権利 3.集会・結社の自由
10 回	<人身の自由・経済的自由> 1.適正手続の保障 2.被疑者の権利 3.被告人の権利 4.残虐刑の禁止 5.職業選択の自由
11 回	<社会権> 1.生存権と社会権 2.環境権 3.教育を受ける権利 4.労働権 5.労働基本権
12 回	<国務請求権・参政権> 1.裁判を受ける権利 2.国家賠償権 3.公務員の選定・罷免権 4.国民の義務
13 回	<国会> 1.三権分立 2.国会の地位と権限
14 回	<内閣> 1.内閣の組織と権限 2.議院内閣制
15 回	<裁判所> 1.司法権の独立 2.違憲審査権 3.裁判員制度
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
情報リテラシーと処理技術		1年・前期	演習	30時間 (2単位)	西村重喜之 大塚貴之
実務経験の概要	西村：中学校の特別支援学級にて教科担任を2年間経験。幼稚部を有する特別支援学校に校長として3年間勤務。				
授業概要	コンピュータのハードウェア及びソフトウェアに関する「基礎知識」、情報セキュリティ対策や著作権の保護などの「情報モラル」について学びます。さらに、パーソナルコンピュータを使用して、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト等の活用技術習得に向けた演習を行います。				
授業科目の目的	コンピュータのハードウェア及びソフトウェアに関する基礎的知識の習得を図ります。情報セキュリティ対策や著作権の保護などの「情報モラル」について理解を深めます。ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト等を保育士や幼稚園教諭等の立場で活用する技術の習得を図ります。				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. パソコンの仕組みと基本操作を理解することができるようにします。</li> <li>2. インターネットの基本概念を理解し、活用する能力を身につけることができるようにします。</li> <li>3. 情報倫理・情報管理、情報セキュリティについての知識と能力を身につけることができるようにします。</li> <li>4. ワープロソフトを活用し、文書や図を作成する能力を身につけることができるようにします。</li> <li>5. 表計算ソフトを活用し、表、グラフを作成する能力を身につけることができるようにします。</li> <li>6. プレゼンテーションソフトを活用し、説明する能力を身につけることができるようにします。</li> </ol>				
テキスト	授業内でプリント等を配付します。				
参考書	改訂新版 よくわかる情報リテラシー (標準教科書) / 技術評論社 演習でまなぶ 情報処理の基礎 / 朝倉書店 保育者のためのパソコン講座 Windows10/8.1/7対応版 / 萌文書林 新・コンピュータ解体新書 [第2版] / サイエンス社				
フィードバックの方法	小テストの結果は、次回授業で返却し、理解が十分でない箇所について、再度説明します。				
成績評価基準	定期試験(筆記試験と実技試験で構成)60%、提出課題等30%、学習態度10%により総合的に評価します。				
受講の心構えとメッセージ	授業の始めに、基礎的な知識と技能の習得を評価するショートテストを実施します。パーソナルコンピュータを使用する演習では、文書、表、スライド等の提出を課します。講義で学んだパソコン操作に習熟するため、日々30分程度の復習を行ってください。ブラインドタッチ習得のため、日々10分程度、次回内容を入力する予習を行ってください。				
その他事項	ショートテストや定期試験(実技試験)は、ブラインドタッチができることを前提に実施します。進捗状況、環境などの関係により、授業順序・内容が変更になる場合があります。				

## 授業内容進行表

1 回	< Windows 操作 > 起動、ファイル管理、ブラウザ操作、プリンタ管理、ソフトウェア起動方法の理解
2 回	< ワープロソフト基本 1 > 文字情報、フォント設定、レイアウト設定、ヘッダーの活用、文章入力、罫線処理
3 回	< ワープロソフト基本 2 > 文書レイアウトの設定、図形挿入、画像挿入、印刷操作
4 回	< 表計算ソフト基本 1 > フォント設定、シートの活用、罫線処理、ヘッダーの活用、印刷操作
5 回	< 表計算ソフト基本 2 > セルの書式設定、図形挿入、画像挿入
6 回	< ワープロソフト応用 1 > 文書体裁関連用語の理解、文書体裁、文字体裁、オートコレクト
7 回	< ワープロソフト応用 2 > テキストボックスの活用、「おたより」の作成演習
8 回	< 表計算ソフト応用 1 > 計算式と関数
9 回	< 表計算ソフト応用 2 > 表の作成と関数を使った集計
10 回	< 表計算ソフト応用 3 > グラフの作成
11 回	< プレゼンテーションソフト 1 > 入力、印刷、スライドショー
12 回	< プレゼンテーションソフト 2 > アニメーション、画面切り替え、オブジェクトの活用
13 回	< 情報モラル > 知的財産、著作権、個人情報の保護の理解
14 回	< 情報セキュリティ > 情報の機密性・完全性・可用性、情報漏洩と対策。情報漏洩と防止、ネットワーク対策の理解
15 回	< ICT 活用の展望 > ユビキタスコンピューティング、クラウドコンピューティング、VR、AR、IoT についての理解
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
健康科学	1年・後期	講義	15時間 (1単位)	椿 武
実務経験の概要				
授業概要	健康科学のテキストとスポーツに関する視聴覚教材を使用した講義と演習で科学的な根拠に根ざした健康づくりを学びます。グループでの話し合いやその内容の発表も行います。			
授業科目の目的	日々、健康で勉学や仕事に打ち込むには、心身ともに健康でなければなりません。今日、私たちを取り巻く社会や環境、生活の変化は、私たちの健康に多大な影響を及ぼしています。本講義では、そのことについて客観的に分析し、科学的な健康づくりを学ぶことにより、自己の健康づくり及び幼児から高齢者までの健康づくりの指導ができるようになることを目的としています。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の体力増進や健康管理ができるとともに、指導者として自己や周囲の人への運動処方を考えることができるようになります。</li> <li>2. 救命救急措置や熱中症などの知識を深め、その対策や指導力を身につけるとともに、生涯における健康な生活設計（薬物・アルコール・たばこ・エイズ等）への自己の認識を確立し、実践できるようにします。</li> </ol>			
テキスト	随時配付します。			
参考書	健康科学／長谷川定宣／豊岡短期大学			
フィードバックの方法	発表や課題については、授業の中でその内容を取りあげてフィードバックし、理解をより深められるようにしていきます。			
成績評価基準	意欲・関心・態度10%、グループ活動、発表及び課題30%、定期試験60%により総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	日頃からの自己の健康管理を考え実践してください。また、予習・復習としては、学外でのスポーツやレクリエーションに取り組み、科学的な根拠に基づく健康づくりを実践することを求めます。この予習や復習には各々90分から120分を要します。			
その他				

## 授業内容進行表

1 回	健康な生活設計 自己の健康管理について、喫煙・飲酒が及ぼす身体影響を考える
2 回	運動の基礎理論 トレーニング方法及び現代人の運動不足と健康管理について学ぶ
3 回	運動生理学 運動と呼吸、運動と筋肉、運動と神経について知識を深める
4 回	救命救急 救命救急処置についての知識と処置法、AEDの取り扱い方を学ぶ
5 回	運動処方1 運動処方について学ぶとともに、毎夏に運動場面で多発している熱中症の対処法を学ぶ
6 回	運動処方2 ウォーミングアップとクーリングダウンについて
7 回	健康日本21 「健康日本21」から自己の健康への課題を探る
8 回	生活と運動 自己のライフスタイルでの健康づくりを学ぶ
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
スポーツ (実技)	1年・前期	実技	30時間 (1単位)	野口和也 大塚貴之
実務経験の概要				
授業概要	<p>スポーツの多様な価値観や特性を理解し、各種のスポーツを仲間とともに体験するなかで、スポーツをする・みる・ささえるなど様々な関わり方を学びます。</p> <p>仲間と身体活動を行う中で自己の体力向上及び健康の保持増進を図り、保育者や指導者としての子供達への指導法や競技の運営についても考えていきます。</p>			
授業科目の目的	<p>生涯にわたり有意義な生活を送るために、運動やスポーツを自ら実践し体力を向上するとともに、生涯スポーツを理解することを目的とします。</p> <p>自己の身体特性や技術水準に合わせて、個人・集団で安全・公正にスポーツを楽しむ態度や社会的スキルを養うとともに、健康の保持・増進に向けて、継続的な運動習慣を身に付けることを目指します。</p> <p>各種のスポーツを仲間とともに楽しみ、競技の運営方法や自己の体力向上及び健康の保持・増進について学び考えていきます。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. スポーツの多様な価値観や特性を理解し、技能向上を図ることができるようにします。</li> <li>2. 個人・集団で安全・公正にスポーツに楽しむ態度や社会的スキルを獲得できるようにします。</li> <li>3. ニュースポーツについて体験し、指導する際の知識・技能を獲得できるようにします。</li> </ol>			
テキスト				
参考書	健康科学／長谷川定宣／豊岡短期大学			
フィードバックの方法	<p>技能獲得は各スポーツ実技の中で課題を行っていき、その結果は、次回以降の授業時にフィードバックします。</p> <p>定期試験の結果については、教務学生課での成績公表後、希望者が各自で研究室に訪問した際にフィードバックします。</p>			
成績評価基準	授業態度20%、技能獲得30%、定期試験50%により総合的に評価します。			
受講の心構えとセッション	<p>本授業を通して、スポーツをすることの意味をあらためて考えてみましょう。また、スポーツの新たな魅力や関わり方を発見することが大切です。スポーツ (実技) は参加してこそ、そのスポーツの本来の楽しさを味わうことができます。見学・欠席しないように日頃の健康管理を実践してください。</p> <p>予習：授業各回に行う種目について、書籍やインターネットを使って、その特性、技能やルール等について調べてみてください。この予習には45分を要します。</p> <p>復習：体験した身体運動活動のなかで、自分自身で感じたことをまとめながら、余暇を使ってスポーツやレクリエーションに取り組んでください。この復習には45分を要します。</p>			
その他	<p>毎時間、運動のできる服装・シューズを準備し、指導者 (保育士) の心構えを身につけよう。</p> <p>環境や安全性などの条件により、内容の変更、順番の変更が発生する場合があります。</p>			

## 授業内容進行表

1 回	ガイダンス スポーツ実技の受講における心構えとスポーツの運営について学ぶ
2 回	安全なスポーツの運営について 安全なスポーツの運営をする上での体力づくりや安全面・体の可動について体験する
3 回	ニュースポーツ 1 ディスク競技を楽しむ
4 回	ニュースポーツ 2 アルティメットを楽しむ
5 回	球技 1 バレーボールの基本練習・ルールについて学ぶ
6 回	球技 2 バレーボールの技術上達を目指し、作戦を立ててゲームを行い、審判も学ぶ
7 回	ニュースポーツ 3 フラッグフットボールを楽しむ
8 回	ニュースポーツ 4 ラージボール卓球を楽しむ
9 回	球技 3 バトミントンの基本練習で技能の上達を図る
10 回	球技 4 バトミントンにおいてダブルスの基本練習・応用練習・ルールを学びゲームを楽しむ
11 回	球技 5 卓球の基本練習で技能の上達を図る
12 回	球技 6 卓球においてダブルスでゲームを楽しむ。リーグ戦を行う
13 回	ニュースポーツ 5 キンボールを楽しむ
14 回	ニュースポーツ 6 フラッグフットボールを楽しむ
15 回	まとめ 授業のまとめ
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
英語コミュニケーション		1年・後期	演習	30時間 (2単位)	西 村 豊
実務経験の概要					
授業概要	テキストは保育園での生活を題材にしたものです。保育園での1年間の様子が描かれた英文を読み、園生活のさまざまな場面での保育者と子どもや保護者との会話に使われる英語表現を学習します。				
授業科目の目的	急速にグローバル化が進む現代社会において、幼稚園や保育所に日本語を母語としない外国人の園児が入園してくることもあり、英語を使う機会も増えています。保育の現場に必要な基本的な英語表現を身につけることを目的とします。また、英語を学ぶことを通じて、日本語の表現力の向上も目指します。				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育園での生活に関する英文を読み、保育園に関する理解を深めることができますようにします。</li> <li>2. 保育者と子どもや保護者との会話に使われる英語表現を身につけることができますようにします。</li> <li>3. 保育者と子どもや保護者との会話に使われる英語表現を学ぶとともに、日本語との違いや日本語に対する意識も高め、表現力を向上させることができますようにします。</li> <li>4. 「将来の職場」である園生活の具体的な場면을学習していく中で、未来の保育者という能動的な態度・意識を身につけることができますようにします。</li> </ol>				
テキスト	新・保育の英語／森田和子／三修社				
参考書	保育の英会話／赤松直子・久富陽子／萌文書林 保育英語の練習帳／宮田 学・高橋妙子／萌文書林				
の方法 のフィードバック	授業のノートを提出してもらい、点検します。その中で、ノートがしっかりと取れておらず、理解が不十分と思われる項目等について追加説明を行います。 単元ごとに小テストを実施し、次の授業時に返却します。その結果の分析から理解が不十分と思われる箇所については、再度説明を行います。 各単元の2回目の授業では、1回目の授業のフィードバックからはじめていきます。				
成績評価基準	定期試験60%、小テスト・ノート30%、授業態度10%で総合的に評価します。				
受講の心構えと セッション	<p>テキストと英和辞書、ノートを持参し、積極的に授業に取り組んでください。 辞書は電子辞書ではなく紙の辞書をできるだけ活用してください。 ノートは新しいA4版のノートを用意してください。授業ノートのつくりかたについては最初の授業で指導します。</p> <p>予習：授業内容進行表を参考にして、授業予定箇所をノートに写し、辞書を用いて分からない単語・熟語を調べ、本文の読解や演習問題を解いておく。この予習には90分～120分を要します。</p> <p>復習：各単元ごとに、まとめの小テストを実施します。そのためにも、授業の終わった後に、必ず学習したことについての復習をしてください。特に分からない箇所については必ず分かるようにしてください。この復習には90分から120分を要します。</p>				
のその他					

## 授業内容進行表

1 回	< Grammar 1 > 一般動詞・ be 動詞・五文型
2 回	< 1 The School Year Begins > 本文の読解
3 回	< 1 The School Year Begins > 基本表現、演習
4 回	< 2 Arrival > 本文の読解
5 回	< 2 Arrival > 本文の読解
6 回	< 3 Playtime in the Classroom > 本文の読解
7 回	< 3 Playtime in the Classroom > 基本表現、演習
8 回	< 4 In the Sandbox > 本文の読解
9 回	< 4 In the Sandbox > 基本表現、演習
10 回	< 5 In the Playground > 本文の読解
11 回	< 5 In the Playground > 基本表現、演習
12 回	< 6 Lunchtime > 本文の読解
13 回	< 6 Lunchtime > 基本表現、演習
14 回	< 7 Changing Clothes and Story Time > 本文の読解
15 回	< 7 Changing Clothes and Story Time > 基本表現、演習
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
キャリアアップ I	1年・前期	演習	15時間 (1単位)	担当教員
実務経験の概要				
授業概要	<p>社会人として必要な知識・スキルと、保育者として活躍するための知識・スキルの向上を目指します。本講では、「作文」「礼儀作法」「保育」の三分野から、建学の理念に基づく人材の養成を行うため、キャリアアップを図ります。「作文」は、観察から文章を書く学習と、発表することを通して教養と文章表現・コミュニケーション力の習得を目指して展開していきます。「礼儀作法」は、社会人・保育者として基本的な礼儀・作法を実践的に学びます。「保育」は、保育者としての保育観察等を通して実習や専門職に就くための力をつける授業を展開します。</p>			
授業科目の目的	<p>学生一人ひとりが、本学の建学の理念や3つのポリシー〈アドミッション・カリキュラム・ディプロマ〉に基づいたキャリアアップを図り、将来の自分をイメージしながら、社会で活動するための力を養うことが目的です。社会人・保育者として必要なマナーや教養を身につけることを目指します。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会人・保育者として基本的な礼儀・作法を身につけることができますようにします。</li> <li>2. 社会人・保育者として必要な教養を身につけ、実践することができますようにします。</li> <li>3. 文章表現力と発表力等のコミュニケーション力の習得ができ、豊かな表現ができるようになります。</li> </ol>			
テキスト	授業の中でプリントを配布します。			
参考書	授業の中で適宜紹介します。			
フィードバックの方法	<p>毎回の授業での課題や小テストの結果を返却する際に、教員から助言を行い、弱点の補強を行います。また、前回の学習内容を毎回の授業の冒頭で説明することで、理解を深めます。</p>			
成績評価基準	<p>上記の3つの学習成果について、実技、小テスト、レポート提出、授業態度・意欲により達成度を評価します。</p> <p>「作文」は、授業態度・意欲30%、課題70%として総合的に評価します。</p> <p>「礼儀作法」は、授業態度・意欲30%、実技テスト70%として総合的に評価します。</p> <p>「保育」は、授業態度・意欲30%、課題70%として総合的に評価します。</p> <p>総合評価基準は、作文30%、礼儀作法30%、保育40%の割合で評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>「作文」、「礼儀作法」、「保育」、いずれの分野も皆さんが社会に出て働く際に、基本となるものです。毎回の授業の課題には、主体的・積極的に取り組んでください。また、毎回の学びは、日常生活の中でもすぐに実践できるものでもあります。授業後には、復習として、配布された資料をよく読み返し、自分なりのまとめのノートを作成し、より理解を深めてください。</p> <p>また、保育指導案などは、各自で予習として下書きするなどの準備を行ってください。復習は、授業で学んでことを加筆したり修正を加えるなど、まとめに取り組んでください。予習復習は、各々90分から120分程度を要します。</p>			
その他	配布されたプリント類は、各自ファイルに綴じておくこと。			

## 授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション 建学の理念に基づく教養的学習成果> 有用な社会人、保育者になるために（作文・礼儀作法・模擬保育）
2 回	<作文1> 表記について 観察記録について
3 回	<作文2> 文章の流れ、自己紹介文の作成
4 回	<礼儀作法1> 服装・身だしなみ 敬語の使い方（理論と実践） 聞き取りやすい話し方（理論と実践） 電話のかけ方の基本（実習依頼の仕方）
5 回	<礼儀作法2> 食事のマナー（箸の使い方）、お茶の入れ方、出し方 清掃の基本（雑巾のしぼり方・拭き方、箸の使い方 実践）
6 回	<保育1> 模擬保育実践 保育指導案 保育記録
7 回	<保育2> 模擬保育実践 保育指導案 保育記録
8 回	<保育3> 模擬保育実践 保育指導案 保育記録
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
キャリアアップⅡ	1年・後期	演習	15時間 (1単位)	担当教員
実務経験の概要				
授業概要	<p>社会人として必要な知識・スキルと、保育者として活躍するための知識・スキルの向上を目指します。本講では、「社会情勢の理解」「保育」の二分野から、建学の理念に基づく人材の養成を行うため、キャリアアップを図ります。「社会情勢の理解」は、時事問題をテーマに自分なりの考えをまとめたり、ディスカッションを行い、社会を理解する力を養います。「保育」は、保育者としての保育観察等を通して実習や専門職に就くための力をつける授業を展開します。</p>			
授業科目の目的	<p>「キャリアアップⅠ」の学びをより深め、学生一人ひとりが、本学の建学の理念や3つのポリシー(アドミッション・カリキュラム・ディプロマ)に基づき、自身のキャリアをさらに向上させ、社会で活動するための力を養うことが目的です。社会人・保育者として必要なマナーや教養を身につけ、実践していくことを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会人・保育者として、社会情勢を理解し、自分の意見を言えることができますようにします。</li> <li>2. 社会人・保育者として、社会の問題の解決策を模索することができますようにします。</li> <li>3. 社会人・保育者として、時代のニーズに合った保育計画を立て、実践することができますようにします。</li> </ol>			
テキスト	授業の中でプリントを配布します。			
参考書	授業の中で適宜紹介します。			
フィードバックの方法	<p>毎回の授業での課題や小テストの結果を返却する際に、教員から助言を行い、弱点の補強を行います。また、前回の学習内容を毎回の授業の冒頭で説明することで、理解を深めます。</p>			
成績評価基準	<p>上記の3つの学習成果について、実技、小テスト、レポート提出、授業態度・意欲により達成度を評価します。</p> <p>「社会情勢の理解」は、授業態度・意欲30%、課題70%として総合的に評価します。</p> <p>「保育」は、授業態度・意欲30%、課題70%として総合的に評価します。</p> <p>総合評価基準は、社会情勢の理解50%、保育50%の割合で評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>「社会情勢の理解」、「保育」、どちらの分野も今後保育者として社会で働く際に必要となる学びです。毎回の授業の課題のみならず、日常生活の中でも、しっかりアンテナを張ってください。</p> <p>各授業の予習としては、新聞やテレビからニュースを抽出し、自分なりの考えをまとめるようにしてください。</p> <p>授業後には、復習として、配布された資料をよく読み返し、自分なりのまとめのノートを作成し、より理解を深めてください。予習復習には各々90分から120分程度を要します。</p>			
その他	配布されたプリント類は、各自ファイルに綴じておくこと。			

## 授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> これからの社会を生きていく上で、社会をどう理解するか、子どもを取り巻く社会の理解（社会情勢の理解、保育）
2 回	<社会情勢の理解1> 時事問題を読み解く 時事問題でディスカッション
3 回	<社会情勢の理解2> 時事問題を読み解く 時事問題でディスカッション
4 回	<社会情勢の理解3> 時事問題を読み解く 時事問題でディスカッション
5 回	<保育1> 模擬保育実践 保育指導案 保育記録
6 回	<保育2> 模擬保育実践 保育指導案 保育記録
7 回	<保育3> 模擬保育実践 保育指導案 保育記録
8 回	<保育4> 模擬保育実践 保育指導案 保育記録
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
キャリアアップⅢ	2年・前期	演習	15時間 (1単位)	担当教員
実務経験の概要				
授業概要	<p>社会人として必要な知識・スキルと、保育者として活躍するための知識・スキルの向上を目指します。本講では、「社会情勢の理解」「小論文」「保育」の3つの分野から、建学の理念に基づく人材の養成を行うため、キャリアアップを図ります。「社会情勢の理解」は、時事問題をテーマに自分なりの考えをまとめたり、ディスカッションを行い、社会を理解する力を養います。「小論文」は、自身の考え方を論理的にまとめ上げ、文章表現し、校正する力を養います。「保育」は、保育者としての保育観察等を通して実習や専門職に就くための力をつける授業を展開します。</p>			
授業科目の目的	<p>「キャリアアップⅠ」「キャリアアップⅡ」の学びをより深め、卒業後のビジョンを明確に持ち、社会の中で、自身の意見をきちんと表明し、より豊かな生活を送られるように、学生一人ひとりが、本学の建学の理念や3つのポリシー（アドミッション・カリキュラム・ディプロマ）に基づいた、自身のキャリアアップを目指します。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会人・保育者として、社会情勢を理解し、自分の意見をまとめ、討論することができるようにします。</li> <li>2. 社会人・保育者として、自身の考え方を論理的に文章にまとめることができるようにします。</li> <li>3. 社会人・保育者として、質の高い保育計画を立て、実践することができるようにします。</li> </ol>			
テキスト	授業の中でプリントを配布します。			
参考書	授業の中で適宜紹介します。			
フィードバックの方法	<p>毎回の授業での課題や小テストの結果を返却する際に、教員から助言を行い、弱点の補強を行います。また、前回の学習内容を毎回の授業の冒頭で説明することで、理解を深めます。</p>			
成績評価基準	<p>上記の3つの学習成果について、実技、小テスト、レポート提出、授業態度・意欲により達成度を評価します。</p> <p>「社会情勢の理解」は、授業態度・意欲30%、課題70%として総合的に評価します。</p> <p>「小論文」は、授業態度・意欲30%、課題70%として総合的に評価します。</p> <p>「保育」は、授業態度・意欲30%、課題70%として総合的に評価します。</p> <p>総合評価基準は、社会情勢の理解30%、小論文30%、保育40%の割合で評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>「社会情勢の理解」、「小論文」、「保育」、どの分野も、社会人として必要なスキルであります。また、「先生」と呼ばれる職につく際には、自身の考えを論理的にまとめ上げる力も必要になります。各授業の復習としては、各回の授業で学んだ内容を400字程度で文章にまとめ読み返してください。そうすることで、読みやすい文章力を身につけることができます。</p> <p>また、予習としては、時事問題でのディスカッションの準備として、ニュースをまとめたり、保育の指導案の作成など、事前準備をしておいてください。復習は、授業で学んだことを加筆したり修正を加えるなど、まとめに取り組んでください。予習復習は、各々90分から120分程度を要します。</p>			
その他	配布されたプリント類は、各自ファイルに綴じておくこと。			

## 授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 社会人になるための知識・スキルの向上 保育者としての知識・スキルの向上 (社会情勢の理解、小論文、保育)
2 回	<社会情勢の理解1> 時事問題を読み解く 時事問題でディスカッション
3 回	<社会情勢の理解2> 時事問題を読み解く 時事問題でディスカッション
4 回	<小論文1> 小論文とは 小論文の書き方の基本(原稿用紙の使用方法を含む) 小論文の作成
5 回	<小論文2> 小論文の作成、文章の校正
6 回	<保育1> 模擬保育実践 保育指導案 保育記録
7 回	<保育2> 模擬保育実践 保育指導案 保育記録
8 回	<保育3> 保育者としてのマナー
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 有 ・ (無)	



# カリキュラム一覧

授業科目名	開 講 期				担 当 者 名		頁	備 考
	1 年 次		2 年 次		豊岡キャンパス	姫路キャンパス		
	前期	後期	前期	後期				
<b>教科専門科目</b>								
こども家庭福祉		○			原田 敬 文	原田 敬 文	30	
社会福祉論		○			室谷 雅 美	姫路大学開講科目担当者	32	
こども家庭支援論				○	室谷 雅 美	室谷 雅 美	34	
こどもの発達と家庭支援		○			室谷 雅 美	野口・稲田	36	
健康論				○	栗岡 あけみ	栗岡 あけみ	38	
環境論				○	栗岡 あけみ	栗岡 あけみ	40	
人間関係論		○			原田 敬 文	原田 敬 文	42	
音楽表現論	○				茨木 金 吾	茨木 金 吾	44	
造形表現論				○	岩田 健一郎	岩田 健一郎	46	
こどもと造形				○	岩田 健一郎	岩田 健一郎	48	別に定める授業科目
表現とこどもの運動	○				今野 賛 (集中講義)	今野 賛	50	別に定める授業科目
こどもと体育		○			今野 賛	今野 賛	52	
幼児造形	○				岩田・大塚	岩田・大塚	54	別に定める授業科目
言葉とこどもの文化		○			長谷 雄 一 (集中講義)	長谷 雄 一	56	
こどもの保健				○	杉岡 美佐子	} 姫路大学開講科目担当者	58	
こどもの健康と安全				○	杉岡 美佐子		60	
子育て支援				○	室谷 雅 美	}	62	別に定める授業科目
保育原理	○				國光 みどり		國光 みどり	64
社会的養護Ⅰ	○				室谷 雅 美	姫路大学開講科目担当者	66	
精神保健				○	野口 和 也	野口 和 也	68	
こどもの食と栄養				○	岡崎 典 子	姫路大学開講科目担当者	70	別に定める授業科目
障害児保育	○				稲田 達 也	稲田 達 也	72	別に定める授業科目
地域ボランティア	○	○	○	○	西村 豊	稲田 達 也	74	
こどもと器楽・うた				○	茨木・田上・大江・大谷・松本	國光 みどり	76	
こどもと器楽・うたⅡ				○	茨木・田上・大江・大谷・松本	國光 みどり	78	
特別研究Ⅰ	○				担当教員	担当教員	80	
特別研究Ⅱ		○			担当教員	担当教員	82	別に定める授業科目
特別研究Ⅲ				○	担当教員	担当教員	84	
特別研究Ⅳ				○	担当教員	担当教員	86	

# カリキュラム一覧

授業科目名	開 講 期				担 当 者 名		頁	備 考
	1 年 次		2 年 次		豊岡キャンパス	姫路キャンパス		
	前期	後期	前期	後期				
<b>教職専門科目</b>								
教 職 論	○				原 田 敬 文	原 田 敬 文	88	
教 育 原 理	○				稲 田 達 也	稲 田 達 也	90	
教 育 心 理 学		○			野 口 和 也	野 口 和 也	92	別に定める授業科目
特 別 支 援 教 育			○		野 口 和 也	野 口 和 也	94	
発 達 心 理 学	○				野 口 和 也	野 口 和 也	96	
こ だ も と 文 化		○			担 当 教 員	担 当 教 員	98	別に定める授業科目
教 育 課 程 論	○				宿 南 久 美 子	宿 南 久 美 子	100	
保 育 内 容 総 論	○				宿 南 久 美 子	宿 南 久 美 子	102	
こ だ も の 指 導 法「健 康」			○		栗 岡 あ け み	栗 岡 あ け み	104	別に定める授業科目
こ だ も の 指 導 法「人 間 関 係」		○			原 田 敬 文	原 田 敬 文	106	別に定める授業科目
こ だ も の 指 導 法「環 境」			○		栗 岡 あ け み	栗 岡 あ け み	108	別に定める授業科目
こ だ も の 指 導 法「言 葉」		○			長 谷 雄 一 <small>(集中講義)</small>	長 谷 雄 一	110	別に定める授業科目
こ だ も の 指 導 法「リズム表現」	○				茨 木 金 吾	茨 木 金 吾	112	別に定める授業科目
こ だ も の 指 導 法「造形表現」			○		岩 田 健 一 郎	岩 田 健 一 郎	114	別に定める授業科目
こ だ も の 指 導 法「言語表現」			○		長 谷 雄 一 <small>(集中講義)</small>	長 谷 雄 一	116	別に定める授業科目
こ だ も の 指 導 法「音楽表現」	○	○			國 光・田上・大江・大谷・松本	國 光・田 上	118	
教 育 方 法 論	○				原 田・稲 田・大 塚	原 田・稲 田・大 塚	120	
こ だ も の 理 解 と 相 談 支 援			○		原 田 敬 文	原 田 敬 文	122	別に定める授業科目
乳 幼 児 保 育 I			○		國 光 み ど り	} 姫路大学開講科目担当者	124	別に定める授業科目
乳 幼 児 保 育 II			○		國 光 み ど り		126	別に定める授業科目
社 会 的 養 護 II		○			西 村 重 喜		128	別に定める授業科目
教 育 実 習	○	○	○	○	宿 南 久 美 子	宿 南 久 美 子	130	
教 育 実 習 事 前 ・ 事 後 指 導	○	○	○	○	宿 南 久 美 子	宿 南 ・ 國 光	132	
保 育 実 習 I	○	○			栗 岡 ・ 西 村 重	栗 岡 ・ 原 田 ・ 稲 田	134	
保 育 実 習 指 導 I	○	○	○	○	栗 岡 ・ 西 村 重	栗 岡 ・ 原 田 ・ 稲 田	136	
保 育 実 習 II			○		栗 岡 あ け み	原 田 ・ 稲 田	138	
保 育 実 習 指 導 II			○	○	栗 岡 あ け み	原 田 ・ 稲 田	140	別に定める授業科目
保 育 実 習 III			○		西 村 重 喜	原 田 ・ 稲 田	142	
保 育 実 習 指 導 III			○	○	西 村 重 喜	原 田 ・ 稲 田	144	別に定める授業科目
保 育 ・ 教 職 実 践 演 習 (幼 稚 園)			○	○	宿 南 ・ 國 光	宿 南 ・ 國 光	146	別に定める授業科目

◎專門教育科目

○教科專門科目

○教職專門科目

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こども家庭福祉	1年・後期	講義	30時間 (2単位)	原田敬文
実務経験の概要				
授業概要	子ども虐待・子どもの貧困など親子関係が不安定な状況のなかにおいて、保育士として子どもの支援について考えます。保育士が特性を活かす主な児童福祉施設についてや具体的な支援のあり方を学び、実践につなげます。			
授業科目の目的	現代社会では、子どもや家庭を取り巻く環境は複雑です。保育者として子どもたちのおかれている環境を理解するとともに、子育て支援・子どもの貧困への取り組みなどを学び、保育士として必要な基本的知識の理解を深めます。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解することができるようにします。</li> <li>2. 子どもの人権擁護について理解することができるようにします。</li> <li>3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解することができるようにします。</li> <li>4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解することができるようにします。</li> <li>5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解することができるようにします。</li> </ol>			
テキスト	子ども家庭福祉入門／新川泰弘編著／ミネルヴァ書房			
参考書	必要時に、紹介します。			
フィードバックの方法	前回の授業の振り返りを、授業の初めにおこないます。その際に、各自家庭で復習した内容の質問に対して、教員が説明します。前回までの学習内容を十分に理解したうえで、毎回の授業を始めます。			
成績評価基準	定期試験（60％）、提出物（25％）、講義への参加の態度等（15％）により総合的に評価します。			
受講の心構えとセッション	<p>子ども家庭福祉は、保育者になる皆さんが、子どもたちのおかれている環境を理解し、子ども家庭福祉に寄与できることを目的に学習を進めます。そのためには、日ごろから子どもを取り巻くニュースなどに関心を持つことが必要です。新聞の切り抜きやテレビのニュースを要約してノートにまとめておく等をおすすめします。また、それらの内容を受講生同士で話し合うことで、理解がより深まります。</p> <p>毎回の授業後には、お渡ししたプリントのキーワードを見直しておいてください。</p> <p>予習：授業の中で、予習課題を出します。テキストやインターネット、参考図書等で調べることが必要なものもあります。</p> <p>復習：授業の中で、復習課題を出します。授業中の説明や、テキスト等を用いて、整理するようにしてください。</p> <p>(予習・復習ともに所要時間90～120分)</p>			
その他事項	配布するプリントは、各自ファイルに綴じておくこと。			

## 授業内容進行表

1 回	<現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷> 子ども家庭福祉の理念と概念
2 回	<子ども家庭福祉の歴史の変遷> 現代社会と子ども家庭福祉
3 回	<子どもの人権擁護> 児童の権利に関する条約の理解
4 回	<子ども家庭福祉の制度と実施体系> 子どもの福祉に関する法律
5 回	<子ども家庭福祉の専門職> 児童福祉施設の種類
6 回	<子ども家庭福祉の現状と課題> 少子化と地域子育て支援
7 回	<母子保健と児童の健全育成> 母子保健の意義
8 回	<多様な保育ニーズへの対応> 多様な保育ニーズに対応するためのしくみ
9 回	<児童虐待・ドメスティックバイオレンスの防止> 児童虐待・ドメスティックバイオレンスについて
10 回	<社会的養護> 社会的養護とは
11 回	<障害のある子どもへの対応> 障害児の福祉
12 回	<少年非行等への対応> 少年非行の状況
13 回	<貧困・外国籍の子どもとその家庭への支援等> 貧困の現状
14 回	<次世代育成支援と子どもの家庭福祉の推進> 次世代育成支援としての子ども家庭福祉
15 回	<地域における連携・協働とネットワーク> 保育の実践場面における「連携・協働」
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
社会福祉論	1年・後期	講義	30時間 (2単位)	室谷雅美
実務経験の概要				
授業概要	<p>多様化する福祉ニーズに対する保育士としての専門職としての役割や援助方法・技術について学び、習得する。現代の社会福祉の現状や課題を知り、社会福祉の必要性について学ぶ、実践力を身につける。2000(平成12)年には社会福祉事業法が改正(社会福祉法)、介護保険制度もスタートし、その後、障害者自立支援法(現：障害者総合支援法)の施行、次世代育成支援対策、高齢者医療保険改革など、我が国の社会福祉制度は大きな変革を辿っています。このような現状において社会福祉の意義や理念、法体系などの全体像が把握できるよう、近年の社会状況を踏まえながら講義を進めていきます。</p>			
授業科目の目的	<p>一人ひとりの幸せを目指す社会福祉政策、生活の質およびフィールドにおける実践の内実は、決して十分とは言えませんが、私たちは社会福祉の実現を目指していく努力を惜しんではならないと考えます。このような視点に立って、現代社会における社会福祉の意義、理念、そして、社会福祉の制度、法体系および行財政の要旨などについて理解をします。そして、多様化する福祉ニーズに対する専門職としての役割や援助方法について学ぶことを目的とします。現代の社会福祉に関する問題や社会福祉の意義と役割を学びながら、社会福祉の体系や枠組みについて理解していきます。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における社会福祉の意義、歴史的変遷を理解することができますようにします。</li> <li>2. 社会福祉の法体系、制度及び行財政の要旨を理解することができますようにします。</li> <li>3. 社会福祉における公私の役割を理解することができますようにします。</li> <li>4. 相談援助方法及び福祉専門職の役割を理解することができますようにします。</li> <li>5. 社会福祉関連領域の概要を把握できるようにします。</li> <li>6. 利用者保護の制度、活動を理解することができますようにします。</li> </ol>			
テキスト	<p>社会福祉／新川泰弘・宮野安治著／青踏社／2019年          保育福祉小六法／保育福祉小六法編集委員会編／みらい／2020年</p>			
参考書	<p>新・基本保育シリーズ 社会福祉／松原康雄・坪 洋一・金子 充編集／中央法規／2019年</p>			
フィードバックの方法	<p>レポート課題は、次週以降にグループで確認し合い、理解が不十分な点は教員から説明をし、補足していきます。</p>			
成績評価基準	<p>授業態度10%、提出物・小テスト30%、定期試験60%により総合的に数量化して評価します。</p>			
受講の心構えとセッション	<p>社会福祉は、人間が幸せに暮らすための学習でもあります。児童家庭福祉、障がい者福祉、高齢者福祉など多岐にわたっての学習になります。また、法令や制度の学習もあり、情報量が多くなりますが、ひとりひとりの生活を豊かにする「福祉」という考えを深めていけるよう、日ごろから予習・復習に努め、理解を深めましょう。該当するテキストの箇所を読み、内容を整理しておくこと。この予習には90分から120分程度の学習時間を要します。復習には、授業内容を振り返り、学んだことを理解できたか確認をします。この復習には、約90分から120分程度の学習時間を要します。</p>			
その他				

## 授業内容進行表

1 回	<社会福祉の概念と理念> 社会福祉の理念と概念／社会福祉の理念／子ども家庭福祉の理念
2 回	<子ども家庭支援と社会福祉> 少子化の進行と子どもと子育て家庭をとり巻く環境の変化／地域子ども・子育て支援に関する制度・サービス／新しい子育て家庭への支援の動向
3 回	<欧米の社会福祉の歴史の変遷と現状> イギリスにおける社会福祉の発祥と展開／社会福祉の理念／子ども家庭福祉の理念
4 回	<社会福祉の概念と理念> 社会福祉の理念と概念／社会福祉の理念／子ども家庭福祉の理念
5 回	<社会福祉の法・制度> 社会福祉法／社会福祉六法／社会福祉制度
6 回	<社会福祉の実施機関と施設> 社会福祉の実施機関／児童相談所等／児童福祉施設
7 回	<社会福祉サービス提供主体と在宅福祉・地域福祉の推進> 社会福祉サービスを担う公的機関／社会福祉サービスを担う民間団体／在宅福祉・地域福祉の推進の動向
8 回	<共生社会の実現と障害者施策> 障害者施策・障害者基本計画の変遷と現状／障害児・者の共生社会実現に関する法体系／共生社会の今後の展開と課題
9 回	<社会福祉専門職> 社会福祉士の専門性と人間性／保育士の専門性と人間性／精神保健福祉士・介護福祉士の専門性と人間性
10 回	<ソーシャルワークの定義> 2000年に採択された「ソーシャルワークの定義」／2014年に採択された「ソーシャルワークのグローバル定義」／ケースマネジメント
11 回	<ソーシャルワークの原則と要素> 専門的な援助関係とは／ソーシャルワークの原則について／ソーシャルワークの構成要素
12 回	<ソーシャルワークの過程> ソーシャルワークの導入段階／アセスメントとプランニングの段階／支援の実施から終結までの段階
13 回	<ソーシャルワークの方法と技術> 相手を理解すること／傾聴するために／ソーシャルワークの現場で話を聴くということの意味
14 回	<社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み> 情報提供と第三者評価／利用者の権利擁護／苦情解決
15 回	<社会保障制度> 社会保障制度とは／社会保障の各制度／社会保障の費用と財源
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こども家庭支援論	2年・後期	講義	30時間 (2単位)	室谷雅美
実務経験の概要				
授業概要	<p>子育て中の家庭が抱えている問題や課題を探りながら、子育てを取り巻く環境を理解し、保育者に必要な社会的子育て支援を学んでいきます。家庭の在り方や子育て上の課題が多様になっている社会状況を踏まえて、保育士が行う家庭支援の意義を理解していきます。さらに様々なニーズに応じた子育て家庭への支援の制度と具体的な展開についても学び、実践に向けた基礎的な理解を深めます。適宜グループ・ワークを実施し、意見交換をします。</p>			
授業科目の目的	<p>保育の専門性を活かした、子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解し、現代の家族を取り巻く社会状況の特質や子育て家庭の抱える困難を理解するとともに、子育て支援政策の考えを吟味し、子育て家庭支援に求められているものは何かを検討することができることを目的とします。子育て家庭に対する支援の体制と、多様なニーズに応じた支援の展開、子ども家庭支援の現状、課題について理解し、家庭の状況に応じた支援ができることを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育士が行う、子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解することができるようにします。</li> <li>2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解することができるようにします。</li> <li>3. 子育て家庭に対する多様な制度について理解することができるようにします。</li> <li>4. 子ども家庭支援の具体的な展開について理解することができるようにします。</li> <li>5. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状・課題について理解することができるようにします。</li> </ol>			
テキスト	<p>子ども家庭福祉専門職のための子育て支援入門／才村純・芝野松次郎・新川泰弘・宮野安治著／ミネルヴァ書房／2019年 保育所保育指針解説（最新版）／厚生労働省／フレーベル館</p>			
参考書	<p>新・基本保育シリーズ 子ども家庭支援論／松原康雄・村田典子・南野奈津子編集／中央法規／2019年</p>			
フィードバックの方法	<p>レポート課題は、次週以降にグループで確認し合い、理解が不十分な点は教員から説明をし、補足していきます。</p>			
成績評価基準	<p>授業態度10%、提出物・小テスト30%、定期試験60%により総合的に数量化して評価します。</p>			
受講の心構えとセッション	<p>日常生活の中から子育て家庭を取り巻く問題や課題を知り、社会の動きを普段から敏感に感じ取り、家庭支援・子育て支援を支える保育者の役割について考えることを心がけましょう。予習は各回の授業内容について、該当するテキストの箇所を読み、内容を整理しておくこと。この予習には90分から120分程度の学習時間を要します。復習には、授業内容を振り返り、学んだことを理解できたか確認をします。この復習には、約90分から120分の学習時間を要します。</p>			
その他				

## 授業内容進行表

1 回	<子ども家庭支援の意義と役割> 子ども家庭支援の意義／少子化社会対策と子育て支援
2 回	<子ども家庭支援の目的と機能> 子ども家庭支援の機能／保育士等がめざす「子ども家庭支援」とは
3 回	<子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進> 子育て支援施策・次世代育成支援の背景／子ども・子育て関連3法の成立過程
4 回	<子育て家庭の福祉を図るための社会資源> 社会資源とは何か／子育て家庭を支える社会資源と担い手
5 回	<保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義> 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義／保育所保育指針にみる「子育て支援」
6 回	<子どもの育ちの喜びの共有> 保育所保育指針の内容／連絡帳／園だより
7 回	<保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援> 地域の子育て家庭を取り巻く環境／保育所を利用している保護者に対する支援
8 回	<保育士に求められる基本的態度> 受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等／バイステックの7原則
9 回	<家庭の状況に応じた支援> 家庭の状況に応じた支援とは
10 回	<地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力> 子ども家庭支援と地域の資源の活用
11 回	<子ども家庭支援の内容と対象> さまざまな子ども家庭支援の対象／相談援助技術を活用した子ども家庭支援
12 回	<保育所等を利用する子どもの家庭への支援> 家庭がかかえる生活課題と保育所等の役割／事例を通した子ども家庭支援の理解
13 回	<地域の子育て家庭への支援> 地域の子育て家庭への支援／保育所における地域の子育て家庭に対する支援
14 回	<要保護児童およびその家庭に対する支援> 要保護児童の全体像／要保護児童とその家庭的背景
15 回	<子育て支援に関する課題と展望> 子育て支援ニーズの多様化／子ども家庭支援に関する現状と課題
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの発達と家庭支援	1年・後期	講義	30時間 (2単位)	室谷雅美 野口和也・稲田達也
実務経験の概要				
授業概要	生涯発達と心理、家族・家庭の意義や役割、子育て家庭を取り巻く状況や構成員のライフコース、多様な家庭の理解、子どもの精神保健についての学びを深めます。生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性や発達課題等について学びます。家族・家庭の意義や機能を把握するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得します。子育て家庭を取り巻く社会的状況と課題についても学びます。			
授業科目の目的	<p>子どもの発達、学びの過程や特性に関する内容を体系的に理解させるとともに、子どもと家庭に関して包括的に理解させることを目的とします。また、各発達段階においての特徴を知り、それぞれの時期に必要な保育者とのかわりについて理解を深めることを目的とします。</p> <p>さらに、家族や家庭の概念、意義と機能について学び、家族・家庭の理解や子育て家庭に関する現状と課題を理解することを目的とします。発達の観点から子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得し、現代社会の課題や子どもの精神保健についても理解を深めます。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達に関する心理学的な基礎を学び、初期経験の重要性、発達課題等を理解し説明することができるようになります。</li> <li>2. 発達の観点を持ちながら、家族関係・親子関係・その課題を包括的に理解することができるようになります。</li> <li>3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と、子どもの精神保健とその課題について理解し論じることができるようになります。</li> <li>4. 家庭・家族、親子関係・家族関係について、生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を活用しながら、その現状や課題について説明することができるようになります。</li> <li>5. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を学び、発達課題や精神保健の観点を活かし、親子関係・家族関係を包括的に捉え、子育てをめぐる現代社会の状況を理解することができるようになります。</li> </ol>			
テキスト	<p>子どもの発達と家庭支援の心理学入門／新川泰弘編著／ミネルヴァ書房／2020年          保育所保育指針解説（最新版）／厚生労働省／フレーベル館          幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館</p>			
参考書	新・基本保育シリーズ 子ども家庭支援の心理学／白川佳子・福丸由佳編集／中央法規／2019年			
フィードバックの方法	レポート課題は、次週以降にグループで確認し合い、理解が不十分な点は教員から説明をし、補足していきます。			
成績評価	授業態度10%、提出物・小テスト30%、定期試験60%により総合的に数量化して評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>生涯発達の観点から発達のプロセスや初期発達の重要性について理解し、保育との関連性について考え、子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題について理解を深めましょう。子育て家庭に関する現状と課題を把握し、子育てを取り巻く社会的状況と課題について理解を深めることを心掛けましょう。授業の予習復習のほかに、日常でも子育てを取り巻くニュース等に関心を持つよう心掛けましょう。予習は各回の授業内容について、該当するテキストの箇所を読み、内容を整理しておくこと。この予習には90分から120分程度の学習時間を要します。復習には、授業内容を振り返り、学んだことを理解できたか確認をします。この復習には、約90分から120分の学習時間を要します。</p>			
その他				

## 授業内容進行表

1 回	<乳児期の発達> 新生児から乳児期にかけての発達
2 回	<幼児期の発達> 幼児期の発達段階における基本的な発達的特徴
3 回	<学童期の発達> 学童期の発達を学ぶ意義
4 回	<青年期の発達> 青年期の発達のな変化
5 回	<成人期・中年期の発達> 成人期・中年期とは
6 回	<高齢期の発達> 生涯発達における高齢期とは
7 回	<家族・家庭の理解> 家族・家庭の意義と機能
8 回	<親子関係・家族関係の理解> 家族のライフサイクル
9 回	<子育ての経験と親としての育ち> 子どもをもつことについての意義
10 回	<子育てを取り巻く社会的状況> 子ども・子育て支援新制度
11 回	<ライフコースと仕事・子育て> ライフコースとは
12 回	<多様な家庭とその理解> 子どもと家庭を取り巻くさまざまな課題
13 回	<子育て家庭に関する現状と課題> 特別な配慮を要する家庭
14 回	<子どもの生活・生育環境とその影響> 子どもの育ちの基本
15 回	<子どもの精神保健> 子どもの心の健康に関わる問題
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
健 康 論		2年・前期	講義	15時間 (1単位)	栗 岡 あけみ
実務経験の概要		幼稚園に33年勤務した実務経験があります。その間、クラス持ち主任(6年)、専任の副園長(2年)と園長(9年)をさせていただきました。(栗岡)			
授業概要	乳幼児期の健康に関する幅広い知識と個々の発育・発達の状態に合った配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的方法について、現代社会の子どもを取り巻く生活環境にも目を向けながら子どもの積極的な健康指導を学んでいきます。				
授業科目の目的	乳幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心と身体の基礎を作る重要な時期です。子どもの健康を守り育てるためには実際の保育現場で子どもの発達をどのように捉え、どのような内容について、どのように指導し支援するのが効果的かについて積極的に関与し、子どもの個々の健康状態を評価する能力を養うことを目的とします。				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 領域「健康」のねらいと内容が理解できるようにします。</li> <li>2. 乳幼児期の発育・発達について理解できるようにします。</li> <li>3. 乳幼児期における運動の意義について理解できるようにします。</li> <li>4. 乳幼児期の基本的な生活習慣と健康について理解できるようにします。</li> <li>5. 乳幼児期の食育について理解できるようにします。</li> <li>6. 乳幼児期における健康・安全の確保について理解できるようにします。</li> </ol>				
テキスト	健康論/廣田邦生他/豊岡短期大学 幼稚園教育要領解説(最新版)/文部科学省/フレーベル館 保育所保育指針解説書(最新版)/厚生労働省/フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)/内閣府・文部科学省・厚生労働省/フレーベル館				
参考書	授業内で適宜紹介する。				
フィールドバックの方法	授業の初めに、前回の授業のフィールドバックから始めていきます。				
成績評価基準	<p>受講態度 20%：保育者を目指すものとして、自律した学ぶ姿勢・行動であるかを基準とします。</p> <p>課 題 30%：補助評価シート(ワークシート)を用いたプレゼンテーションの内容とその姿勢を基準とします。</p> <p>単位認定試験 50%：授業で取り扱った内容について、保育者としての視点から深く論じることができているかどうかを基準とします。</p> <p>上記3領域の配分により100点満点で評価し、60点以上を合格とします。</p>				
受講の心構えとメッセージ	<p>日ごろから乳幼児の健康に関するニュースや新聞記事などに関心をもち、現代の子どもたちがどのような健康状態にあるのかを把握しながら受講してください。</p> <p>また、心と体の健康は相互に関連しあっていることを認識し、実践と理論の結びつきを図りながら、意欲的に保育者としての感性を磨いてください。</p> <p>予習：毎回授業内で予習課題を出します。図書館を利用して調べて授業準備をしましょう。(所要時間90分から120分)</p> <p>復習：毎回授業内で復習課題を出します。授業内容や新聞、図書館を利用し、整理して述べられるようにしましょう。(所要時間90分から120分)</p>				
その他事項	必要に応じて参考になるプリントを配布しますので、ファイルしておいてください。講義の終わりに次回までの予習する内容と講義の振り返り内容などを示します。予習復習を行って講義にのぞんでください。				

## 授業内容進行表

1 回	<乳幼児と健康> 健康の概念を理解と領域「健康」における健康の考え方について
2 回	<乳幼児期の発育・発達> 乳幼児期の体の発達の特徴について
3 回	<乳幼児期における運動の意義> 運動あそびと保育者の関わりについて
4 回	<乳幼児期の基本的生活習慣と健康> 乳幼児期の生活習慣と運動機能の発達について
5 回	<乳幼児期の食育1> 食育とは何か、現代の子どもの食生活の問題点について
6 回	<乳幼児期の食育2> 朝食の役割と食物アレルギーについて
7 回	<乳幼児期における・安全の確保1> 安全管理と安全教育、事故防止の指導体制について
8 回	<乳幼児期における・安全の確保2> ケガへの対応と処理、災害への備えについて
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
環境論	2年・前期	講義	15時間 (1単位)	栗岡 あけみ
実務経験の概要	幼稚園に33年勤務した実務経験があります。その間、クラス持ち主任(6年)、専任の副園長(2年)と園長(9年)をさせていただきました。(栗岡)			
授業概要	こどもを取り巻く環境は様々であり、その中でこどもは生活をしている。具体的な環境例を示しながら、環境とこどもの発達の関係性を考えていきます。また、環境を通して行う保育の意味を学習し、保育者自身が保育環境をデザインする力を身につける必要があります。そのために様々な環境との出会いに気づき、子どもの生活に視点をおきながら学びを深めていきます。			
授業科目の目的	乳幼児期の子どもたちの発達と環境について考えてみることにより、乳幼児の保育を展開していくときにどのような保育環境が必要となるのか、また、そうした保育環境はどのようにすれば構成していけるのかについて学んでいきます。また、乳幼児期の子どもたちが通う保育施設における環境の大切さについても具体的に考えていきます。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児期のこどもの発達と環境の関係性が理解できるようにします。</li> <li>2. 環境を通して行う保育の意味が理解できるようにします。</li> <li>3. 保育環境のデザインを実践できるようにします。</li> <li>4. 様々な環境との出会いを理解することができるようにします。</li> </ol>			
テキスト	環境論／長谷雄一ほか／豊岡短期大学 幼稚園教育要領解説(最新版)／文部科学省・フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)／内閣府／フレーベル館 保育所保育指針解説(最新版)／厚生労働省／フレーベル館			
参考書	秋田喜代美編 保育内容「環境」／株みらい			
フィードバックの方法	レポートは、授業内容の要点のまとめです。次週の授業で振り返り、さらに理解を深めてほしい内容については、再度授業内で取り上げ説明していきます。			
成績評価基準	受講態度 20%：保育者を目指すものとして、自律した学ぶ姿勢・行動であるかを基準とします。 課題 30%：レポートや保育環境デザインなどの取り組み意欲や内容を評価します。 定期試験 50%：授業で取り扱った内容について、保育者としての視点から深く論じることができているかどうかを基準とします。			
受講の心構えとメッセージ	予習：テキストの授業内容に該当する箇所事前に目を通し予習して、理解が深まるように準備して授業に臨んでください。(所要時間90分から120分) 復習：授業後には、テキストやプリントを見返し復習し、授業での学びを身に付けてください。身近な自然について、日常的に興味・関心をもち、環境にかかわる力が育つことを期待します。(所要時間90分から120分)			
その他	教科書を使用します。忘れないようにすること。必要に応じて資料を配付します。ファイルを事前に準備してください。			

## 授業内容進行表

1 回	<環境の定義> 環境という言葉、環境の定義 環境を通して行う保育の意味
2 回	<領域「環境」の位置づけ> ねらい・内容 内容の取扱 指導計画
3 回	<保育における環境（保育と環境）> 人的環境・物的環境 自然環境、社会・文化環境
4 回	<幼児の身近な環境との関わり> 室内・室外 文字・標識・数量・図形
5 回	<行事> 1. 季節の行事 2. 地域の行事
6 回	<地域・施設との関わり> 各施設の訪問 国際理解
7 回	<地域探検> 住んでいる町を知ろう
8 回	<保育者としての専門性の向上> 専門性の向上と保育マインド
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
人間関係論	1年・後期	講義	15時間 (1単位)	原田敬文
実務経験の概要				
授業概要	領域「人間関係」の考え方について理解を深め、人間関係の成立と展開に関する発達心理学的基盤について理解します。保育実践において、人間関係を育む際の保育者の役割について理解し、こどもの発達に応じた保育のあり方を考えます。			
授業科目の目的	現代のこどもの人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児（保育）教育で保証すべき教育内容に関する知識を身につけます。こどもを取り巻く他者との関係、集団との関係から、こどもの人間関係を考察し、乳幼児が人との関わりを通じて育つことを理解します。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 領域「人間関係」の基礎理論を理解し、関係発達論的な視点から論じることができるようにします。</li> <li>2. こどもを取り巻く環境の変化について理解し、こどもが人間関係をつむぎながら成長する過程を理解でき、説明できるようにします。</li> </ol>			
テキスト	随時プリントを配布します。			
参考書	幼稚園教育要領解説（最新版）／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説（最新版）／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館			
フィードバックの方法	定期的な小テストを実施します。その結果をもとに、説明の補足や資料の追加を行います。			
成績評価基準	定期試験（60%）、レポート（25%）、講義への参加の態度等（15%）により総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>こどもの人間関係を学ぶには、常日頃から、こどもの様子を観察する必要があります。その、観察によって得た事例をもとに、学習を進めることが有意義です。実習でのこどもの様子、身近にいるこどもの様子を記録しておくことをおすすめします。</p> <p>各自、予習としては、毎回授業で予告する事例を十分に読んで授業に出席してください。また、復習としては、配布プリントを2回以上読み返してください。予習復習は各々90分から120分の学習時間を要します。</p>			
その他事項	授業で配布する資料は、各自ファイルに綴じておくこと。			

## 授業内容進行表

1 回	領域「人間関係」 ねらいと内容 領域の相補性（保育活動の総合性とは）
2 回	人間関係と取り巻く社会環境1 少子高齢化 家族の変化
3 回	人間関係と取り巻く社会環境2 身近な環境の変容 メディアの変化
4 回	人間関係をつむぐこどもの発達1 規範意識と道徳性の芽生え（育ち） ルール、決まり事の意味と意義
5 回	人間関係をつむぐこどもの発達2 自立心、協同性の芽生え（育ち） 自己発揮と自己抑制の芽生え（育ち）
6 回	人間関係とこどもの遊び 遊びの中で育つ乳児の人間関係 遊びの中で育つ幼児の人間関係
7 回	人間関係とこどもの生活 家庭とのかかわりとこどもの発達 地域とのかかわりとこどもの発達
8 回	今日的な人間関係の課題 多様な文化のこども 気に留めたいこども
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
音楽表現論	1年・前期	講義	15時間 (1単位)	茨木金吾
実務経験の概要				
授業概要	領域「表現」における音楽表現に視点を置き、子どもが遊びや生活の中で、子どもの素朴な表現を見出し、受け止め共感することができる保育者としての感性を養います。また、子どもが表現する事の楽しさを生み出す過程を理解し、子どもの豊かな感性や表現する力、想像力を育むための具体的指導法の習得と音楽的知識を身に付けます。さらには家庭及び小学校以降の学びへの接続を理解し、その具体的な方法を習得します。			
授業目的	感性と表現に関する領域「表現」を理解し、子どもの音楽表現の姿やその発達を促す要因、子どもの音楽的感性や創造性をゆたかにする様々な音楽表現遊びや環境構成など、音楽表現指導に関する専門的知識・技能・表現力を身に付けることを目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感性と表現に関する領域「表現」のねらいと内容、その取扱いを理解することができるようにします。</li> <li>2. 音楽表現に必要な音楽要素を理解することにより、子どもの表現活動を援助するための実践力を身に付けることができるようにします。</li> <li>3. ポートフォリオなどによる音楽表現の可視化と指導案の立案を通して、現場に求められる実践力を身に付けることができるようにします。</li> <li>4. 音楽表現活動及び小学校教科「音楽」への繋がりなど繋がり的重要性を理解することができるようにします。</li> </ol>			
テキスト	音楽表現論／豊岡短期大学音楽担当教員／豊岡短期大学 幼稚園教育要領（最新版）／文部科学省／フレーベル館 幼稚園教育要領解説（最新版）／文部科学省、フレーベル館 保育所保育指針（最新版）／厚生労働省／フレーベル館 保育所保育指針解説書（最新版）／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館			
参考書	領域「表現」子どもと楽しむための音楽表現 ～のびのびと心と身体を育む～／柳澤邦子著／フレーベル館 (ISBN：9784577813706) 育ちと学びをつなぐ「幼保小連携教育」の挑戦 実践接続期カリキュラム／木村吉彦監修／ぎょうせい (ISBN：9784324100844) こどものうた「簡易伴奏曲付き」／田中常雄監修 平島美穂、木村鈴代、小杉裕子編著／圭文社 (ISBN：9784874460764) かんたんメソッド「コードで弾きうたい」／細田淳子、笹井邦彦、西海聡子、悠木昭宏著／カワイ出版 (ISBN：9784760940387) 手あそび百科／植田光子編著／ひかりのくに株式会社 (ISBN：9784564603839) 表現言論／大場牧夫著／萌文書院 (ISBN：4893470485) 保育内容「表現」論／名須川知子、高橋敏之著／ミネルヴァ書房 (ISBN：9784623047178)			
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中での皆さんの疑問や理解できなかった点、授業を通して気付いたこと、感想などについて、修正や再度の説明が必要な個所について、次回の授業で、資料を用いて口頭で説明していきます。</li> <li>・小テストを実施した場合は、次回の授業時に返却し、その試験結果を分析し、再度学習する必要がある場合は、資料を用いて口頭で説明します。</li> <li>・小テストの結果は、次回以降の授業で振り返りを行い、さらに理解を深めてほしい部分については、再度授業の中で取りあげていきます。</li> <li>・レポート課題を課した場合は、コメントを付したのちに次回以降の授業時に返却します。</li> <li>・授業の初めに、前回の授業のフィードバックから始めていきます。</li> <li>・定期試験の結果及び、実践課題の内容評価については教務学生課の成績公表後、希望すれば、各自が研究室に訪問した際にフィードバックします。</li> </ul>			
評価	授業態度(10%)、定期試験(50%)、実践課題の内容(40%)により、総合的に数量化して評価します。			
受講の心構えとメッセージ	この「音楽表現論」で展開する授業内容は感性と表現に関する領域「表現」として、保育者を目指す皆さんにとって身に付けなければならない大変重要なものです。それらを十分に理解するためには授業外での予習と復習が重要となります。使用するテキスト及び参考書を有効に活用し、予習、復習を怠らないでください。 予習：授業内容進行表には<>内にそれぞれの回のテーマが記され、習得していく内容が理解、分析、実践等の形で表されています。これらの内容をより深く習得するには事前にそれらを自学自習し、実践が必要なものについては事前の実践練習等しておくことが重要です。この予習には約90分から120分の学習時間を要します。 復習：予習により学び得たものが、本授業を通してどう深まり、それがどう実践で活かすことができるものであるのかを、授業内で学んだ内容とテキスト、参考書を用いて、それらを重要事項としてまとめておきましょう。この復習には約90分から120分の学習時間を要します。			
その他事項	各自、五線ノートとプリント保管用ファイル(クリアファイルノートなど)を用意してください。			

## 授業内容進行表

1 回	<感性と表現に関する領域「表現」について、その概要> 領域「表現」の理解と音楽表現における乳幼児の発達過程、音楽表現の基礎知識 音楽表現に必要な音楽要素の理解と乳幼児の発達に伴う声域についての理解
2 回	<音と表現、音と音階> 「自然が生み出す音」「目で見える世界に存在する音」を取り入れ、表現する過程の理解 イメージを表現する為の音や音階の理解
3 回	<こどもの歌（童謡など）、音符と休符> 日本のこどもの歌と歴史的背景の理解 時代を象徴している童謡などについて、調性感やリズム感に視点を置いた分析
4 回	<5領域の関連を考慮した音環境、拍とリズム> 領域「表現」と他の領域との関連を考慮した音環境の理解 身体及び言葉の中のリズム、生き物に見られる拍とリズムの理解と実践
5 回	<豊かな表現を引き出す援助、幼児用楽器> 保育実践における豊かな表現を引き出す援助（手法）のあり方についての理解 幼児用楽器の取扱いと正しい演奏法の理解と実践
6 回	<指導案の理解と立案、和音（コード）> 部分指導案「身近な音をみつけて遊ぼう」の理解と立案 身近な自然や身の周りの音を様々な組み合わせで表現する方法と実践
7 回	<音楽表現及び保育の可視化、和音（コード）による音楽表現> 乳幼児の音楽表現を可視化するための手法と理解 ポर्टフォリオなどを活用した保育の可視化と保育現場に応じた音楽を和音（コード）で表現する 方法の理解と実践
8 回	<音楽表現活動及び小学校教科「音楽」への繋がり、器楽演奏> 家庭と園生活における乳幼児の音楽表現活動の繋がり及び小学校に繋がる学びの理解とまとめ 園行事等での器楽演奏を表現豊かなものにするための理解と実践
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
造形表現論	2年・前期	講義	15時間 (1単位)	岩田健一郎
実務経験の概要				
授業概要	幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の理論と指導について学習し、えがく表現、つくる表現、そして造形あそびの領域と技法について、また、それに伴った材料、用具の特性と利用について理解していきます。さらに美術の歴史的展開の概説及び幼児造形教育の変遷、今日の課題を学んでいきます。			
授業科目の目的	保育の内容を踏まえ、幼児造形の指導・援助者として、造形の基本的な知識、形や色、材料、用具、表現技法等の造形の理論を学習し、手の動き・感性・造形的思考が一体となった造形活動を理解することを目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解することができるようにします。</li> <li>2. 乳幼児の表現活動の大切さと表現にともなう形、色、材質、手法、材料等について理解することができるようにします。</li> <li>3. 乳幼児のえがく、つくる造形活動について、発達段階を踏まえた材料や手法の取り扱いと指導援助について理解することができるようにします。</li> </ol>			
テキスト	造形表現論／岩田健一郎他／豊岡短期大学 幼稚園教育要領解説（最新版）／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説（最新版）／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館			
参考書	市販の幼児造形、造形に関する参考書			
フィードバックの方法	講義内容で分からない点があれば、説明していきます。 小テスト（造形あそびの手法）の結果は返却し、必要な個所は説明し理解を深めます。 定期試験の結果について、希望者には、教務学生課での成績発表後、研究室で設問の解説をします。			
成績評価基準	定期試験70%、課題、小テスト、受講姿勢30%で評価します。			
受講の心構えとメッセージ	本授業は「幼児造形」「こどもの指導法」「造形表現」「こどもと造形」の内容の理論的な項目です。幼児造形の指導法の内容を学び、さらに造形の他の教科の実践する内容と関連させながら学んでください。もちろん、その都度、指示する予習、復習も怠らないでください。予習復習は各々、90分から120分を要します。			
その他				

## 授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> <幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領における「表現」領域を踏まえた幼児造形表現の学習>
2 回	<こどもの発達段階とえがく、つくる、造形あそびの造形活動の意義> えがく領域の発達段階とえがく表現の特徴等
3 回	<こどもの発達段階を踏まえた、えがく、つくる、造形あそびの特徴と指導、援助、評価> 各発達段階における、えがく、つくる、造形あそびの特徴と指導、援助、評価等
4 回	<えがく活動における形態・色彩の理論 絵画技法、製作内容と材料・用具> 形態・色彩・技法と材料用具等
5 回	<つくる活動における技法と活用、つくる活動の素材（廃材）、製作内容と材料・用具> つくる活動の技法と材料用具等
6 回	<造形あそびにおける各種表現技法、製作内容と材料・用具> 造形あそびのオートナチズム・転写技法と材料用具
7 回	<実践的な指導法の学習と情報機器及び教材の活用> 各技法を通した製作のねらいと今日的な情報機器の活用
8 回	<美術の歴史的展開の概説及び乳幼児造形教育の課題とまとめ> 絵画史と幼児造形教育の思潮の変遷 振り返り
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと造形	2年・後期	演習	15時間 (1単位)	岩田 健一郎
実務経験の概要				
授業概要	<p>幼児造形の指導・援助者として、形や色等の造形の基本的な理論をもとに、壁面装飾を想定したカラーージュによる色彩構成及び粘土による素材体験と表現を主に、手の動き・感性・思考が一体となった製作体験を通して表現に対する理解を深める。このことを通して様々な素材とえがく、つくる、造形あそび活動に応用できる知識を身につけます。</p>			
授業科目の目的	<p>保育の内容を理解し、造形の基本的な知識と特に手の動き・感性・思考が一体となった実践学習を通して造形感覚の基礎的陶冶を図る。また、乳幼児を含めたこどもの造形の指導・援助者として、造形教育の中で取り扱う教材に必要な知識や技能の習得を目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できるようにします。</li> <li>2. 乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できるようにします。</li> <li>3. 乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術を習得できるようにします。</li> </ol>			
テキスト	造形表現論／岩田健一郎他／豊岡短期大学			
参考書	<p>幼稚園教育要領解説（最新版）／文部科学省／フレーベル館          保育所保育指針解説（最新版）／厚生労働省／フレーベル館          幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館          市販の幼児造形、造形に関する参考書</p>			
フィードバックの方法	<p>学生の製作を通して、体験を通してはじめて分かる各手法のポイント、幼児の教材としてのポイント等の留意点を振り返り押さえていきます。          課題製作について作品を取り上げ、振り返り、講評をします。</p>			
成績評価基準	<p>受講姿勢、課題の内容60% 定期試験40%の割合で評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>えがく造形表現は表現技術の巧拙よりも素材の特性を理解し、色や形を工夫をする積極的な製作姿勢が大切です。この保育者としてえがく体験が子どもたちの表現の理解と共感する感性に繋がりますので、常に子どもの姿を浮かべながら思い切り元気よく製作してください。          また、授業時間外の学習として、子どもの造形表現のありようを地域の子どもたち、幼稚園等の現場で造形物や遊ぶ姿を観察し、発達段階とえがく表現の関係を理解していくことも心がけてください。予習復習には各々90分から120分の時間を要します。          授業時間内で仕上がらない課題は授業時間外で製作してください。</p>			
その他	<p>粘土を使用する授業はエプロン等を準備してください。</p>			

## 授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション (授業の目的)> <保育の内容「表現」領域 (感性と表現)> 講義
2 回	<えがく活動の製作 壁面装飾を想定した製作1 (素材と構成)> 製作にあたっての留意点 (講義) 背景づくり (製作)
3 回	<壁面装飾を想定した製作2 (構成)> テーマの設定と素材づくり
4 回	<壁面装飾を想定した製作2 (構成・完成)> テーマに沿った色彩構成 (形、色、材質の対比)
5 回	<つくる活動の製作<粘土による製作1 (素材の特性、成形)> 彫塑の手法について 陶芸の手法について 土台づくり (板づくり)
6 回	<粘土による製作2 (成形)> 紐づくりと成形 手びねりによる成形
7 回	<粘土による製作3 (成形・着彩、完成)> 完成 (形) 着彩 (つやだしニス) 完成
8 回	<子どもの造形表現活動と指導法のまとめと今後の課題> 手法体験と幼児造形教材の可能性と指導・援助
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
表現とこどもの運動		1年・前期	演習	15時間 (1単位)	今 野 賛
実務経験の概要					
授業概要	こどもの表現活動が年齢に応じて展開されていくことを理解し、表現遊びや運動の実践例からイメージを膨らませ、安全に楽しく表現遊びや運動が展開できる知識及び実践力を深めます。				
授業科目の目的	本授業では、こどもたちが自分の思いや考えを他者に伝えることができるための様々な表現ができる環境設定が大切であることを理解することを目的とします。また、年齢や環境に応じた動きや運動遊びと身体表現を通して、こども同士がどう工夫し、表現し、仲間とよりよくなかかわっていくことができるかを発達段階に応じて展開させることを学びます。さらに、こどもたちが楽しく表現することができる安全面の配慮についても認識を深めることを目指します。				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. こどもの表現活動における援助者の役割について理解し、人的環境について説明するとともに、身体表現遊びや運動の留意点について理解することができますようにします。</li> <li>2. 日常におけるこどもを取り巻く生活環境が大きく関係し、表現活動が豊かな感性に関連していることを理解するとともに、表現遊びや表現運動が5つの領域に相互に関わり合っていることを理解することができますようにします。</li> <li>3. こども同士での運動遊びにおける表現や心身の健康など、援助者として発達段階に応じた援助の在り方を理解することができますようにします。</li> </ol>				
テキスト	表現とこどもの運動／廣田邦生ほか／豊岡短期大学				
参考書	幼稚園教育要領解説（最新版）／フレーベル館 保育所保育指針解説（最新版）／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）／フレーベル館				
フィードバックの方法	授業中の皆さんの疑問や気付き及び感想などの小レポートについて、修正や再度の説明が必要な箇所については次回の授業で口頭により説明していきます。				
成績評価基準	授業態度20%、小レポート30%、定期試験50%により総合的に評価します。その評価基準は、以下のようになります。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業態度においては、「指示待ちでなく」授業の準備・片付けなど、自ら取り組む姿勢やグループでのリーダーや周りへの配慮ができてきているか。</li> <li>2. 小レポートでは課題について丁寧に記述でき、内容とともに自分の考えを述べられているか。</li> <li>3. 定期試験では、指導者として運動遊びの知識を習得・理解できているか。</li> </ol>				
受講の心構えとセッション	この演習は、参加すること、実践を通じた授業を受けてこそ意味があります。見学・欠席が無いように日頃の健康管理をしてください。 予習として、各回の授業内容に学びのキーワードが設けられていますので、それに関わる資料等を熟読し、まとめておく。この予習には約90～120分の学習時間を要します。 復習として、講義資料や授業内での口頭説明と参考書等を用いて、学びの要点をまとめておく。この復習には約90～120分の学習時間を要します。また、授業外で家族や近隣の幼児と接し、こどもと体育の課題を探る意識をもつことを望みます。				
その他					

## 授業内容進行表

1 回	<こどもを取り巻く環境の変化について> こどもを対象とした運動遊びのねらい
2 回	<こどもの発達と運動について> 心身の発育発達と運動の意義
3 回	<運動遊びの基本的な動き> 基本動作と調整力
4 回	<身体コントロール能力の向上> 調整力を高める運動遊びや体づくり運動
5 回	<こどもの表現運動Ⅰ> こどもの身体表現の教育的意義
6 回	<こどもの表現運動Ⅱ> 身体表現運動のねらいと指導上の留意点
7 回	<表現運動の実践> 年齢別発達における表現遊びや運動
8 回	<表現運動における安全指導> 安全管理について
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
こどもと体育		1年・後期	演習	30時間 (2単位)	今 野 賛
実務経験の概要					
授業概要	こどもたちにとっての運動遊びの必要性を発育発達的面から理解しながら、安全に楽しく運動遊びを展開するための指導方法と援助の仕方を学びます。グループごとに様々な運動遊びを考案し、発表を通して指導方法を学ぶとともに保育者として必要な運動遊びを習得します。				
授業科目の目的	こどもの運動遊びは、第一に楽しくなければなりません。訓練的にならずに、こどもたちが主体的に取り組み、多くの動きが体験できるような環境構成ができることが大切です。この演習で多くの運動遊びの指導法を具体的に習得し、年齢や環境に応じてこどもたちに指導ができ、こどもの発育・発達に即した運動遊びの指導法を身につけることを目的とします。				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>こどもの発育発達に即した運動能力を理解し、年齢にあった運動遊び(グループ遊び・競争遊び・素材を使った遊び・用具器具を使った遊び)などを考え、グループで考案した運動遊びの指導ができるようにします。</li> <li>こどもにとって望ましい活動や運動遊びを引き出すために、遊具の安全性についての認識を深め、こどもたちが安全に遊べる指導や環境づくりができるようにします。</li> </ol>				
テキスト	こどもと体育Ⅰ／長谷川定宣／豊岡短期大学				
参考書					
の方法	フィードバック				
成績評価基準	<p>授業態度20%、小レポート30%、定期試験50%により総合的に評価します。その評価基準は、以下のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>授業態度においては、「指示待ちでなく」授業の準備・片付けなど、自ら取り組む姿勢やグループでのリーダーや周りへの配慮ができているか。</li> <li>小レポートでは課題について丁寧に記述でき、内容とともに自分の考えを述べられているか。</li> <li>定期試験では、指導者として運動遊びの知識を習得・理解できているか。</li> </ol>				
受講の心構えとメッセージ	この演習は参加し、実践を通じた授業を受けてこそ意味があります。見学・欠席が無いように日頃の健康管理をしてください。予習・復習として、授業外で家族や近隣の幼児と接し、こどもと体育の課題を探る意識をもつことを望みます。				
その他事項	演習のできる服装で参加し、授業を通して指導者(保育士)の心構えを身につけましょう。				

## 授業内容進行表

1 回	こどもの運動遊びについて こどもにとっての運動遊びの必要性について
2 回	こどもの発育発達と運動 こどもの発育発達における運動の意義
3 回	こどもの運動遊びの環境と言葉かけ こどもが意欲的に運動遊びに取り組むための環境と言葉かけ
4 回	安全な運動遊びの環境づくり 安全面に配慮した環境構成の在り方について考える
5 回	発達段階に応じた運動遊びを考える 1歳から5歳児までのグループでの遊びを考え・発表しよう
6 回	発達段階に応じた運動遊びを発表する 1歳から5歳児までの競争遊びを考え・発表しよう
7 回	操作性遊具を使った遊びを考える ボール・縄・フープ・竹馬などを使って発育発達にあった運動遊びを考える
8 回	操作性遊具を使った遊びを発表する ボール・縄・フープ・竹馬などを使って発育発達にあった運動遊びを考え・発表・体験しよう
9 回	身近な素材を使った遊びを考える 新聞紙を使って遊ぼう
10 回	身近な素材を使った遊びを発表する 新聞紙を使った遊びを発表しよう
11 回	こどもの体操を考える リズム体操・こどもの体操・親子体操を創作しよう
12 回	こどもの体操を発表する リズム体操・こどもの体操・親子体操を発表しよう
13 回	器具を使った遊びを考える マット運動遊びの基本を学ぼう
14 回	器具を使った遊びを発表する マット・跳び箱運動遊びの基本を学ぼう
15 回	振り返りとまとめ グループ発表の振り返りと授業のまとめ
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
幼 児 造 形		1年・前期 2年・前期	演習	15時間 (1単位)	岩 田 健一郎 大 塚 貴 之
実務経験の概要					
授 業 概 要	保育内容を踏まえて、幼児の造形活動の内容と指導法、材料・用具の取扱いや手法など、基礎的な知識と製作、さらに学生たちの振り返りを通して、えがく、つくる、そして造形あそびの活動を支援できる実践的な知識と技能を習得します。				
授 業 科 目 の 目 的	保育内容を理解し、乳幼児の造形活動を支援する保育者として、発達段階を踏まえた環境設定、素材との関わり、手法などを理解するとともに、えがく、つくる、そして造形あそびの活動を支援できる実践的な知識と技能を習得します。				
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できるようにします。</li> <li>2. 乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できるようにします。</li> <li>3. 乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術を習得できるようにします。</li> </ol>				
テ キ ス ト	造形表現論／岩田健一郎他／豊岡短期大学				
参 考 書	幼稚園教育要領解説（最新版）／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説（最新版）／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 「造形表現」「造形」等に関する市販の書籍				
フ ィ ィ ッ ド バ ッ ク の 方 法	幼児造形に関わる手法の一部を学びますが、体験を通してはじめて分かる各手法の留意点と、幼児の教材としてのポイント等を授業後又は次の時間に振り返り、押さえていきます。				
成 績 評 価 基 準	受講姿勢10%、課題の内容50% 定期試験40%の割合で評価します。				
メ ッ セ ー ジ と 受 講 の 心 構 え と	<p>子どもの造形的な活動は自ら主体的に楽しんで行います。本授業はそれらの手法（モダンテクニック）についても実践学習をしていきますが、指導者も手法の習得はもちろん、造形活動を楽しむ気持ちが、子どもたちの意欲に繋がることを意識してください。</p> <p>予習として、次回の実践するテキストの関連箇所、復習としては、製作体験後に記述内容が理解できることもありますので目を通してください。予習復習は各々90分から120分の時間を要します。すべての手法を授業内で実践できないので、オートマチズムの手法について学習してください。</p>				
そ の 他 の 事 項	<p>造形の授業を受けるに当たって、基本的な用具（絵具、筆等）は共同購入します。他の材料・用具は大学で準備します。</p> <p>手法体験によっては衣服を汚す可能性がありますので、エプロン等の準備をしてください。</p>				

## 授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 授業の目的（幼児造形活動の意義と指導法） 成績について
2 回	<保育の内容「表現」領域 造形あそびの手法研究と製作意義（デカルコマニー、糸引き絵）> 幼児の表現の特徴と造形あそび
3 回	<造形あそび（フロータージュによる表現）> 手法の意義と実践
4 回	<えがく活動（墨汁によるにじみ等の表現）> 手法の意義と実践
5 回	<えがく活動（パチックによる鬼の表現）> 手法の意義と実践
6 回	<つくる活動（小麦粉粘土による食物）> 手法の意義と実践
7 回	<つくる活動（紙による動物の表現）> 手法の意義と実践
8 回	<他の造形あそびの手法と材料><教材作成に関するまとめ> 各種手法を学ぶ 幼児造形教材のまとめ
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
言葉とこどもの文化		1年・後期	講義	15時間 (1単位)	長 谷 雄 一
実務経験の概要					
授業概要	言葉の機能を理解し、絵本・紙芝居・おはなし・ことば遊び等、子どもの言葉を育む言語教材である児童文化財への専門的知識を深めると共に、児童文化財の研究をとおして、その利用の仕方について理解します。さらに学童期へ繋がる言葉について理解を深めます。また、グローバル時代を生きていく子どもたちに日本の伝統文化の豊かさを伝え、日本語の美しさや豊かさを育む感性を、文化財を通して養います。外国との文化の違いを理解し、その違いを共に楽しめる保育のあり方を考えます。				
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針の「言葉」の内容を踏まえた上で、児童文化財が子どもの言葉の習得にどのように役立つのかを理解します。</li> <li>2. 保育の現場で使用される絵本、紙芝居、おはなし、ことば遊び等の児童文化財の特質にあった活用法を学びます。</li> <li>3. 日本独自の文化やその文化を育ててきた日本語の美しさや豊かさを知り、保育に活用できる方法を学びます。</li> <li>4. 日本の文化を知ると共に、外国の文化との違いが、子どもの生活にどう影響しているかに気づき、言葉の発達に遅れがある子どもも共に楽しめる環境を整えられる工夫を考えます。</li> </ol>				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針における「言葉」の内容が理解でき、ことばを育む児童文化財について説明することができるようにします。</li> <li>2. ことばを育む文化財を使った指導法及び指導案の作成することができるようにします。</li> <li>3. 児童文化財の特色と扱いを知り、保育に生かせるようにします。</li> <li>4. 日本の伝統文化と外国の文化の違いなどを知り、国際的な視野を持って保育活動することができるようにします。</li> </ol>				
テキスト	保育所保育指針（最新版）／厚生労働省／フレーベル館 保育所保育指針解説書（最新版）／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼稚園教育要領（最新版）／文部科学省／フレーベル館 幼稚園教育要領解説（最新版）／文部科学省／フレーベル館				
参考書	絵本の事典／中川素子他編集／朝倉書店 昔話入門／小澤俊夫／ぎょうせい 絵本を読む 新装版／松居 直／日本エディタースクール出版部 保育における子ども文化／松本峰雄編著／わかば社 新訂事例で学ぶ保育内容 領域言葉／無藤 隆監修、宮里暁美編／萌文書林 演習 児童文化／保育内容としての実践と展開／小川清美／萌文書林				
フィードバックの方法	各講義共必ず講義ごとにリアクションペーパーを回収し、講義の気づき・質問を書いてもらい、次講義の時に、教師からフィードバックするようにする。また次講義のポイントを話し、予習を促す。				
基 礎 成 績 評 価	定期試験60%、授業・課題、提出物に取り組む姿勢20%、課題・提出物20%で総合的に評価します。				
受講の心構えとメッセージ	日本の児童文化は、非常に豊かな児童文化財を持っています。それらは、日本語という独特の美しく繊細な言語によって育まれてきました。その伝統の豊かさ、美しさを知り、グローバル時代を生きる子ども達の言語を豊かに育むことが出来るように、保育者自身が感性を磨き、子どもとの関わりの中で使っていきましょう。聞くこと、共に楽しむことによって、子どもは言葉を獲得していきます。児童文化財を通して、子どもの言葉を引き出す方法を考えていきましょう。まず、あなたたちが楽しむこと、ワクワクすることが大切です。積極的な授業参加を望みます。				
その他事項					

## 授業内容進行表

1 回	<ことばの機能と言葉の発達> 人間とことば、幼児とことば 乳幼児期のことばの発達と保育者の役割
2 回	<領域〈言葉〉のねらい及び内容> 幼稚園教育要領、保育所保育指針における「言葉」の目的と内容 児童文化財とは。児童文化財を使った指導案の作成法
3 回	<ことばを育てる児童文化財①> わらべ唄、唱え歌 想像力と絵本
4 回	<ことばを育てる児童文化財②> ごっこ遊び、劇あそび 紙芝居の歴史と扱い、実演
5 回	<ことばを育てる児童文化財③> ペープサート DVD 視聴 シアター (パネルシアター・エプロンシアターなど)
6 回	<ことばを育てる児童文化財④> ことばに対する感覚を養う児童文化財 文字と音韻、ことばあそび
7 回	<小学校国語につながる言葉の力> おはなし、文字環境と小学校国語につながる教材 日本語の美しさと伝統の豊かさを楽しむ感性と文化
8 回	<グローバル時代における子どもの文化、共に楽しむ意識> グローバル時代を生きる子どもと多文化共生 言語に遅れがみられる子どもと共に楽しむ意識と方法 学習のまとめと振り返り
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの保健	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	杉岡美佐子
実務経験の概要				
授業概要	<p>こどもの健康を守り、増進させ、健全な発育を保障するために、その基礎となる母性から小児の保健を総合的に学習します。</p> <p>こどもの健康にかかわる生活習慣や体調の変化における対応、また障害や慢性疾患を抱えているこどもへの支援についても考えていきます。</p>			
授業科目の目的	<p>こどもの健康と保健の意義を理解し、こどもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について理解します。またこどもの身体的な発育・発達や生理機能について学び、心身の健康状態と把握の方法について理解します。そして、こどもの疾患とその予防法および適切な対応について理解するとともに他職種間の連携・協働が図れる能力を育成することが目的となります。</p> <p>保育者に必要な保健の基礎的知識・技能をより高め、社会のニーズに対応できる学識と良識とを備えていきます。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. こどもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できるようにします。</li> <li>2. 現代社会におけるこどもの健康に関する現状と課題を理解し、論じることができるようにします。</li> <li>3. こどもの心身の疾病等と適切な対応について理解し、説明できるようにします。</li> <li>4. 個別にきめ細やかな配慮が必要なこどもの健康について考え、理解できるようにします。</li> <li>5. 保護者との情報共有、他職種間の連携・協働の下での適切な対応について、自ら実践できるようにします。</li> </ol>			
テキスト	<p>図解 子どもの保健 I 第2版/服部右子・大森正英 著/みらい            保育所保育指針解説 (最新版)/厚生労働省/フレーベル館</p>			
参考書	<p>保育所における感染症対策ガイドライン (2018年改訂版)/厚生労働省            保育所におけるアレルギー対応ガイドライン (2019年改訂版)/厚生労働省            教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時のためのガイドライン (平成28年3月)</p>			
フィードバックの方法	<p>授業の初めに、前回の授業のフィードバックから始めていきます。また、課題について、理解が不十分な点や再度の説明が必要な箇所は授業で説明していきます。</p>			
成績評価基準	<p>授業態度、課題提出30%、定期試験70%により総合的に評価します。</p>			
受講の心構えとセッション	<p>こどもの保健は、保育者としてだけでなく、自分のこれからの育児等にも役立つ重要な授業です。こどもたちの姿を浮かべながら意欲的に授業に取り組んでください。現場でも役に立つテキストに沿って授業を進めていきます。</p> <p>学びを深めるために、以下の予習・復習が必要です。</p> <p>予習：テキストを熟読し、問いかけに対して答えられるようにまとめておいてください。(約60分)            復習：授業での口頭説明やテキスト等を用いて、学びの要点をまとめておきます。(約60分)</p>			
その他	<p>必ずテキストを持参してください。</p>			

## 授業内容進行表

1 回	<こどもの心身の健康と保健の意義 1 > こどもの保健の意義と目的
2 回	<こどもの心身の健康と保健の意義 2 > こどもの保健の諸統計と母子保健について
3 回	<こどもの身体的発育・発達と保健 1 > 身体発育の特徴と評価の方法
4 回	<こどもの身体的発育・発達と保健 2 > 生理機能・運動機能の発達と保健
5 回	<こどもの身体的発育・発達と保健 3 > 精神（こころ）の発達と保健
6 回	<こどもの心身の健康と保健の意義 1 > 子どもを取り巻く生活環境と心身の保健
7 回	<こどもの心身の健康と保健の意義 2 > 地域における保健活動と子ども虐待防止
8 回	<こどもの心身の健康状態とその把握 1 > 子どもの生活習慣と健康
9 回	<こどもの心身の健康状態とその把握 2 > こどもの健康状態の観察、評価
10 回	<こどもの疾病の予防及び適切な対応 1 > 主な症状と対処法
11 回	<こどもの疾病の予防及び適切な対応 2 > 事故と安全指導および応急処置
12 回	<こどもの疾病の予防及び適切な対応 3 > 子どもの病気と予防
13 回	<こどもの疾病の予防及び適切な対応 4 > アレルギー疾患の特徴と適切な対応
14 回	<こどもの疾病の予防及び適切な対応 5 > 感染症の特徴と予防および対策
15 回	<こどもの心身の健康状態とその把握 3 > こどもの健康診断と保護者との情報共有、関係機関との連携
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
こどもの健康と安全		2年・後期	演習	15時間 (1単位)	杉 岡 美佐子
実務経験の概要					
授業概要	<p>講義と実技・演習で実践に役立つ、知識と技術を習得できるように進めます。          こどもの体調不良等に対する適切な対応や応急処置・救急処置ができるように取り組みます。          個別的な配慮を要する子ども等への対応を関係機関や他職種との連携も含めて保健的対応ができるように演習します。授業はグループワークを取り入れ、学生双方の学びと気づきを深めていきます。</p>				
授業科目の目的	<p>こどもの健康を理解し、成長・発達の把握、健康状態の把握、異常の早期発見、主な症状への対応、事故が発生した場合の対応（応急手当、救急処置）及び安全教育について理解し実践できる技術を身につけることを目的とします。また保育の場での環境衛生について理解します。さらに個別的な配慮を要する子どもへの対応とともに、家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携を図れる能力を身につけることを目的とします。</p>				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健的観点を踏まえた保育環境および援助ができるようにします。</li> <li>2. 保育における健康および安全の管理ができ、子どもへの保健活動の実践方法を考え、実践できるようにします。</li> <li>3. こどもの体調不良などに対する適切な対応ができるようにします。</li> <li>4. 子どもがよくかかる感染症の個別対応や集団発生予防について実践できるようにします。</li> <li>5. 個別的に配慮を要する子ども、障害をもつ子ども等への対応について理解できるようにします。</li> <li>6. 職員間、家庭、専門機関、地域の関係機関などとの連携の仕方を理解できるようにします。</li> </ol>				
テキスト	<p>子どもの健康と安全 演習ノート／小林美由紀著／診断と治療社          必要に応じてプリントを配布します。</p>				
参考書	<p>保育所における感染症対策ガイドライン（2018年改訂版）／厚生労働省          保育所におけるアレルギー対応ガイドライン（2019年改訂版）／厚生労働省          教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時のためのガイドライン（平成28年3月）          保育所保育指針解説（最新版）／厚生労働省／フレーベル館</p>				
の方法 フィードバック	<p>授業の初めに、前回の授業のフィードバックからはじめていきます。グループワーク学習では各グループでのまとめを全体で確認しあい、理解が不十分な点は随時補足していきます。実技試験後は、再度の説明が必要な個所について説明します。</p>				
基 礎 成 績 評 価	<p>授業態度、参加度10%、実技試験20%、定期試験70%により総合的に評価します。</p>				
メ ッ セ ー ジ 受 講 の 心 構 え と	<p>保育者として重要な科目です。事前学習をしっかりと主体的参加をしてください。実技・演習は何回でも繰り返し、自信が持てるようにしてください。グループワークでは他人の意見をよく聞き、まとめと発表の力をつけてください。          以下の予習・復習に取り組み、確実な知識・技術の修得に努めてください。          予習：グループワークや演習に積極的に取り組めるように、テキスト演習課題に取り組み、疑問点について調べておいてください。（約1時間）          復習：演習課題の振り返りやおさらいテストに取り組み、知識・技術の再確認をしてください。（約1時間）</p>				
のそ 事 項 他	<p>必ず、テキストを持参してください。</p>				

## 授業内容進行表

1 回	<保健的観点を踏まえた保育環境及び援助> ・こどもの健康と保育環境 ・こどもの保健に関する個別対応と集団の健康及び安全管理
2 回	<保育における健康及び安全管理 1 > ・衛生管理 ・事故防止及び安全対策
3 回	<保育における健康及び安全管理 2 > ・危機管理 ・災害への備え
4 回	<こどもの体調不良等に対する適切な対応 1 > ・体調不良や傷病が発生した場合の対応
5 回	<こどもの体調不良等に対する適切な対応 2 > ・応急処置
6 回	<こどもの体調不良等に対する適切な対応 3 > ・救急処置及び救急蘇生法の理解
7 回	<こどもの体調不良等に対する適切な対応 4 > ・救急処置及び救急蘇生法の実技
8 回	<感染症対策 1 > ・感染症の集団発生の予防
9 回	<感染症対策 2 > ・感染症発生時と罹患後の対応
10 回	<保育における保健的対応 1 > ・保育における保健的対応の基本的な考え方 ・3歳児未満児への対応
11 回	<保育における保健的対応 2 > ・個別的な配慮を要するこどもへの対応
12 回	<保育における保健的対応 3 > ・障害のあるこどもへの対応
13 回	<健康及び安全管理の実施体制 1 > ・保育における保健活動の計画及び評価
14 回	<健康及び安全管理の実施体制 2 > ・家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携
15 回	<学習のまとめと振り返り> ・これまでの授業のまとめと振り返り
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
子育て支援	2年・後期	演習	15時間 (1単位)	室谷雅美
実務経験の概要				
授業概要	現在の日本社会では少子化・核家族化に伴い、育児不安や親の育児負担が問題となっています。そのため、保育者や子育て支援者による、地域における子育て支援が重要な役割を果たしています。そこで、本授業では、主に子育て支援における現状とその支援のあり方について学んでいきます。さらに、保育士に子育てにおける多様な相談援助が求められる状況を理解し、具体的な実践力について、演習を通して高めていきます。適宜グループ・ワークを実施し、意見交換をします。			
授業科目の目的	保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解します。保育の専門性を活かした子育て支援の方法を身につけ、身近な子育て支援の現状を理解するとともに、自分たちができる子育て支援を考え、実践できることを目的とします。保育所・認定こども園などにおいて保育者が行う子育て支援の理論や方法について学び理解を深めます。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育士の行う保育相談支援について、その内容と展開を理解できるようにします。</li> <li>2. 相談支援について、様々な場や対象に即した支援方法を、実践例を通して理解できるようにします。</li> <li>3. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解できるようにします。</li> </ol>			
テキスト	保育所保育指針解説（最新版）／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説最新版（最新版）／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館			
参考書	新・基本保育シリーズ 子育て支援／西村重稀・青井夕貴 編集／中央法規／2019年			
フィードバックの方法	レポート課題は、次週以降にグループで確認し合い、理解が不十分な点は教員から説明をし、補足していきます。			
成績評価基準	授業態度10%、提出物・小テスト30%、定期試験60%により総合的に数量化して評価します。			
受講の心構えとメッセージ	日常生活から、ニュースやネットなどのさまざまな子育てに関する情報に関心をもち、情報を収集して下さい。その情報をもとに、今の日本の国の少子化の何が問題であり、どのような子育て支援が必要であるか考える。予習は各回の授業内容について、該当するテキストの箇所を読み、内容を整理しておくこと。この予習には90分～120分程度の学習時間を要します。復習は、授業内容を振り返り、学んだことを理解できたか確認をします。この復習には、90分～120分程度の学習時間を要します。			
その他				

## 授業内容進行表

1 回	<子育て支援・保護者支援とは> 子育て支援とは／保護者支援とは／保育所保育指針の「子育て支援」
2 回	<子どもの保育とともにを行う保護者の支援> 保育士の特性について／保育士の業務について
3 回	<日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成> 保護者との相互理解／保護者との信頼関係
4 回	<保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解> 保護者や家庭の状況／保護者の状況に配慮した個別の支援
5 回	<保育士の行う子育て支援の展開> 子育て支援におけるプロセスの意義／子ども及び保護者の状況・状態の把握
6 回	<支援の計画と環境の構成、支援の実践・記録・評価・カンファレンス> 支援の計画と環境構成／支援内容や方法の計画
7 回	<保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術）> 保育所等における支援／特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援 他
8 回	<社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働> 社会資源とはなにか／関係機関の役割と連携
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
保 育 原 理		1 年・前期	講義	30時間 (2単位)	國 光 みどり
実務経験の概要		幼稚園に14年、幼保連携型認定こども園に2年勤務した実務経験があります。 その間、クラス持ち主任(2年)、専任の副園長(4年)、園長(2年)に従事。			
授業概要	現代社会において子どもを取り巻く状況は日々複雑化しています。平成30年度からそれらを踏まえて新しい保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育指針保育が施行されて保育の現場は大きく変化しています。保育者はこのような状況を十分に理解した上で信念をもち保育を行っていく必要があります。そのためには現行の保育の制度を理解するとともに、保育の基本(理念・役割・歴史・実践等)を学び保育についての幅広い視野を養うことが重要です。本講義では保育者がそれらを踏まえ現代におけるよりよい保育のあり方を考え実践できる基礎力を養います。				
授業科目の目的	保育原理では、保育・教育に携わる者に求められる保育に関する基礎的な知識を学び、保育者としての視点を養い、保育・幼児教育の根幹をなす原理を追求します。現代社会における子どもを取り巻く状況や課題について考察し、子どもや保護者と向き合うことができる知識を養うとともに、乳幼児の特性に応じた保育を実践するための基礎的な力を養うことを本講義の目的とします。				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の意義及び目的について理解することができるようにします。</li> <li>2. 保育所に関する法令及び制度を理解することができるようにします。</li> <li>3. 保育所保育指針における保育の基本について理解し説明することができるようにします。</li> <li>4. 保育の思想と歴史の変遷について理解することができるようにします。</li> <li>5. 保育の現状と課題について意識をもち、論じることができるようにします。</li> </ol>				
テキスト	随時、配布します。				
参考書	保育所保育指針解説(最新版)／厚生労働省／フレーベル館 幼稚園教育要領解説(最新版)／文部科学省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館				
フィードバックの方法	レポート課題は次週以降、理解が不十分な個所については教員が随時捕捉説明をしていきます。				
成績評価基準	授業態度10%、レポート提出30%、定期試験60%により数量化して総合的に評価します。				
受講の心構えとメッセージ	<p>予習としては、今回のテーマについて参考文献等に目を通しておく必要があります。それには90分から120分間程度の学習時間を要します。</p> <p>復習としては授業の振り返りレポートを丁寧に作成し、重要項目をしっかりと押え把握します。それには90分から120分の時間を要します。レポートは必ず提出してください。毎時間の講義を大切に受講してください。</p>				
その他					

## 授業内容進行表

1 回	<保育とは何か> 保育の意義と目的
2 回	<保育者・保育施設に求められる役割 1 > 子どもの最善の利益を考慮した保育 理解したことを実際の行動につなぐ
3 回	<保育者・保育施設に求められる役割 2 > 保育の社会的意義
4 回	<保育所保育指針における保育の方法 1 > 保育の目標と内容 養護と教育の一体性
5 回	<保育所保育指針における保育の方法 2 > 環境による保育
6 回	<保育の過程> 子どもに応じた保育の方法や形態
7 回	<保育の計画 1 > 保育における計画の意義と変遷
8 回	<保育の計画 2 > 計画・実践・記録・省察・改善の循環
9 回	<保育に関する法令及び制度> 保育所に関する法令と制度
10 回	<保育の思想と歴史的変遷 1 > 欧米の保育思想の展開と保育施設の発展
11 回	<保育の思想と歴史的変遷 2 > わが国における保育の歴史的変遷
12 回	<保護者との連携と子育て支援> 保護者との関係性 保護者に対する子育て支援・連携の方法
13 回	<保育におけるさまざまな配慮> 個別の配慮と集団への配慮と具体的な方法
14 回	<保育の場における子育て支援> 子育て支援に関する基本的事項
15 回	<現代における日本の保育の現状と課題> 諸外国の保育の現状と課題 日本の保育の現状と課題
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
社会的養護 I	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	室谷雅美
実務経験の概要				
授業概要	<p>子どもにとって両親や家族と暮らすことが大切なのは言うまでもありませんが、さまざまな理由で両親や家族と暮らすことができない子どもたちがたくさんいます。社会的養護は、「子どもの最善の利益のために」と「社会全体で子どもを育む」を理念として行われていることを理解し、社会的養護を果たす保育士としての役割を学びます。保育士として身につけておかなければならない「子どもの権利擁護」の為に必要な視点・姿勢・専門知識について深く理解します。児童福祉施設での日常的な子どもとのかかわり・自立支援・子ども家庭サービスのあり方等についても学習します。適宜グループ・ワークを実施し、意見交換をします。</p>			
授業科目の目的	<p>社会的養護の基本と、里親など家庭養護と児童養護施設など施設養護の概要を知り、社会的養護に関する理論、歴史、政策、原理（原則）等について修得することを目的として学習します。さらに、社会的養護の概念と基本的な理念について学びます。子どもとその家庭の理解を踏まえ、理念や制度等の基礎的事項と援助に当たり必要となる実践力を効果的に習得します。また、現場で働く専門職や実施者の業務内容、求められる専門性についても学ぶことを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解することができるようになります。</li> <li>2. 児童の権利擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解することができるようになります。</li> <li>3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解することができるようになります。</li> <li>4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解することができるようになります。</li> <li>5. 社会的養護の現状と課題について理解することができるようになります。</li> </ol>			
テキスト	保育福祉小六法／保育福祉小六法編集委員会 編／みらい／2020年			
参考書	新・基本保育シリーズ 社会的養護 I／新保幸男・小林 理編集／中央法規／2019年			
フィードバックの方法	レポート課題は、次週以降にグループで確認し合い、理解が不十分な点は教員から説明をし、補足していきます。			
基準成績評価	授業態度10%、提出物・小テスト30%、定期試験60%により総合的に数量化して評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>現代社会では、児童虐待など子どもに関わる問題が深刻化され、それに伴い、児童福祉施設や里親など社会的養護のもとで生活する子どもたちが増えています。社会的養護で暮らす子どもたちの背景を知ることも大切であり、日々の社会の変化にも敏感であって欲しいです。そのためには、ニュースや本などから情報を得ることも大事なことです。</p> <p>予習は各回の授業内容について、該当する配布資料の箇所を読み、内容を整理しておくこと。この予習には90分から120分程度の学習時間を要します。</p> <p>復習には、授業内容を振り返り、学んだことを理解できたか確認をします。この復習には、約90分から120分の学習時間を要します。</p>			
その他				

## 授業内容進行表

1 回	<現代社会における社会的養護の意義> 社会的養護とは何か／社会的養護の理念と概念
2 回	<社会的養護の歴史の変遷> 諸外国における社会的養護の歩み／子ども観の変遷
3 回	<子どもの人権擁護と社会的養護> 子どもが家庭で育つ権利保障／社会的養護における虐待
4 回	<社会的養護の基本原則> 児童福祉法の改正／家庭教育にかかる社会的コスト
5 回	<社会的養護における保育士等の倫理と責務> 倫理とは／専門職の倫理としての職業倫理
6 回	<社会的養護の制度と法体系> 社会的養護の制度の根幹／社会的養護の基本法／社会的養護に関するさまざまな関連法規等
7 回	<社会的養護のしくみと実施体系> 社会的養護の基本的しくみ／社会的養護も実施体系
8 回	<社会的養護とファミリーソーシャルワーク> ソーシャルワークの定義／ファミリーソーシャルワーク
9 回	<社会的養護の対象と支援のあり方> 社会的養護の対象となる子どもや家庭について／児童虐待と社会的養護
10 回	<家庭養護と施設養護> 家庭養護の要件／里親制度の現状と課題
11 回	<社会的養護に関わる専門職> 社会的養護の施設に設置すべき職員の種類
12 回	<社会的養護に関する社会的状況> 現代社会における養護問題
13 回	<施設等の運営管理の現状と課題> 施設等の運営管理／社会的養護の利用類型
14 回	<被措置児童等の虐待防止の現状と課題> 被措置児童等虐待とは／被措置児童等の虐待防止／被措置児童等虐待の現状と課題
15 回	<社会的養護と地域福祉の現状と課題> 社会的養護関係の施設と地域とのかかわり／地域への支援
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
精 神 保 健		2 年・前期	講義	30時間 (2 単位)	野 口 和 也
実務経験の概要					
授 業 概 要	<p>精神保健は、こころの健康の保持・増進を目指すものであり、精神医学、身体医学、心理学、社会福祉学といった多岐にわたる領域から成り立つ科目となります。とくに、よく見受けられるこころの問題について解説を行います。また、学生の基礎的な知識の獲得と定着がしっかりとできているか、確認しながら授業を展開したいと思っています。</p> <p>さらに、精神保健が取り扱う領域や内容について説明しながら、適切なアプローチ方法、周囲への対応など実践についても学んでいきます。</p>				
授 業 科 目 の 目 的	<p>精神保健では、保育者がその専門活動に従事する中で関わりを持つ他機関との連携や協働を念頭に置き、基礎的な知識、科学的なエビデンスから学びを進めていきます。精神保健の実践は、単なる個人的な経験や感覚的な事柄に依拠して理解されるものではなく、系統的かつ体系的な知識の獲得が不可欠なものとなっていきます。</p> <p>そこで、精神保健では、精神疾患をはじめとするこころの健康問題について幅広く学ぶ機会を設け、どのようなアプローチの方法があり、どのような周囲への対応があるのかについて、理解できるようになることを目的とします。</p>				
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心身の健康増進を図る精神保健活動の意義を説明することができるようにします。</li> <li>2. 子どもの精神機能の発達と、その保健について知識を獲得することができるようにします。</li> <li>3. 精神疾患とその予防・対応の視点を持ち、実践に応用することができるようにします。</li> <li>4. 養育者への援助と対応について、イメージを持ち技術を獲得することができるようにします。</li> </ol>				
テ キ ス ト	随時配付します。				
参 考 書	<p>幼稚園教育要領（最新版）／文部科学省／フレーベル館  幼稚園教育要領解説（最新版）／文部科学省／フレーベル館  保育所保育指針（最新版）／厚生労働省／フレーベル館  保育所保育指針解説（最新版）／厚生労働省／フレーベル館  幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館  幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館</p>				
の 方 法	<p>レポートは、授業内で教員から提供される学びの要点をまとめる上で必要な情報の配布資料への書き込み、そして、各授業のテーマから設定している学びの要点の論述となります。レポートはそれぞれ教員がコメントを添えて次回以降の授業で返却します。</p> <p>定期試験の結果については、教務学生課での成績公表後、希望者が各自で研究室に訪問した際にフィードバックします。</p>				
基 準	授業態度10%、レポート30%、定期試験60%により総合的に数量化して評価します。				
メ ッ セ ー ジ	<p>こころの健康に関する問題は、特別なことではなく程度の差はあっても、誰もが抱える可能性があるものと言えます。また、自分自身は問題がなくても周囲の人がこころの健康を崩すこともあります。現代社会の中で保育の専門家として活動する際、精神保健の活動は重要な事柄になっていきます。ぜひとも、授業に真摯な姿勢で向き合い、子どもたちの精神保健だけでなく、養育者や周囲の人々の精神保健についても幅広く学びを深めていくことを期待しています。</p> <p>残念ながら、こころの健康にかかわる問題は、誤解した理解が多く、それにより人を傷つけてしまうこともあります。科学的な根拠に基づく知識を身につけられるように、予習・復習に取り組む真摯な姿勢を徹底し、さらに、こころの健康問題と、どのように向き合っていくかを考えてほしいと思います。</p> <p>予習：各回の授業内容には、学びのキーワードが設けられています。配付資料には、そのキーワードを学ぶための実践事例を記してあります。予習では実践事例を熟読し、今の自分自身の見方や考え方等から、問いかけに対して、まとめておく。講義は、そのまとめを伝え合うことから始めます。学びの要点も確認することを求めます。この予習には約90分から120分の学習時間を要します。</p> <p>復習：各授業回において、学びの要点「〇〇ができるようになる」が設けられています。講義のレジュメ、授業内での口頭説明やと参考書等を用いて、学びの要点をまとめておく。この復習には約90分から120分の学習時間を要します。</p>				
の 事 項					

## 授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション 精神保健とは1> 精神保健のねらい
2 回	<精神保健とは2> こころの健康とはなにか／子ども達のメンタルヘルスと教育現場の取り組み
3 回	<精神保健とは3> こころの健康とストレス
4 回	<精神保健の基礎1> 生理学的背景・要因（脳・神経系の仕組みと機能）
5 回	<精神保健の基礎2> 心理社会的な背景・要因
6 回	<精神保健の基礎3> 精神症状を読み解く／精神症状の6つのグループ
7 回	<発達と精神保健1> 胎児期・乳児期、幼児期・児童期の発達と精神保健
8 回	<こころの問題1> 基本となる10の疾患(1) 統合失調症 気分障がい 強迫性障がい
9 回	<こころの問題2> 基本となる10の疾患(2) パニック障がい 社交不安障がい アルコール依存症 心的外傷後ストレス障がい
10 回	<こころの問題3> 子どもの頃から現れやすい問題 神経性習癖／分離不安
11 回	<こころの問題4> うつ症状・摂食障がい（子どもと大人との同じところ、違うところ）
12 回	<こころの問題5> 強迫性障がい・睡眠障がい
13 回	<精神保健活動1> 母子の精神保健：子育て支援とこころの健康づくり
14 回	<精神保健活動2> 地域精神保健活動と保育：様々な診断方法、検診
15 回	<精神保健活動3> 精神保健活動における保育者の役割
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの食と栄養	2年・前期	演習	30時間 (2単位)	岡崎典子
実務経験の概要				
授業概要	現場の事例や演習を交え、自分の食生活も含めて食に対するあり方・態度を考えることのできる授業にしていきます。			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎栄養学をもとに、小児における栄養の特性と重要性を、現代社会における問題も含めて理解します。</li> <li>2. 食育の重要性を理解し、食育の実践力のある保育士を養成します。</li> </ol>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 五大栄養素の栄養生理について理解することができるようになります。</li> <li>2. 小児にとって適切な食事の献立内容を理解し、作成することができるようになります。</li> <li>3. 小児の栄養生理について理解することができるようになります。</li> <li>4. 母乳の意義について理解することができるようになります。</li> <li>5. 離乳の意義・実際について理解し、料理作業に活かす力を養うことができるようになります。</li> <li>6. 幼児期の栄養の意義について理解し、献立作成調理の実践に活かす力を養うことができるようになります。</li> <li>7. 学童期・思春期の栄養意義について理解することができるようになります。</li> <li>8. 集団給食と献立について理解することができるようになります。</li> <li>9. 小児の特徴的な疾患の食の対応について理解することができるようになります。</li> <li>10. 障害を持つ子どもの特徴と食の対応について理解することができるようになります。</li> <li>11. 食育の重要性を理解し、積極的に進められる力をつけることができるようになります。</li> </ol>			
テキスト	こどもの食と栄養演習 4版/小川雄二編著/建帛社 新食品成分表フーズサポーター (CD-ROM)付/新食品成分表編集委員会/東京法令出版			
参考書	こどもの食と栄養/堤ちはる・土井正子/萌文書林 授乳・離乳支援ガイド2007/厚生労働省 保育所におけるアレルギー対応ガイドライン2011/厚生労働省 保育所における食事の提供ガイドライン2012/厚生労働省 食物アレルギーの診療の手引き/厚生労働省科学研究班 学校保健統計調査2017/文部科学省			
フィードバックの方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業中の疑問や感想、小レポート修正など、再度説明が必要な個所について次回の授業で口頭説明をします。</li> <li>2. レポートはコメントをつけて次回授業に返却します。</li> <li>3. レポート課題などの材料にしたグループ演習を行います。</li> <li>4. 小テストの結果は、次週授業で返却し、その結果分析から再度説明が必要な個所については資料と口頭で説明をします。</li> <li>5. 小テストの結果は次週授業で振り返りさらに理解を深めてほしい部分については再度授業の中で取り上げます。</li> <li>6. 授業は前回のフィードバックから始めていきます。</li> </ol>			
基準成績評価	小論文・レポート作成・定期試験・授業態度を総合的に判定する。定期試験55%、提出物25%、授業態度20%とする。			
受講の心構えとメッセージ	小児における食べ方をめぐる問題は、その子の一生だけでなく次世代、その次の世代へ続く重要な問題です。また、食育基本法も施行され、社会的にも食に対する姿勢が大きく問われています。まず、自己の食生活を見つめ、指導の実践につなげられる力をしっかりつけられるよう真剣に学んでください。予習・復習にも取り組み学びを深めてください。予習復習は各々90分から120分の時間を要します。			
その他				

## 授業内容進行表

1 回	<栄養素・生理・代謝 1 > 3 大栄養素
2 回	<栄養素・生理・代謝 2 > ビタミンミネラル
3 回	<栄養と食品に関する基礎知識> 食事摂取基準と食品の基礎知識
4 回	<子どもの発育発達と栄養生理 1 > 食欲の仕組み
5 回	<子どもの発育発達と栄養生理 2 > 味覚と嗜好の仕組み
6 回	<子どもの発育発達と食生活 1 > 授乳期・離乳期の栄養
7 回	<子どもの発育発達と食生活 2 > 幼児期・学童期・思春期・妊娠期の栄養
8 回	<集団児童施設の献立作成と調理の基本> 献立作成のための基礎知識
9 回	<献立作成演習> 幼児期の献立
10 回	<演習 離乳期・幼児期の食事 1 > 離乳食・幼児食・おやつ調理実習
11 回	<演習 離乳期・幼児期の食事 2 > 離乳食・幼児食・おやつ調理実習
12 回	<特別な配慮を要する子どもの食と栄養> 体調不良と疾病・食物アレルギー・障害を持つ子どもの特徴と食生活
13 回	<食をめぐる問題とこれからの課題> 災害時の施設の役割・家庭と地域の連携・地域とのかかわり・環境問題・将来への展望
14 回	<食育の基本と内容> 食育基本法・保育所食事指針・食育計画
15 回	<食育演習> 食育の普及・食育だより・食育指導媒体
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
障 害 児 保 育		1 年・前期	演習	30時間 (2単位)	稲 田 達 也
実務経験の概要					
授業概要	近年、保育の現場では、発達への支援を必要とする子どもたちに対応する力が求められています。保育者は、様々な障害の特性と、子どもたちの個性に応じた「可能性」を引き出す関わり方について深く理解することが必要です。発達の遅れや障害の実態は、個々のケースによって多様です。それぞれの障害について学んだことを基礎として、応用力を持って一人ひとりに対応していく力を習得していきます。				
授業科目の目的	障害児保育を支える理念や歴史的変遷を踏まえ、発達の遅れや障害のある子どもに対する理解を深めます。さらに基本的な療育の実際、家庭への支援、関係機関との連携について、具体的に考察し習得することを目的とします。				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害児その他の配慮を要する子どもの特性を理解し、具体的な援助や保育における計画の作成について理解することができるようになります。</li> <li>2. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもへの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解することができるようになります。</li> <li>3. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解することができるようになります。</li> </ol>				
テキスト	基本保育シリーズ⑰障害児保育／西村重稀・水田敏郎 編／中央法規出版				
参考書	保育所保育指針解説（最新版）／厚生労働省／フレーベル館 幼稚園教育要領解説（最新版）／文部科学省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館				
フィードバックの方法	授業中に課した小レポートについては、修正や再度の説明が必要な個所については次回の授業で口頭にて説明します。小テスト及びレポートについては、次回以降の授業時に返却し、コメントの書き込み又は全体への説明が必要なものについては授業の中で取り上げます。				
成績評価基準	定期試験60%、授業態度・グループワークへの貢献度20%、小テスト及びレポート20%で総合的に評価します。				
受講の心構えとメッセージ	<p>保育者による障害のある子どもへの適切な対応は、その子どもの生涯の生活をより良いものにしていきます。さらに特別な支援を必要とする子どもへの適切な保育は、他の子どもにとっても質の高い保育となります。</p> <p>また、新聞やニュースを通して、障害児をとりまく社会環境の実態や変化に自ら関心を持つことも必要です。演習やグループワークも含めて、主体的に学び取る姿勢を持ち、予習・復習により学び深めてください。</p> <p>予習：毎回の授業の中で、予習課題を出します。テキストの中に答えがあるものもあれば、インターネットや参考図書等で調べることが必要なものもあります（所要時間90分から120分）。</p> <p>復習：毎回の授業の中で、復習課題を出します。授業の中の説明や、テキスト等を用いて、整理して記述するようにしてください（所要時間90分から120分）。</p>				
その他					

## 授業内容進行表

1 回	<障害の概念> 「障害」の概念と障害児保育の歴史の変遷
2 回	<障害児保育の基本> 障害のある子どもの地域社会への参加・包容及び合理的配慮の理解と障害児保育の基本
3 回	<肢体不自由児の理解と援助> 肢体不自由児の特性と必要な援助
4 回	<知的障害児の理解と援助> 知的障害児の特性と必要な援助
5 回	<視覚障害児の理解と援助> 視覚障害児の特性と必要な援助
6 回	<聴覚障害・言語障害児等の理解と援助> 聴覚障害・言語障害児等の特性と必要な援助
7 回	<発達障害児の理解と援助 1 > PDD - 広汎性発達障害等の特性と必要な援助
8 回	<発達障害児の理解と援助 2 > ADHD - 注意欠陥多動性障害、LD - 学習障害等の特性と必要な援助
9 回	<重症心身障害児、医療的ケア児の理解と援助> 重症心身障害児、医療的ケア児の特性と必要な支援
10 回	<その他の特別な配慮を要する子どもの理解と援助> 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題
11 回	<計画に基づいた支援> 個別の指導計画及び個別の支援計画の作成
12 回	<保育の場における障害児への対応> 個々の発達を促す生活や遊びの環境と子ども同士の育ちあい、健康と安全
13 回	<保護者や家族に対する理解と支援> 保護者・兄弟等への支援と、保護者間の交流
14 回	<障害児支援の制度と関係機関の連携・協働> 障害児支援の制度の理解と地域の関係機関、保健・医療との連携・協働
15 回	<支援の場の広がり> 職員間の連携と、小学校その他との協働
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
地域ボランティア	1～2年・通年	演習	30時間 (1単位)	西村 豊 稲田 達也
実務経験の概要				
授業概要	<p>地域における交流行事や福祉施設等における補助・援助、または各種団体・企業等において、30時間以上のボランティア活動を行います。</p> <p>先ず初めに、1年前期の事前指導において留意事項、プライバシー・個人情報への配慮事項等について説明します。自分が参加したいと思う場所や日時、活動内容等を決め、実際に活動します。活動後は、所定の活動日誌をすみやかに作成・押印し、担当教員等の確認印を受けて提出します。</p> <p>その後、2年後期に、事後指導を受けながら活動の成果や課題等についての活動報告書を作成し、みんなの前で発表します。</p>			
授業科目の目的	<p>本学ではこれまで、課外活動や公開講座等を通じた地域交流や、社会福祉施設等における多種多様な学生のボランティアを奨励してきました。</p> <p>すなわち本授業では、社会の一員としての学生の「人間力」を培う活動に対し、また学生の努力に対してそれらに報いるために、これらの活動を単位として認定し、一層の推進を図ることをその目的としています。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボランティア活動を通じて、地域社会を担っていく力を身に付けることができますようにします。</li> <li>2. 他者や社会の利益のために活動することが学生自身の楽しさや喜びとなり、ひいてはコミュニケーション能力を高める等、人間的に成長することができますようにします。</li> </ol>			
テキスト	必要に応じてプリント教材を配付します。			
参考書	<p>ボランティア活動の基礎と実際／米山岳廣編著／文化書房博文社／2,090円</p> <p>ボランティア まるごとガイド／安藤雄太監修／ミネルヴァ書房／1,650円</p> <p>ボランティアのすすめー基礎から実践までー／岡本榮一監修／ミネルヴァ書房／2,640円</p>			
フィードバックの方法	<p>最終的なフィードバックは事後指導となります。ただ、日々のボランティア活動の実践の中でその都度、各自が振り返り、反省し、次のボランティア活動にその反省をフィードバックするというサイクルをつくり、ボランティア活動を繰り返す中で、ボランティア活動に対する技術的な面だけではなく、人間的な成長へとつなげていってください。</p> <p>基本的にこの教科のフィードバックは、学生の皆さん一人一人に求められていると理解してください。</p>			
成績評価基準	「ボランティア活動合計時間」80%、ボランティア活動事前・事後指導の授業への「授業態度」、「活動最終報告書」20%により評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>「ボランティア」は誰か人のためにするものと思われがちです。しかし、大切なのは、社会と関わることによって初めて自分の中の新しい思いや感情に出会ったり、また今までとは違った自分に気づいたりすることなのです。「ボランティア活動」の経験は社会に出た時に大きな力になると確信しています。</p> <p>皆さんの自主的で楽しい活動を大いに期待しています。</p> <p>この教科の授業の柱は各自のボランティア活動の実践です。予習は事前指導がそれにあたります。復習は事後指導になります。</p>			
その他事項	「活動日誌」はボランティア活動終了後、すみやかに担当者まで提出してください。			

## 授業内容進行表

1 回	<ボランティア活動事前指導 1> ボランティア活動の「意義」と「定義」
2 回	<ボランティア活動事前指導 2> ボランティア活動に関する「事例」・「活動日誌」
3 回	ボランティア活動（各自）
4 回	ボランティア活動（各自）
5 回	ボランティア活動（各自）
6 回	ボランティア活動（各自）
7 回	ボランティア活動（各自）
8 回	ボランティア活動（各自）
9 回	ボランティア活動（各自）
10 回	ボランティア活動（各自）
11 回	ボランティア活動（各自）
12 回	ボランティア活動（各自）
13 回	<ボランティア活動事後指導 1> ボランティア活動を振り返って：「時間数の確認」、「感想」と「反省」
14 回	<ボランティア活動事後指導 2> ボランティア活動の「報告書」の作成
15 回	<ボランティア活動事後指導 3> ボランティア活動の「報告書」の発表および「まとめ」
【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと器楽・うた	2年・前期	演習	30時間 (1単位)	茨木 金吾・田上栄美子 大江美歩子・大谷妃早子 松本 裕子
実務経験の概要				
授業概要	<p>これまで学んできた音楽に関する基本的な知識や技能を活かして、授業を展開します。こどもは、音楽表現活動を通して、身近な音に気付いたり仲間とともに表現する喜びや楽しさ等を体験します。こどもの感性を育む保育実践力を身に付けるために、音楽表現活動(歌う、奏でる、動く、つくる等)を通して、表現する楽しさや演奏する喜び等を体験します。主な内容は、ピアノ演奏、アンサンブル演奏、合奏、合唱等です。これらの学習の成果を、「卒業演奏会」で発表します。演奏曲の決定、パート分け、パート練習、発表の企画立案は、話し合い検討しながら進めます。</p>			
授業科目の目的	<p>こどもの音楽表現活動には、「聴く活動」「歌う活動」「奏でる活動」「動く活動」「つくる活動」があげられます。幼児教育に携わる保育者が、豊かな感性を磨くことが、こどもの豊かな音楽表現活動につながります。そこで、保育者に求められる資質・能力の向上を目的に、学生各人が、これまで学んできた音楽に関する基本的な知識と技能を活かして様々な表現活動に取り組み、豊かな感性を養います。さらに、この活動を通して、表現の楽しさを味わったり、友達とともに演奏する喜びや難しさなどを学んだりします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題意識をもって授業に臨み、自ら課題をみつけ、それを解決しようと主体的に学習に取り組む態度を養うことができますようにします。</li> <li>2. 演奏形態の違う表現活動を体験することにより、感性を磨き、創意工夫しながら豊かな音楽表現を追求する取組みができるようにします。</li> <li>3. 「卒業演奏会」の企画を通して、演奏会までの計画立案、推進の手順がわかるとともに、自分の役割や立場を理解し、責任をもって取り組む姿勢を身に付けることができますようにします。</li> <li>4. 「自分(たち)の感じる(イメージする)音楽表現を発表する。」ことを通して、達成感・成就感、仲間との連帯感、協働することの意義など、表現活動を通してたくさんのことを学ぶことができますようにします。</li> </ol>			
テキスト	必要に応じて、プリント配付します。			
参考書	必要な資料、楽譜等を紹介します。			
フィードバックの方法	<p>授業で行う表現活動の取組について自己評価したり疑問や気付き及び感想などの振り返りをしたりする小レポートについて、コメントを付して次週以降の授業時に返却します。</p> <p>合唱、連弾、アンサンブル、合奏など仲間とともにつくりあげた作品を聴き合う発表会を随時行います。その演奏について皆さんと教員一緒に話し合い活動を行い、感想を出し合ったり今後の活動に繋がる助言を行ったりします。</p>			
成績評価基準	<p>1～3を総合的に数量化して評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主体的に学習に取り組む態度(授業態度や日々の課題に対する関心や意欲等)：20%</li> <li>2. 思考力、判断力、表現力(演奏の創意工夫)：20%</li> <li>3. 知識・技能(演奏のできばえ、自分の受け持つパートを責任をもって演奏する等)：60%</li> </ol>			
受講の心構えとメッセージ	<p>この授業は、皆さん自身の音楽性を存分に発揮し、仲間とともに創意工夫する過程を大切にしながらより豊かな音楽表現を追求する取り組みをします。そのためには、各自が受け持つ役割をしっかりと果たすことが大切になります。すなわち、毎回の授業の予習や復習等(練習や準備等)は欠かせません。1時間1時間の授業に課題意識をもって臨み意欲的に取組みましょう。</p> <p>予習：皆さんが受け持ったパートを責任もって行うためには、読譜や階名唱、リズム唱などの表現活動に必要な基礎・基本の学習は欠かせません。皆さんが苦手とすることに課題意識をもち主体的に取り組みましょう。この予習には、約30分の学習時間を要します。</p> <p>復習：各回の授業内容について、不足していたことや補充が必要なことを特に取り上げ、取組みましょう。日々繰り返し行うことが技能の定着に繋がります。この復習には、毎日約15分～30分の学習時間を要します。繰り返し取組み励みましょう。</p>			
その他事項	<p>授業の中で楽譜や資料等を適宜配付します。</p> <p>楽譜等を綴じますので、ファイル(できれば、クリアーファイル、A4サイズ)を用意してください。各回の授業の小レポートを綴じるファイル(A4・二つ穴)を用意してください。</p>			

## 授業内容進行表

1 回	オリエンテーション (学習の目標、授業内容、学習方法等について) 企画立案 (1)合唱(パートを決める) (2)合奏(各楽器の担当を決める) (3)アンサンブル(グループ、演奏曲、各楽器の担当を決める) (4)連弾(演奏するペア、演奏曲を決める)
2 回	合唱曲【A】の練習1 (練習課題の確認→パート練習(階名唱、歌詞唱)→合唱) アンサンブル練習1 (練習課題の確認→パート練習→合奏)
3 回	合唱曲【A】の練習2 (練習課題の確認→パート練習(階名唱、歌詞唱)→合唱) 合奏曲【A】の練習1 (練習課題の確認→パート練習→合奏)
4 回	合唱曲【A】の練習3 (練習課題の確認→合唱→パート練習→合唱) アンサンブル練習2 (練習課題の確認→パート練習→合奏)
5 回	ピアノ(連弾)練習1 合奏曲【A】の練習2 (練習課題の確認→パート練習→合奏)
6 回	ピアノ(連弾)練習2 合奏曲【A】の練習3 (練習課題の確認→パート練習→合奏)
7 回	ピアノ(連弾)練習3 アンサンブル練習3 (練習課題の確認→パート練習→合奏)
8 回	合唱曲【A】の練習4 (練習課題の確認→パート練習→合唱) アンサンブル練習4 (練習課題の確認→パート練習→合奏)
9 回	ピアノ(連弾)練習4 合唱曲【B】の練習1 (練習課題の確認→パート練習(階名唱、歌詞唱)→合唱)
10 回	ピアノ(連弾)練習5 アンサンブル練習5 (練習課題の確認→パート練習→合奏)
11 回	合奏曲【A】練習4 (練習課題の確認→合奏) アンサンブル練習6 (発表)
12 回	ピアノ(連弾)練習6 アンサンブル練習7 (振り返りと練習)
13 回	合唱曲【B】の練習2 (練習課題の確認→パート練習(階名唱、歌詞唱)→合唱) 合奏曲【B】の練習1 (練習課題の確認→パート練習→合奏)
14 回	合唱曲【A】の発表 ピアノ(連弾)練習7
15 回	ピアノ(連弾)発表 合奏曲【B】の練習2 (練習課題の確認→パート練習→合奏) 活動のふりかえり
【定期試験】 有 ・ (無)	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
こどもと器楽・うたⅡ		2年・後期	演習	30時間 (1単位)	茨木 金吾・田上栄美子 大江美歩子・大谷妃早子 松本 裕子
実務経験の概要					
授 業 概 要	「こどもと器楽・うた」の授業等で学んできた「知識・技能」を活かして、さらに豊かな音楽表現をめざす授業を展開します。学生各人の感性を働かせて、音楽表現を工夫・創造する過程や音に対して心を配り、きれいな音、美しい音色を求める姿勢や態度等を通して身に付けます。また、授業は、複数(連弾は2人、アンサンブルはグループ、合唱や合奏等は全員)で表現活動に取り組みます。演奏を仲間と振り返ったり、課題をみつけ手立てを講じたりする等、対話と協働によってよりよいものを創り上げる過程を体験します。演奏する主な内容は、ピアノ演奏、アンサンブル演奏、合奏、合唱等です。これらの学習の成果を、「卒業演奏会」で発表します。				
授 業 科 目 の 目 的	こどもの音楽表現活動には、「聴く活動」「歌う活動」「奏でる活動」「動く活動」「つくる活動」があげられます。幼児教育に携わる保育者が豊かな感性を磨くことが、こどもの豊かな音楽表現活動につながります。そこで、保育者に求められる資質・能力の向上を目的に、学生各人が、「こどもと器楽・うた」等で学んできた「知識・技能」を活かし、感性や表現する力等を培い創造性を豊かにします。さらに、演奏における知識・技能の習得だけでなく、仲間とともに音楽づくりをする活動を通して表現の楽しさやおもしろさを味わったり、仲間とともに演奏する喜びや難しさなどを学びます。				
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分のもつ課題を解決しようと、主体的に取り組むとともに積極的に授業に臨む態度、意欲を養うことができますようにします。</li> <li>2. 「卒業演奏会」を実施するためのプログラム構成、練習計画立案や企画推進等の手順等を体験することから実践への理解を図ることができるとともに、創意工夫して練習に取り組むことができますようにします。</li> <li>3. 自分の役割や立場を理解し責任もって取り組む等、主体的に学ぶ姿勢や態度を身に付けることができますようにします。</li> <li>4. 「自分(たち)の感じる(イメージする)音楽表現を発表する。」ことを通して、達成感・成就感、仲間との連帯感、協働することの意義など、多くのことを学ぶことができますようにします。</li> </ol>				
テ キ ス ト	必要に応じて、プリント配付します。				
参 考 書	必要な資料、楽譜等を紹介します。				
フ ィ ー ド バ ッ ク の 方 法	各回の授業で行う音楽表現活動実践から、自己評価したり創意工夫したりなどの振り返りの小レポートについて、コメントを付して次週以降の授業時に返却します。 取り組みを発表する場を設定し、演奏や音楽づくり等について助言します。技能的に不十分な点は、随時補足していきます。				
成 績 評 価 基 準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1～3を総合的に数量化して評価します。</li> <li>1. 主体的に学習に取り組む態度(授業態度や日々の課題に対する関心や意欲等)：20%</li> <li>2. 思考力、判断力、表現力(演奏の創意工夫)：20%</li> <li>3. 知識・技能(演奏のできばえ、自分の受け持つパートを責任もって演奏する等)：60%</li> </ol>				
メ ッ ク の 心 構 え と セ ー ジ	<p>「こどもと器楽・うた」で創り上げた表現を吟味し、さらに豊かな表現を目指そうとする意識をもって取り組みましょう。そのためには、仲間と意見を出し合ったり工夫したりすることは、とても大切な活動です。自分の考えをもち、仲間の考えに耳を傾け、ともにつくりあげようと取り組む態度で臨みましょう。そのためには、予習や復習は欠かせません。表現活動を支えるスキルを身に付けるために、課題意識を持って取り組みましょう。</p> <p>予習：次回の授業予告から表現活動に必要な基礎・基本の技能(読譜や階名唱、リズム唱等)について主体的に取り組みましょう。この予習には、約15分～30分の学習時間を要します。</p> <p>復習：各回の授業の「めあて」の到達に十分でない事項について、補充する時間を設け技能の習得に励みましょう。復習に必要な時間は、毎日約15分～30分の学習時間を要します。くり返し行い取り組み励みましょう。</p>				
の そ の 事 項 他	授業の中で楽譜や資料等を適宜配付します。 楽譜等を綴じますので、ファイル(できれば、クリアーファイル、A4サイズ)を用意してください。 各回の授業の小レポートを綴るためのファイル(A4・二つ穴)を用意してください。				

## 授業内容進行表

1 回	オリエンテーション (学習の目標、授業内容、学習方法等について) アンサンブル練習1 (練習課題の確認→合奏) ピアノ(連弾)練習1
2 回	合唱曲【A・B】の練習1 (練習課題の確認→パート練習〈階名唱→歌詞唱〉→合唱) ピアノ(連弾)練習2
3 回	合唱曲【A・B】の練習2 (練習課題の確認→パート練習(成果発表)→合唱) ピアノ(連弾)練習3
4 回	合奏曲【A・B】の練習 (練習課題の確認→パート練習→合奏) ピアノ(連弾)練習4
5 回	アンサンブル練習2 (練習課題の確認→合奏)と成果発表 ピアノ(連弾)練習5
6 回	アンサンブル練習3 (練習課題の確認→合奏)と成果発表 ピアノ(連弾)練習6
7 回	演奏会のプログラム構成について計画立案 総合練習1 (合唱・アンサンブル)
8 回	総合練習2 (合唱・合奏)
9 回	総合練習3 (合唱・合奏)
10 回	ピアノ(連弾)練習7
11 回	リハーサル1 (ピアノ〈連弾〉、合唱)
12 回	リハーサル2 (アンサンブル、合奏)
13 回	リハーサル3 (プログラム前半の通し練習) 成果発表 (アンサンブル)
14 回	リハーサル4 (プログラム後半の通し練習) 成果発表 (ピアノ演奏)
15 回	成果発表 (合唱) 活動のまとめとふりかえり
【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
特別研究 I	1年・通年	演習	60時間 (2単位)	担当教員
実務経験の概要				
授業概要	<p>保育者に求められる資質、能力が身に付くような授業内容を展開します。前期は、豊岡キャンパスは、保育×アート・ミュージック・国際・自然、姫路キャンパスは、保育×心理学・表現・食育・ICT の分野を1・2年の少人数に分かれて授業を展開し、後期は、学生各人の経験を大切にするために、4グループ(児童文化/身体表現)に分け、複数の教員が各グループを担当し、子どもの文化について理論的に捉え、保育方法や技術を習得します。さらに、学習の成果を地域の子どもたちに「こどもフェスタ」を通して上演し交流を図ります。また、土曜日に集中講義形式で学外での自然体験学習も行い保育者としての資質を高めます。</p>			
授業科目の目的	<p>1年生と2年生が協働での実践体験、さらに自然体験により、下記の保育者に必要な力をつけることを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育現場に興味を持ち、保育職に就くことへの意欲の向上と知識を習得します。</li> <li>2. 実践的取り組みによる経験知の蓄積を図ります。</li> <li>3. 実践活動を通して保育専門職としての基本的資質を培います。</li> <li>4. 1年生、2年生そして教員など、異世代間コミュニケーションをとりながら保育者としての資質を養います。</li> <li>5. 自然を全身で感じとる体験の中で、様々な事象に興味や関心を持ち、保育者として自然に対しての知識や関わり方等、実践的な力を身につけます。</li> </ol>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 積極的に授業に臨み、日々の課題に対する関心などを持ち行動することができるようにします。(関心・意欲・態度)</li> <li>2. 企画から発表に向けた計画を立てると共に実践することができるようにします。(思考・判断)</li> <li>3. 自分の役割を踏まえて、責任感と協調性を持って授業に臨むことができるようにします。(協調性)</li> <li>4. 課題に沿った製作物等を作ったり、演技などで表現したりすることができるようにします。(製作物や演技などの内容や発表)</li> </ol>			
テキスト	必要に応じてプリントを配付します。			
参考書	各グループで必要な参考書を紹介します。			
フィードバックの方法	毎回の授業の初めに、前回までの進捗状況を確認し合いながら、授業を始めます。お互いに、わかりにくいことなどは、質問しあい、共通理解した上で、授業を進めていくこととします。			
成績評価基準	<p>次の条件を総合的に検討して評価します。</p> <p>〈保育×分野〉と〈こどもフェスタに向けた取り組み〉について下記の項目で評価を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関心・意欲・態度(授業態度や日々の課題に対する意欲・関心など)：25%</li> <li>2. 思考・判断(企画力・創造力・実践力など)：25%</li> <li>3. 協調性(協力・責任感など)：25%</li> <li>4. 製作物や演技など内容や発表(製作・表現・発表力など)：25%</li> </ol> <p>最終成績は、〈保育×分野〉30%、〈こどもフェスタに向けた取り組み〉70%で換算して評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>各自の役割を責任をもって実行し、一人ではできない役割を主体性をもって仲間とともに創り上げ、協調性を身に付けましょう。</p> <p>そして意欲的に取り組み表現することで、保育者としての基本的な技能・技術を身に付けましょう。</p> <p>自然体験では、五感を通して感じ、保育と自然環境について学びましょう。</p> <p>こどもフェスタの発表に向けての取り組みは、限られた時間の中で、子どもたちにとって最高の作品を作る必要があります。毎回の授業の後には、復習として、各自で練習をし、表現力などを高めておいてください。また、セリフなどは事前に覚えるなどの予習も必要となります。</p>			
その他	前期は保育と各分野での融合についてグループ単位で学びます。後期は、こどもフェスタに向け、1年生・2年生合同で取り組むこととなります。また、自然体験学習は集中講義形式(土曜日に実施予定)で行うため、授業進行計画が変わるので留意すること。			

## 授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> グループ分け、各講座の紹介	16 回	オリエンテーション グループ分け（A：児童文化①、B：児童文化②、 C：身体表現①、D：身体表現②、姫路：児童文化）
2 回	<保育×分野①> 豊A：アート 豊B：ミュージック 豊C：国際 豊D：自然 姫路：心理学	17 回	各グループで活動計画の設定
3 回	<保育×分野②> 豊A：アート 豊B：ミュージック 豊C：国際 豊D：自然 姫路：心理学	18 回	各グループで制作、練習①
4 回	<保育×分野③> 豊A：ミュージック 豊B：国際 豊C：自然 豊D：アート 姫路：ICT〈アニメ〉	19 回	各グループで制作、練習②
5 回	<保育×分野④> 豊A：ミュージック 豊B：国際 豊C：自然 豊D：アート 姫路：ICT〈アニメ〉	20 回	各グループで制作、練習③
6 回	<保育×分野⑤> 豊A：国際 豊B：自然 豊C：アート 豊D：ミュージック 姫路：食育	21 回	各グループで制作、練習④
7 回	<保育×分野⑥> 豊A：国際 豊B：自然 豊C：アート 豊D：ミュージック 姫路：食育	22 回	各グループで制作、練習⑤
8 回	<保育×分野⑦> 豊A：自然 豊B：アート 豊C：ミュージック 豊D：国際 姫路：表現	23 回	各グループで制作、練習⑥
9 回	<保育×分野⑧> 豊A：自然 豊B：アート 豊C：ミュージック 豊D：国際 姫路：表現	24 回	各グループで制作、練習⑦
10 回	<保育×分野⑨> 豊A：アート 豊B：ミュージック 豊C：国際 豊D：自然 姫路：心理学	25 回	各グループで制作、練習⑧
11 回	<自然体験①> 自然体験のあり方 安全管理	26 回	A・B・C・D・姫路：「こどもフェスタ」オー プニング、エンディングの練習1
12 回	<自然体験②> *集中講義 自然体験実習	27 回	A・B・C・D・姫路：「こどもフェスタ」オー プニング、エンディングの練習2
13 回	<自然体験③> *集中講義 自然体験実習	28 回	A・B・C・D・姫路：「こどもフェスタ」上 演リハーサル
14 回	<自然体験④> *集中講義 自然体験実習	29 回	A・B・C・D・姫路：「こどもフェスタ」上 演
15 回	<自然体験⑤> 自然体験実習の振り返り	30 回	A・B・C・D・姫路：「こどもフェスタ」記 録映像の鑑賞と反省会（活動の振り返り） A・B・C・D・姫路：報告集づくり
		【定期試験】 有 ・ (無)	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
特別研究Ⅱ		1年・後期	演習	30時間 (2単位)	担 当 教 員
実務経験の概要					
授業概要	<p>保育者に求められる資質、能力を高められるように「こどもフェスタ」に向けた取り組みを行います。学生各人の経験を大切にするために、4グループ（児童文化／身体表現）に分け、複数の教員が各グループを担当し、子どもの文化について理論的に捉え、保育方法や技術を習得します。さらに、学習の成果を地域の子どもたちに「こどもフェスタ」を通して上演し交流を図ります。</p>				
授業科目の目的	<p>1年生と2年生が協働での実践体験により、下記の保育者に必要な力をつけることを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育現場に興味を持ち、保育職に就くことへの意欲の向上と知識を習得します。</li> <li>2. 実践的取り組みによる経験知の蓄積を図ります。</li> <li>3. 実践活動を通して保育専門職としての基本的資質を培います。</li> <li>4. 1年生、2年生そして教員など、異世代間コミュニケーションをとりながら保育者としての資質を養います。</li> </ol>				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 積極的に授業に臨み、日々の課題に対する関心などを持ち行動することができるようにします。(関心・意欲・態度)</li> <li>2. 企画から発表に向けた計画を立てると共に実践することができるようにします。(思考・判断)</li> <li>3. 自分の役割を踏まえて、責任感と協調性を持って授業に臨むことができるようにします。(協調性)</li> <li>4. 課題に沿った製作物等を作ったり、演技などで表現したりすることができるようにします。(製作物や演技などの内容や発表)</li> </ol>				
テキスト	必要に応じてプリントを配付します。				
参考書	各グループで必要な参考書を紹介します。				
フィードバックの方法	毎回の授業の初めに、前回までの進捗状況を確認し合いながら、授業を始めます。お互いに、わかりにくいことなどは、質問しあい、共通理解した上で、授業を進めていくこととします。				
成績評価基準	<p>次の条件を総合的に検討して評価します。</p> <p>〈こどもフェスタに向けた取り組み〉について下記の項目で評価を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関心・意欲・態度（授業態度や日々の課題に対する意欲・関心など）：25%</li> <li>2. 思考・判断（企画力・創造力・実践力など）：25%</li> <li>3. 協調性（協力・責任感など）：25%</li> <li>4. 製作物や演技など内容や発表（製作・表現・発表力など）：25%</li> </ol>				
受講の心構えとメッセージ	<p>各自の役割を責任をもって実行し、一人ではできない役割を主体性をもって仲間とともに創り上げ、協調性を身に付けましょう。</p> <p>そして意欲的に取り組み表現することで、保育者としての基本的な技能・技術を身に付けましょう。</p> <p>こどもフェスタの発表に向けての取り組みは、限られた時間の中で、子どもたちにとって最高の作品を作る必要があります。毎回の授業の後には、復習として、各自で練習をし、表現力などを高めておいてください。また、セリフなどは事前に覚えるなどの予習も必要となります。</p>				
その他					

## 授業内容進行表

1 回	オリエンテーション グループ分け (A：児童文化①、B：児童文化②、C：身体表現①、D：身体表現②、姫路：児童文化)
2 回	各グループで活動計画の設定
3 回	各グループで制作、練習①
4 回	各グループで制作、練習②
5 回	各グループで制作、練習③
6 回	各グループで制作、練習④
7 回	各グループで制作、練習⑤
8 回	各グループで制作、練習⑥
9 回	各グループで制作、練習⑦
10 回	各グループで制作、練習⑧
11 回	A・B・C・D・姫路：「こどもフェスタ」オープニング、エンディングの練習1
12 回	A・B・C・D・姫路：「こどもフェスタ」オープニング、エンディングの練習2
13 回	A・B・C・D・姫路：「こどもフェスタ」上演リハーサル
14 回	A・B・C・D・姫路：「こどもフェスタ」上演
15 回	A・B・C・D・姫路：「こどもフェスタ」記録映像の鑑賞と反省会（活動の振り返り） A・B・C・D・姫路：報告集づくり
【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
特別研究Ⅲ	2年・通年	演習	60時間 (2単位)	担当教員
実務経験の概要				
授業概要	<p>保育者に求められる資質、能力が身に付くような授業内容を展開します。前期は、豊岡キャンパスは、保育×アート・ミュージック・国際・自然、姫路キャンパスは、保育×心理学・表現・食育・ICTの分野を1・2年の少人数に分かれて授業を展開し、後期は、学生各人の経験を大切にするために、5グループ(児童文化・身体表現)に分け、複数の教員が各グループを担当し、子どもの文化について理論的に捉え、保育方法や技術を習得します。さらに、学習の成果を地域の子どもたちに「こどもフェスタ」を通して上演し交流を図ります。また、土曜日に集中講義形式で学外での自然体験学習も行き保育者としての資質を高めます。</p>			
授業科目の目的	<p>1年生と2年生が協働で、また上級生として責任感を持った実践体験活動、さらに自然体験により、下記の保育者に必要な力をつけることを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育現場に興味を持ち、保育職に就くことへの意欲の向上と知識を習得します。</li> <li>2. 実践的取り組みによる経験知の蓄積を図ります。</li> <li>3. 実践活動を通して保育専門職としての基本的資質を培います。</li> <li>4. 1年生、2年生そして教員など、異世代間コミュニケーションをとりながら保育者としての資質を養います。</li> <li>5. 自然を全身で感じとる体験の中で、様々な事象に興味や関心を持ち、保育者として自然に対しての知識と遊び方等の実践的な力を身につけます。</li> </ol>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 積極的に授業に臨み、日々の課題に対する関心などを持ち行動することができるようにします。(関心・意欲・態度)</li> <li>2. 企画から発表に向けた計画を立てると共に実践することができるようにします。(思考・判断)</li> <li>3. 自分の役割を踏まえて、責任感と協調性を持って授業に臨むことができるようにします。(協調性)</li> <li>4. 課題に沿った製作物等を作ったり、演技などで表現したりすることができるようにします。(製作物や演技などの内容や発表)</li> </ol>			
テキスト	必要に応じてプリントを配付します。			
参考書	各グループで必要な参考書を紹介します。			
フィードバックの方法	毎回の授業の初めに、前回までの進捗状況を確認し合いながら、授業を始めます。お互いに、わかりにくいことなどは、質問しあい、共通理解した上で、授業を進めていくこととします。			
成績評価基準	<p>次の条件を総合的に検討して評価します。</p> <p>〈保育×分野〉と〈こどもフェスタに向けた取り組み〉について下記の項目で評価を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関心・意欲・態度(授業態度や日々の課題に対する意欲・関心など)：25%</li> <li>2. 思考・判断(企画力・創造力・実践力など)：25%</li> <li>3. 協調性(協力・責任感など)：25%</li> <li>4. 製作物や演技など内容や発表(製作・表現・発表力など)：25%</li> </ol> <p>最終成績は、〈保育×分野〉30%、〈こどもフェスタに向けた取り組み〉70%で換算して評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>各自の役割を責任をもって実行し、一人ではできない役割を主体性をもって仲間とともに創り上げ、協調性を身に付けましょう。そして、2年生として、また昨年度の経験者として、1年生を指導していく立場で意欲的に取り組み表現することで、保育者としての基本的な技能・技術を身に付けましょう。</p> <p>自然体験では、五感を通して感じ、保育と自然環境について学びましょう。</p> <p>各自の役割を責任をもって実行することと、一人ではできない役割を主体性をもって仲間とともに創り上げ、協調性を身に付けましょう。</p> <p>こどもフェスタの発表に向けての取り組みは、限られた時間の中で、こどもたちにとって最高の作品を作る必要があります。毎回の授業の後には、復習として、各自で練習をし、表現力などを高めておいてください。また、セリフなどは事前に覚えるなどの予習も必要となります。</p>			
その他	<p>前期は保育と各分野での融合についてグループ単位で学びます。</p> <p>後期は、こどもフェスタに向け、1年生・2年生合同で取り組むことになります。また、自然体験学習は集中講義形式(土曜日に実施予定)で行うため、授業進行計画が変わるので留意すること。</p>			

## 授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> グループ分け、各講座の紹介	16 回	オリエンテーション グループ分け（A：児童文化①、B：児童文化②、 C：身体表現①、D：身体表現②、姫路：児童文化）
2 回	<保育×分野①> 豊A：アート 豊B：ミュージック 豊C：国際 豊D：自然 姫路：心理学	17 回	各グループで活動計画の設定
3 回	<保育×分野②> 豊A：アート 豊B：ミュージック 豊C：国際 豊D：自然 姫路：心理学	18 回	各グループで制作、練習①
4 回	<保育×分野③> 豊A：ミュージック 豊B：国際 豊C：自然 豊D：アート 姫路：ICT〈アニメ〉	19 回	各グループで制作、練習②
5 回	<保育×分野④> 豊A：ミュージック 豊B：国際 豊C：自然 豊D：アート 姫路：ICT〈アニメ〉	20 回	各グループで制作、練習③
6 回	<保育×分野⑤> 豊A：国際 豊B：自然 豊C：アート 豊D：ミュージック 姫路：食育	21 回	各グループで制作、練習④
7 回	<保育×分野⑥> 豊A：国際 豊B：自然 豊C：アート 豊D：ミュージック 姫路：食育	22 回	各グループで制作、練習⑤
8 回	<保育×分野⑦> 豊A：自然 豊B：アート 豊C：ミュージック 豊D：国際 姫路：表現	23 回	各グループで制作、練習⑥
9 回	<保育×分野⑧> 豊A：自然 豊B：アート 豊C：ミュージック 豊D：国際 姫路：表現	24 回	各グループで制作、練習⑦
10 回	<自然体験①> 自然体験実習の事前学習	25 回	各グループで制作、練習⑧
11 回	<自然体験②> 自然体験のあり方 安全管理	26 回	A・B・C・D・姫路：「こどもフェスタ」オー プニング、エンディングの練習1
12 回	<自然体験③> *集中講義 自然体験実習	27 回	A・B・C・D・姫路：「こどもフェスタ」オー プニング、エンディングの練習2
13 回	<自然体験④> *集中講義 自然体験実習	28 回	A・B・C・D・姫路：「こどもフェスタ」上 演リハーサル
14 回	<自然体験⑤> *集中講義 自然体験実習	29 回	A・B・C・D・姫路：「こどもフェスタ」上 演
15 回	<自然体験⑥> 自然体験実習の振り返り	30 回	A・B・C・D・姫路：「こどもフェスタ」記 録映像の鑑賞と反省会（活動の振り返り） A・B・C・D・姫路：報告集づくり
		【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
特別研究Ⅳ	2年・通年	演習	60時間 (2単位)	担当教員
実務経験の概要				
授業概要	<p>本学の建学の精神「人に愛される人 信頼される人 尊敬される人を育成することにある」の理解と、本学が掲げる「共生の心」を備えた人材の育成に基づき、本学での学ぶための基礎的な心構えと態度を養い、卒業後も視野にいたれた社会人基礎力を養います。</p> <p>また、体験的な学習を多く取り入れ、学生間、学生と教職員といった様々な人間関係に基づく、コミュニケーション力の向上、課題解決力の向上を目指します。</p> <p>こどもフェスタに向けて、学生同士のコミュニケーションのもと、幼児教育現場で活かされる発表をつくりあげます。</p>			
授業科目の目的	<p>本学の「建学の精神」を理解し、「共生の心」を身につけ、本学の学びが、人格形成や社会人基礎力をはぐくみ、卒業の進路において、より豊かな人生をおくれるような人材育成を行います。</p> <p>また、短期大学で学ぶという観点から、勉学、研究、実習など、物事に積極的に取り組む力を身につけることを目的としています。</p> <p>こどもフェスタに向け、(身体表現/児童文化)のグループに分かれて発表作品を作り上げます。</p>			
学習成果	<p>建学の精神にもとづき、下記の5点が学習成果となります</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間は人間だけで生きているのではなく、自然のなかで他の生命とともに、生かされているという認識を持つとともに、その思想を実践する力を身につけることができますようにします。</li> <li>2. 専門職業人としての基本的な倫理観を養うとともに、他人を思いやる心を身につけることができますようにします。</li> <li>3. 専門職に必要な基礎的知識・技術を修得するとともに、創造性を身につけることができますようにします。</li> <li>4. 社会・歴史に対する深い洞察力を身につけるとともに、豊かな人間性を身につけることができますようにします。</li> <li>5. 国際社会に適応しうる感性を育むとともに、異文化を理解しうる力を身につけることができますようにします。</li> </ol>			
テキスト	随時資料を配付します。			
参考書	随時紹介します。			
方法	各授業の最後に、振り返りシートを提出してもらいます。各教員が、振り返りシートを添削し、返却します。その際、さらに学びを深めてほしい内容等を紹介します。			
成績評価基準	<p>次の条件を総合的に検討して評価します。</p> <p>&lt;各講座ごとの学び&gt;</p> <p>各授業ごとの授業態度・意欲30%、課題(振り返りシート含む)を70%として評価し、校内での授業と合宿での学びを総合して評価します。</p> <p>&lt;こどもフェスタに向けた取り組み&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関心・意欲・態度(授業態度や日々の課題に対する意欲・関心など)：25%</li> <li>2. 思考・判断(企画力・創造力・実践力など)：25%</li> <li>3. 協調性(協力・責任感など)：25%</li> <li>4. 製作物や演技など内容や発表(製作・表現・発表力など)：25%</li> </ol> <p>最終成績は、〈各講座〉40%、〈こどもフェスタに向けた取り組み〉60%で換算して評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>本授業は、皆さんが本学に入学して1年が経過し卒業後の未来をどう歩むのかを、体系的に学ぶことが求めています。豊かな人生を送るためには、普段から自身の考えを持ち、主体的に行動をしていくことが必要です。卒業後も、「建学の精神」と「共生の心」を核とし本学の学びを活かしていきけるよう、学びの姿勢を持ち続け、実践されることを求めます。また、こどもフェスタに向けた取り組みでは、これまでの卒業学年として、これまでの学びを発表に活かしてください。各講座ごとの学びに対する予習復習は、本を読むこととし、その読んだ内容について、教員や学生同士で話し合うよう心がけてください。この予習復習におおよそ、60～90分ずつ要します。こどもフェスタに向けた取り組みでは、良い作品ができるよう個人練習や仲間との共同練習等にも取り組んでください。</p>			
その他	この授業では、宿泊形式の「弘徳合宿」があります。詳細は、追って連絡します。合宿を欠席した場合は、別途補講を受講することとします。			

## 授業内容進行表

1 回	<学校法人弘徳学園で学ぶことの意義 1 > 建学の精神、共生の心、学園歌	16 回	オリエンテーション グループ分け (A:児童文化①、B:児童文化②、 C:身体表現①、D:身体表現②、姫路:児童文化)
2 回	<学校法人弘徳学園で学ぶことの意義 2 > 学習・研究することの意義	17 回	各グループで活動計画の設定
3 回	<共生の心 1 > 自己発見、自己理解、キャリアデザイン	18 回	各グループで制作、練習①
4 回	<共生の心 2 > 社会人になるための自覚、専門職業人になる ということ	19 回	各グループで制作、練習②
5 回	<共生の心 3 > 保育者としての自覚、保育者としての魅力	20 回	各グループで制作、練習③
6 回	<リベラルアーツ教育 1 > 情報リテラシー、情報洞察力	21 回	各グループで制作、練習④
7 回	<リベラルアーツ教育 2 > 健康教育、感性を磨く	22 回	各グループで制作、練習⑤
8 回	<弘徳合宿に向けて> 合宿に向けた事前学習、グループ会議	23 回	各グループで制作、練習⑥
9 回	<弘徳合宿> 1泊2日の合宿形式で実施 自己理解、他者理解を深めよう	24 回	各グループで制作、練習⑦
10 回	<弘徳合宿> 1泊2日の合宿形式で実施 保育者としての自然体験	25 回	各グループで制作、練習⑧
11 回	<弘徳合宿> 1泊2日の合宿形式で実施 保育者としての自然体験	26 回	A・B・C・D・姫路:「こどもフェスタ」オー プニング、エンディングの練習 1
12 回	<弘徳合宿> 1泊2日の合宿形式で実施 自尊感情を高めよう	27 回	A・B・C・D・姫路:「こどもフェスタ」オー プニング、エンディングの練習 2
13 回	<弘徳合宿> 1泊2日の合宿形式で実施 チームワークを高めよう	28 回	A・B・C・D・姫路:「こどもフェスタ」上 演リハーサル
14 回	<弘徳合宿> 1泊2日の合宿形式で実施 課題解決力を高めよう	29 回	A・B・C・D・姫路:「こどもフェスタ」上 演
15 回	<弘徳合宿> 1泊2日の合宿形式で実施 社会人基礎力を高めよう	30 回	A・B・C・D・姫路:「こどもフェスタ」記 録映像の鑑賞と反省会(活動の振り返り) A・B・C・D・姫路:報告集づくり
			【定期試験】 有 ・ (無)

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
教 職 論		1年・前期	講義	30時間 (2単位)	原 田 敬 文
実務経験の概要					
授 業 概 要	<p>本授業は望ましい教職者（保育者）とは何かを希求し、その実現のために何を学び、理解し、身に付けなければならないかを主要なテーマとします。</p> <p>具体的な授業の内容は、教職者の資質、専門性、制度的位置付け、子ども理解、教職の内容と遊び、計画と相互的な指導、援助の在り方、教職者間の協働、保護者への支援と連絡、地域社会や専門機関・小学校との連携などです。理論に基づいた実践、実践で確かめ、レベルアップされた教職理論の理解を深め、教職者としての意欲、態度、自覚を高める授業を展開します。</p>				
授 業 科 目 の 目 的	<p>現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職（保育）の意義、教職者（保育者）の役割・資質能力・職務内容等についての理解を深めます。さらに、教職（保育）は、子どもの成長発達に指導、援助する仕事であることを理解し、教育（保育）への課題に関心を持ち、授業に関わる専門性について学ぶとともに、あるべき教育（保育）のビジョンを明確にすることを主要なテーマにし、自分が目指す教職者像の確立を図ります。</p>				
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教職者（保育者）の役割と倫理について理解し、説明できるようにします。</li> <li>2. 教職者（保育者）の専門性について理解し、説明することができるようにします。</li> <li>3. 幼児の発達と成長について理解し、論じることができるようにします。</li> <li>4. 教育・保育の目標・ねらい・内容について理解し、実践につなげることができるようにします。</li> <li>5. 教育・保育の法的、制度的な位置づけについて理解し、説明することができるようにします。</li> <li>6. 家庭や小学校との連携について理解し、その必要性を論じることができるようにします。</li> </ol>				
テ キ ス ト	保育者・小学校教諭・特別支援学校教諭のための教職論／戸江茂博／北大路書房				
参 考 書	<p>幼稚園教育要領解説（最新版）／フレーベル館</p> <p>保育所保育指針解説（最新版）／フレーベル館</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）／フレーベル館</p>				
フ ィ ド バ ッ ク の 方 法	<p>前回の授業の振り返りを、授業の初めにおこないます。その際に、各自家庭で復習した内容の質問に対して、教員が説明します。前回までの学習内容を十分に理解したうえで、毎回の授業を始めます。</p>				
成 績 評 価 基 準	<p>授業態度10%、レポート30%、定期試験60%により総合的に評価します。</p>				
メ ッ ス ー ジ の 心 構 え と	<p>本授業では、教職者（保育者）に求められる素質を中心に学ぶこととなります。この学びは、これから教育現場、保育現場で働く皆さんにとって、習得しておかなければならないことばかりです。</p> <p>また、本授業では、みなさんの考えを求めることも多くあります。自分の考えを整理して、わかりやすく伝えられるよう取り組んでください。</p> <p>みなさんが、本学を卒業する時は、「守られる人から守る人」へ変容できるように、覚悟を決めて学習しましょう。毎回の授業でお渡しするプリントの復習と、次回の学習のポイントになるキーワードを予習しておいてください。</p>				
の そ の 他					

## 授業内容進行表

1 回	<教職とは何か1> 教職（保育）の意義・定義・教職者（保育者）とは何か
2 回	<教職とは何か2> 教職者（保育者）に求められる資質・能力
3 回	<教職とは何か3> 教職者（保育者）養成の歴史
4 回	<教職者の役割1> 教職者（保育者）の資質と役割
5 回	<教職者の役割2> 指導計画（保育のねらい・内容）
6 回	<教職者の働く環境1> 教職者（保育者）の仕事・義務・研修
7 回	<教職者の働く環境2> 教職者（保育者）の職場環境
8 回	<教職の法的根拠1> 教職者の制度的な位置付け
9 回	<教職の法的根拠2> 教職者の任用と服務
10 回	<教職者の実践1> 教育（保育）現場におけるこどもとの関わり（あそび・環境）
11 回	<教職者の実践2> 教育（保育）現場における家庭との連携・支援、地域との連携
12 回	<変化する教職1> 教職（保育）観の変遷と教員（保育者）の役割
13 回	<変化する教職2> 職員間の連携、保育園、幼稚園、小学校との連携（接続カリキュラム）
14 回	<変化する教職3> 今日的な教育課題に対応するために（「チーム学校」等）
15 回	<教職を目指すということ> よい教職者（保育者）になるために（教育実習への心構え）
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教育原理	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	稲田達也
実務経験の概要				
授業概要	教育の基本的概念、理念、歴史及び思想について学ぶことにより、どのように教育及び学校が生まれ、変遷してきたかを理解します。また、現代の学校教育に関する社会的及び制度的な仕組みを学ぶことにより、学校と地域の連携及び学校安全に関する意義や必要性を理解します。			
授業科目の目的	教育の思想とその作用、また我が国の教育制度・理念・歴史について学ぶことにより、教育の課題と可能性についての理解を深めること及び学校教育に関する社会的、制度的事項を理解し、地域との連携並びに学校安全に関する理解を深めることを目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 我が国の教育制度の歴史、理念を理解することができるようにします。</li> <li>2. 保育・教育の法制度、教育課程、教育方法についての基礎知識を習得することができるようにします。</li> <li>3. 保育・教育の課題と可能性について、自らの考えを伝えることができるようにします。</li> <li>4. 教育に関する現代的課題とその解決のための取り組みについて理解することができるようにします。</li> </ol>			
テキスト	教育原理～保育・教育の現場をよりよくするために～/石上浩美・矢野 正編著/嵯峨野書院/2018年			
参考書	幼児学用語集/小田 豊 ほか監修/北大路書房/2013年 幼稚園教育要領解説 (最新版)/文部科学省/フレーベル館 保育所保育指針解説書 (最新版)/厚生労働省/フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 (最新版)/内閣府・文部科学省・厚生労働省/フレーベル館			
フィードバックの方法	授業中に課した小レポートについては、修正や再度の説明が必要な個所については次回の授業で口頭にて説明します。小テスト及びレポートについては、次回以降の授業時に返却し、コメントの書き込み又は全体への説明が必要なものについては授業の中で取り上げます。			
成績評価基準	定期試験 (60%)、小テスト及びレポート (30%)、講義への参加の態度等 (10%) により総合的に評価する。			
受講の心構えとメッセージ	本授業では、保育・教育現場の基本的知識については講義形式で行いますが、保育・教育の今日的課題、今後の展望については、ディスカッションも取り入れます。 常に新聞やニュースなどをみて、保育や教育現場の動向にアンテナをはっておいてください。 予習・復習について 予習：毎回の授業の中で、予習課題を出します。テキストの中に答えがあるものもあれば、インターネットや参考図書等で調べることが必要なものもあります (所要時間90分から120分)。 復習：毎回の授業の中で、復習課題を出します。授業の中の説明や、テキスト等を用いて、整理して記述するようにしてください (所要時間90分から120分)。			
その他	授業で配布するプリント類は、各自ファイルしておくこと。			

## 授業内容進行表

1 回	<教育とは> 教育、教育原理の意義・目的・特性と子ども家庭福祉等との関連性
2 回	<教育思想1> 世界の教育思想①ソクラテス～ルソーの思想・実践
3 回	<教育思想2> 世界の教育思想②ヘルバルト～デューイの思想・実践
4 回	<教育思想3> 日本の教育思想
5 回	<子どもの発達と教育> 発達に合わせた教育のあり方
6 回	<子どもの権利> 子どもの権利の変遷
7 回	<幼児教育の現場1> 制度から見る保育所、幼稚園、認定こども園
8 回	<幼児教育の現場2> 内容から見る保育所、幼稚園、認定こども園
9 回	<教育の歴史の変遷1> 世界における教育の歴史の変遷
10 回	<教育の歴史の変遷2> 日本における教育の歴史の変遷
11 回	<教育制度> 公教育制度、義務教育制度
12 回	<教職・教育方法入門> 教師という仕事、教授法
13 回	<教育における今日的課題1> 学習指導要領の改訂に伴う幼児教育の変化
14 回	<教育における今日的課題2> 危機・安全管理カリキュラム、アクティブラーニング
15 回	<教育における今日的課題3> 学校外との連携
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教育心理学	1年・後期	演習	30時間 (2単位)	野口和也
実務経験の概要				
授業概要	教育心理学における発達と学習の領域を中心に、「教えること」「育てること」に関する心理学的な考え方を紹介する。「発達」では、幼児、児童期までの発達の特徴や遊びを通じた変化について、「学習」では、実験を基礎とした学習理論や、実際の教育現場での指導・評価の方法について解説します。現代に生きる子どもたちの保育・教育に関して心理学的な観点から考察を深めながら、基礎的知識とともに専門職業人として教育実践、発達援助に活かしていける力を身に付けていきます。			
授業科目の目的	教育心理学は、教育や人の発達について心理学的に理解していく心理学のひとつの領域です。発達、学習・教授、性格、適応、測定・評価など教育心理学の基礎的知識の習得することを目指します。また、現代に生きる子どもたちの保育・教育に関して心理学の観点から考察を深めながら、基本的な知識をもとに専門家として保育実践、発達援助に生かしていける力量の担保を目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達の理解の意義を理解し説明することができるようにします。</li> <li>2. 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達についてその具体的な内容を理解し説明することができるようにします。</li> <li>3. 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解することができるようにします。</li> <li>4. 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解し説明することができるようにします。</li> <li>5. 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を説明することができるようにします。</li> </ol>			
テキスト	随時配付します。			
参考書	幼稚園教育要領（最新版）／文部科学省／フレーベル館 幼稚園教育要領解説（最新版）／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針（最新版）／厚生労働省／フレーベル館 保育所保育指針解説（最新版）／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 学びと教えで育つ心理学－教育心理学入門－／小林芳郎編著／保育出版社／2011年			
フィードバックの方法	レポートは、授業内で教員から提供される学びの要点をまとめる上で必要な情報の配布資料への書き込み、そして、各授業のテーマから設定している学びの要点の論述となります。レポートはそれぞれ教員がコメントを添えて次回以降の授業で返却します。  定期試験の結果については、教務学生課での成績公表後、希望者が各自で研究室に訪問した際にフィードバックします。			
基準成績評価	授業態度10%、レポート30%、定期試験60%により総合的に数量化して評価します。			
受講の心構えとメッセージ	子ども達が「学ぶこと」、そして「教えること」は、「保育」「教育」に携わる人々にとって、とても身近でとても重要な活動になります。ぜひ、一緒に一歩ずつ、考えていければと思います。 また、教育心理学で皆さんが学ぶ事柄は、日々の生活の中にも多くのことが含まれています。しっかりと実感を持ちながら、学んでほしいと願っています。 保育・教育に限らず人生にきっと役立つことも含まれているはずで、毎回指示していく予習・復習に取り組み、実践に結びつく生きた知識を得てほしいと心から期待しています。 予習：各回の授業内容には、学びのキーワードが設けられています。配付資料には、そのキーワードを学ぶための実践事例を記してあります。予習では実践事例を熟読し、今の自分自身の見方や考え方等から、問いかけに対して、まとめておく。講義は、そのまとめを伝え合うことから始まります。学びの要点も確認することを求めます。この予習には約90分から120分の学習時間を要します。 復習：各授業回において、学びの要点「○○ができるようになる」が設けられています。講義のレジュメ、授業内での口頭説明や参考書等を用いて、学びの要点をまとめておく。この復習には約90から120分の学習時間を要します。			
その他				

## 授業内容進行表

1 回	<教育心理学を学ぶ意義とは> 教育心理学における発達、学習、適応、評価と測定／教育心理学の四大領域を学ぶ意義
2 回	<生まれ育つとその理解とは> 生涯発達心理学の概念／各段階における発達の特徴（言語、運動、認知、社会発達）
3 回	<学びとる仕組みとは> 連合説と認知説／様々な学習理論の応用
4 回	<主体的な学びを支える「やる気」とは> 内発的動機付けと外発的動機付け／学習性無力感と自己効力感
5 回	<集団での学びとりとその評価とは> 学習指導の形態／評価の仕方とその意義
6 回	<動機付けからみる発見学習の仕組みとは> 発見学習の手続き／発見学習により動機付けが高まる理由
7 回	<教育心理学に基づく保育実践とは> 発達に応じた保育援助
8 回	<発達課題に応じたかかわりとは> 各段階の発達の特徴／エリクソンの発達課題
9 回	<子どもから大人の頭を使って考えるとは> ピアジェの認知発達理論／思考発達段階ごとの特徴
10 回	<学びを支える頭に入れる、覚えるとは> 感覚記憶、短期記憶、長期記憶／単純記憶から複雑記憶への変化
11 回	<子どもの学び育ちの姿とは> 日常生活からみる学習の理論／オペラント条件付けを利用した保育実践
12 回	<子どものやる気を引き出す指導の在り方> 指導者の態度（ピグマリオン効果）／様々な学びの形態とその効果
13 回	<子どもの遊びの重要性とは> 遊びの変化／遊びを通した社会性の発達
14 回	<子どもと道徳性と思いやりの育成とは> 幼児期に迎える第一次反抗期と自立／道徳の指導方法
15 回	<教育心理学を用いた環境づくりとは> 子どもの学び育ちを見つめる確かな目（評価）／環境との相互作用で育む子ども
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
特別支援教育	2年・後期	講義	15時間 (1単位)	野口和也
実務経験の概要				
授業概要	子どもたちの特別な教育的ニーズを満たす支援を提供するために、子ども自身の特性を理解するのはもちろん、必要な社会的資源や関係機関についての知識、個別の教育支援計画の作成方法とその利用方法を学んでいきます。そして、教育課程と学び、生活の場のあり方についても知識を獲得するとともに、特別支援教育に関わる幅広い内容を提供します。			
授業科目の目的	特別な教育的ニーズのある子どもたちが、幼稚園・保育所の中でそれぞれの自主性・自発性を発揮し、生きる力の基礎を培うために、特別な教育的ニーズのある子どもの生活上および認知機能における困難を理解していきます。個別の教育的ニーズに対して、外部の関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法について学びを深めていきます。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを説明することができるようにします。</li> <li>2. 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児の生活上および認知機能における困難について理解し、基礎的な知識を説明することができるようにします。</li> <li>3. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について、個別の教育計画の役割を踏まえながら例を示し説明することができるようにします。</li> <li>4. 外部の関係機関の位置づけや役割を理解し、保育者として連携、協働の必要性について説明することができるようにします。</li> </ol>			
テキスト	随時、配付します。			
参考書	幼稚園教育要領（最新版）／文部科学省／フレーベル館 幼稚園教育要領解説（最新版）／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針（最新版）／厚生労働省／フレーベル館 保育所保育指針解説（最新版）／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 学びと教えて育つ心理学－教育心理学入門－／小林芳郎編著／保育出版社／2011年 特別支援教育／野口和也、前川洋子、渡辺隼人ほか／豊岡短期大学通教教育部／2019年			
フィードバックの方法	レポートは、授業内で教員から提供される学びの要点をまとめる上で必要な情報の配布資料への書き込み、そして、各授業のテーマから設定している学びの要点の論述となります。レポートはそれぞれ教員がコメントを添えて次回以降の授業で返却します。 定期試験の結果については、教務学生課での成績公表後、希望者が各自で研究室に訪問した際にフィードバックします。			
基 成 績 評 価	授業態度10%、レポート30%、定期試験60%により総合的に数量化して評価します。			
受講の心構えとメッセージ	子どもたち一人ひとり、誰一人同じ存在はいるはずもありません。子どもたちの有するニーズを理解し、健やかな育ちを支える人的物理的な環境づくりは、保育者として考え抜くことが欠かせません。授業の中では、ニーズを満たす保育を提供するために、皆さんも真摯に熟考することを期待しています。 そして、様々な人的物理的な資源と手を組みすすめる特別支援教育を授業の中で体験してもらうためにも、ぜひ、積極的に話し合いに参加してほしいと思います。 予習：各回の授業内容には、学びのキーワードが設けられています。配付資料には、そのキーワードを学ぶためのリサーチクエスチョンを記してあります。予習ではクエスチョンについて、今の自分自身の見方や考え方を、まとめておく。講義の中では、そのまとめを伝え合うことから始めます。この予習には約60分から90分の学習時間を要します。 復習：各授業回において、学びの要点「○○ができるようになる」が設けられています。講義のレジュメ、授業内での口頭説明や参考書等を用いて、学びの要点をまとめておく。この復習には約90分から120分の学習時間を要します。			
その他				

## 授業内容進行表

1 回	<特別な教育的ニーズを持つ子どもへの教育課程> 特別な教育的ニーズとは何か／特別支援教育課程と学びの場
2 回	<発達障害や軽度知的障害を持つ子どもの特性> 発達障害や軽度知的障害の心と体の育ち／子ども一人ひとりのニーズに合わせた学び
3 回	<視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある子どもの特性> 多様な子どものニーズの理解／多様な子どもの学びと生活
4 回	<子どものニーズに合わせた支援> 教育課程における支援／通常学級における担任による支援
5 回	<教育チームによる組織的支援> 個別の指導計画及び個別の教育支援計画／アセスメントに基づく計画と評価
6 回	<特別支援教育コーディネーター> 特別支援教育コーディネーターの役割／教育資源との連携と協働
7 回	<保護者・家庭支援と連携> 保護者・家庭をとりまく問題／保護者・家庭とのつながりの重要性
8 回	<特別な教育的ニーズを考える> 母国語や貧困の問題等による教育的ニーズの理解／母国語や貧困の問題等による教育的支援
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
発達心理学	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	野口和也
実務経験の概要				
授業概要	はじめに、「心理学」とはどのような学問であるかを理解するところから始めていきます。生涯発達という視点に立ち、こことからだ、ことば、考える力などの発達を学び、加えて保育実践を行う上で重要な話題を取り上げながら学びを深めていきます。また、子どもたちひとり一人に寄り添う、より良い保育を提供するために、子どもへの支援・援助、保育計画についても解説します。			
授業科目の目的	<p>保育において心理学という学問を扱う意味はどのようなものであるか、この授業では保育者として専門活動をする者として、心理学を学ぶ意義について理解していきます。</p> <p>発達心理学では、子どもと取り巻く環境との密接な相互のかかわりを通じて、発達が進んでいくことを理解することが要となります。そのために心理学における人や行動、ものの見方、考え方を学ぶことが目的となります。</p> <p>保育者として発達に見合った適切かつ確かな保育を行うために、生涯にわたり続いていくという観点から人間の発達の過程と特徴について理解していきます。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育にかかわる心理学の知識を習得し、保育実践と関連づけることができるようにします。</li> <li>2. 心理学的な理解を行うために人、行動、ものの見方、考え方を学び、それらを基礎として、子どもの発達を論じることができるようにします。</li> <li>3. 生涯発達の観点から、誕生から死までの人間の発達における人との相互作用の重要性について理解し説明することができるようにします。</li> </ol>			
テキスト	随時、配付します。			
参考書	<p>幼稚園教育要領（最新版）／文部科学省／フレーベル館  幼稚園教育要領解説（最新版）／文部科学省／フレーベル館  保育所保育指針（最新版）／厚生労働省／フレーベル館  保育所保育指針解説（最新版）／厚生労働省／フレーベル館  幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館  幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館  保育の心理学Ⅰ／柳生崇志・梅崎高行編著／大学図書出版／2013年</p>			
フィードバックの方法	<p>レポートは、授業内で教員から提供される学びの要点をまとめる上で必要な情報の配布資料への書き込み、そして、各授業のテーマから設定している学びの要点の論述となります。レポートはそれぞれ教員がコメントを添えて次回以降の授業で返却します。</p> <p>定期試験の結果については、教務学生課での成績公表後、希望者が各自で研究室に訪問した際にフィードバックします。</p>			
基準成績評価	授業態度10%、レポート30%、定期試験60%により総合的に数量化して評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>発達心理学は、私たち誰もが歩んできた人生と重なり関係する話題が多く含まれる授業になります。そして、心理学という人のこころを学ぶ学問では、自分自身を振り返り考えを巡らし、“確かな学びを得る”ことが“かんじんかなめ”となります。</p> <p>授業では、私たち人の発達に関する、知識とともに各段階での特徴を提供していきます。幼少の頃などを思い返し、その時の感覚も再現させながら、一緒に学んでいきましょう。確かな学びの獲得に向けて、その都度、伝えていく予習・復習にしっかり取り組むことを忘れずに行ってください。</p> <p>予習：各回の授業内容には、学びのキーワードが設けられています。配付資料には、そのキーワードを学ぶための実践事例を記してあります。予習では実践事例を熟読し、今の自分自身の見方や考え方等から、問いかけに対して、まとめておく。講義は、そのまとめを伝え合うことから始めます。学びの要点も確認することを求めます。この予習には約90分から120分の学習時間を要します。</p> <p>復習：各授業回において、学びの要点「〇〇ができるようになる」が設けられています。講義のレジメ、授業内での口頭説明や参考書等を用いて、学びの要点をまとめておく。この復習には約90分から120分の学習時間を要します。</p>			
その他				

## 授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 発達心理学とは／子どもを理解するとは
2 回	<保育と心理学> 保育における心理学の位置づけ／発達観
3 回	<初期経験の重要性> 子どもの育ち、気質と環境／文化
4 回	<基本的信頼感の獲得> 愛着とはなにか ホスピタリズム／愛着の発達と分類
5 回	<発達とは何か1> 誕生から乳幼児期まで
6 回	<発達とは何か2> 児童期から老年期まで
7 回	<生涯発達の諸理論> 心理社会的発達理論／発達課題
8 回	<こころの育ち1> 情動の発達と自我
9 回	<こころの育ち2> 自己の表出とこころの理論の発達
10 回	<からだの育ち> 身体発育／原始反射からはじまる運動発達
11 回	<考える力の育ち> ピアジェの認知発達理論／同化・調整・表象・操作
12 回	<ことばの育ち> 喃語・幼児語・共同注視と言語発達の臨界期
13 回	<発達心理学と教育学の関連> 子どものニーズの発見から学校適応
14 回	<保育実践の評価と心理学> 発達の最近接領域／発達段階の理解による計画・実践
15 回	<まとめ> 人の育ちと環境との相互作用の意義／振り返りから自分自身の発達を捉える
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと文化	1年・後期	演習	30時間 (2単位)	担当教員
実務経験の概要				
授業概要	<p>時代の変化とともに、私たちの身のまわりからも、子どもたちのまわりからも、昔から親しまれてきた文化や行事が失われつつあります。しかし、現在の教育基本法では伝統と文化を尊ぶことが求められており、我が国と郷土も大切にすることが求められています。また、実際の教育でも、「伝統的な文化」を学ぶことが重視されています。この授業（演習）を通して、わたしたちの「伝統的な文化」を見つめ直したいと思います。</p>			
授業科目の目的	<p>この授業（演習）では、日本の伝統的な文化を学ぶとともに、子どもたちと関係の深い行事などを学び、子どもたちに親しまれてきた神話や伝説の物語を学びます。さらに、これらの行事や物語の背後にある、古代の日本や中国の人びとの考え方についても学びます。</p> <p>「古事記」や「竹取物語」に記された神話や伝説、物語は日本人に親しまれ、子どもたちにも絵本として親しまれてきました。このような物語を学ぶことが目的となります。</p> <p>日本の文化は季節の変化に敏感だと言われます。古来の日本人がどのように季節をとらえてきたのか、それがどのように表現されたのかを学び、現在の暦と昔の暦の違いを理解することも目的となります。</p> <p>また、季節は年中行事と深いかかわりがあります。年中行事にはどのようなものがあり、どのような由来があるのかを学ぶことも目的となります。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 代表的な神話や伝説、物語について知識があり、どのようなものかの説明することができるようにします。</li> <li>2. 日本の文化と季節の関係について理解しており、新暦と旧暦の違いを説明することができるようにします。</li> <li>3. 年中行事を理解するとともに、その由来についての知識があり、説明することができるようにします。</li> </ol>			
テキスト	授業時にプリントを配布する。			
参考書	保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館			
フィードバックの方法				
成績評価基準	定期試験50%、発表と提出物40%、授業態度10%により総合的に評価します。			
受講の心構えとセッション	<p>この授業では、適宜に発表や絵本の読み聞かせなどを行います。積極的に参加してほしいと思います。また、提出物を課しますが、必ず提出してください。</p> <p>なお、発表資料の作成のために、カラーマーカー（廉価なもので良い）を用意してください。</p> <p>年中行事については、予習として各自のこども時代の記憶を思い出すことを求めることがあります。</p>			
その他事項	1回目の授業時に「保育所保育指針」を持ってきてください。			

## 授業内容進行表

1 回	<導入> 学校教育法と日本の伝統的な文化
2 回	<神話(1)> 国のはじまり
3 回	<神話(2)> すさのおとやまたのおろち
4 回	<神話(3)> おおくにぬしといなばのしろうさぎ
5 回	<神話(4)> うみさち・やまさち
6 回	<伝説> 古代の伝説・地域の伝説
7 回	<日本の四季> 四季と短歌・俳句
8 回	<五節句(1)> 桃の節句・端午の節句
9 回	<五節句(2)・中秋> たなばた お月見とかぐや姫
10 回	<かるた(1)> いろはかるた
11 回	<かるた(2)> かるた取り 百人一首かるた
12 回	<えと> 干支と十二支
13 回	<正月> お正月とお雑煮
14 回	<二十四節気> 節分と土用
15 回	<まとめ> 全体のまとめ
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
教育課程論		1年・前期	演習	30時間 (2単位)	宿南久美子
実務経験の概要		幼稚園に40年間勤務した実務経験があります。その間、クラス担任(30年)、教育委員会(4年)、園長(6年)に従事。			
授業概要	教育課程・保育課程とは、幼稚園・保育所・認定こども園が、何(教育・保育目標)を大切にして、どのような方法(教育・保育方針)で、どのように(教育・保育内容)、どの時期(教育・保育期間)にしていくかという全体計画であり、保育の羅針盤ともいえるものです。幼児教育・保育における教育課程・保育課程の意義と役割を明らかにしていきます。				
授業科目の目的	幼児教育・保育を理解するための基礎的・基本的な理念をしっかりと捉え、教育課程・保育課程とは何か、なぜ必要であるか、またどのような要素から構成されているのかを理解することを目的とします。				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育内容の充実と質の向上に資する教育課程・保育課程について理解できるようにします。</li> <li>2. 教育課程・保育課程の編成と指導計画の作成について、具体的に習得できるようにします。</li> <li>3. 編成・実践・点検・評価・改善の過程について、その全体構造を動的にとらえ理解できるようにします。</li> <li>4. 保護者や関係機関との連携について学ぶことができるようにします。</li> </ol>				
テキスト	各回の授業内容ごとに資料を配付します。				
参考書	幼稚園教育要領解説(最新版)/文部科学省/フレーベル館 保育所保育指針解説(最新版)/厚生労働省/フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)/内閣府・文部科学省・厚生労働省/フレーベル館				
フィードバックの方法	レポートは、学習の要点のまとめとなります。次週の授業で振り返り、さらに理解を深めてほしい部分については再度授業の中で取り上げていきます。				
成績評価基準	授業態度・意欲30%、課題・レポート10%、定期試験60%により総合的に評価します。				
受講の心構えとメッセージ	<p>教育課程・保育課程は、幼稚園・保育所・認定こども園での在園期間、あるいは日々の保育の方向性を示す基盤となるものです。授業では、教育課程・保育課程とは何か、なぜ必要か、どのような要素から構成されているのかなど、基礎理論を学びます。確かな学びの習得に向けて、その都度伝えていく予習・復習にきちんと取り組むことを忘れずに行ってください。</p> <p>予習：その回のキーワードを学ぶための要点や実践事例を配布資料に記しています。予習では、配布資料を熟読して授業に臨んでください。この予習には90分から120分程度の時間を要します。</p> <p>復習：講義のレジメ、配布資料や実践事例を用いての口頭説明など、学びの要点をまとめておきましょう。この復習には90分から120分程度の時間を要します。</p>				
その他	常に、「保育所保育指針解説(最新版)」「幼稚園教育要領解説(最新版)」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)」を利用します。毎回忘れずに持参してください。				

## 授業内容進行表

1 回	<リエンテーション> 教育課程・保育課程編成の基本的な考え方
2 回	<教育（保育）課程の基礎理論> 教育（保育）課程の意義と必要性
3 回	<教育（保育）課程の構造> 教育（保育）課程編成の前提・基盤
4 回	<幼稚園の教育課程> 時代の変化に対応した幼稚園の教育課程の在り方・編成・評価
5 回	<保育所の保育課程> 保育課程の基本
6 回	<保育所保育の特性を踏まえて> 3歳未満児の発達と保育内容
7 回	<長期の指導計画> 園生活と長期の指導計画
8 回	<短期の指導計画> 短期指導計画の意義・作成・活用
9 回	<保育の計画と評価> 保育の実践と観点表
10 回	<幼・保・小連携カリキュラム> 学びをつなぐ幼・保・小連携のカリキュラム
11 回	<開かれた園生活のカリキュラム> 幼稚園を開く・拓く・幼稚園教育を啓く
12 回	<危機管理保育のカリキュラム> 危機管理保育カリキュラムの意義と必要性
13 回	<時代の変化と新たな保育内容1> 多文化保育のカリキュラム
14 回	<時代の変化と新たな保育内容2> 信頼される園づくりと学校評議員制度
15 回	<時代の変化と新たな保育内容3> 育みたい資質・能力 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
保育内容総論		1年・前期	演習	30時間 (1単位)	宿 南 久美子
実務経験の概要	幼稚園に40年間勤務した実務経験があります。その間、クラス担任(30年)、教育委員会(4年)、園長(6年)に従事。				
授業概要	<p>保育内容総論は、領域別の授業で学んだ内容を、実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて総合的に理解します。</p> <p>保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるよう、具体的な実践事例をもとに解説し、受講生が自分の意見を発表したり課題レポートを作成したりする場、またグループ討議の場を大切にしたいと考えています。</p>				
授業科目の目的	保育所や幼稚園、認定こども園における「保育」の全体構造について理解し、各領域の保育内容を総合的にとらえる視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育の流れを概観し、保育実践と結びつけながら学ぶことを目的とします。				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「育ってほしい10の姿」と「保育の内容」の関連を理解できるようにします。</li> <li>2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解できるようにします。</li> <li>3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育内容の歴史の変遷を踏まえ、保育内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解できるようにします。</li> <li>4. 保育の多様な展開について具体的に理解できるようにします。</li> </ol>				
テキスト	保育内容総論／栗岡あけみ・宿南久美子・和田真由美・位田かつ代著／豊岡短期大学				
参考書	<p>幼稚園教育要領解説(最新版)／文部科学省／フレーベル館</p> <p>保育所保育指針解説(最新版)／厚生労働省／フレーベル館</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館</p>				
フィードバックの方法	レポートは、学習の要点のまとめとなります。次週の授業で振り返り、さらに理解を深めてほしい部分については再度授業の中で取り上げていきます。				
成績評価基準	授業態度30%、課題・レポート等提出物10%、定期試験60%により総合的に評価します。				
受講の心構えとセッション	<p>保育内容とは、幼稚園、保育所、認定こども園において展開される子どもの生活と遊びすべてを含んだもので、子どもの経験や活動全体を表す言葉です。乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画など保育の基本が深まるよう実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて学んでいきます。グループ討議なども行います。確かな学びの習得に向けて、その都度伝えていく予習・復習にしっかり取り組み、積極的な参加を望みます。</p> <p>予習：テキストの該当部分をしっかり読み、疑問点等を整理しておいてください。この予習には30分程度の時間を要します。</p> <p>復習：講義のレジュメ、配布資料や実践事例を用いての口頭説明など、学びの要点をまとめておきましょう。この復習には30分程度の時間を要します。</p>				
その他	常に、「保育所保育指針解説」「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)を利用します。毎回忘れずに持参してください。				

## 授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション・保育の基本と保育内容1> 保育所保育指針に基づく保育の基本及び保育内容の理解
2 回	<保育の基本と保育内容2> 保育の全体構造と保育内容
3 回	<保育内容の歴史的変遷> 幼稚園教育要領と保育所保育指針の変遷にみる特徴と課題
4 回	<保育内容と子ども理解1> 子どもの発達の特徴と保育内容
5 回	<保育内容と子ども理解2> 個と集団の発達と保育内容
6 回	<保育内容と子ども理解3> 保育における観察と記録
7 回	<保育の基本を踏まえた保育内容の展開1> 養護と教育が一体的に展開する保育
8 回	<保育の基本を踏まえた保育内容の展開2> 環境を通して行う保育
9 回	<保育の基本を踏まえた保育内容の展開3> 遊びによる総合的な保育
10 回	<保育の基本を踏まえた保育内容の展開4> 生活や発達の連続性に考慮した保育
11 回	<保育の基本を踏まえた保育内容の展開5> 家庭、地域、小学校との連携を踏まえた保育
12 回	<保育の多様な展開1> 乳児保育
13 回	<保育の多様な展開2> 長時間保育・多文化共生の保育
14 回	<保育の多様な展開3> 特別な支援を必要とする子どもの保育
15 回	<幼児期に育みたい資質・能力 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿>
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
こどもの指導法「健康」		2年・前期	演習	15時間 (1単位)	栗岡 あけみ
実務経験の概要		幼稚園に33年勤務した実務経験があります。その間、クラス持ち主任(6年)、専任の副園長(2年)と園長(9年)をさせていただきました。(栗岡)			
授業概要	乳幼児期の発育・発達の状態に合った配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的な方法について、実践事例を取り上げ学ぶ。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携認定子ども園教育・保育要領」での記述を踏まえ、指導案作成並びに模擬保育を通して、保育者に必要とされる教材の活用法について、討議や実践を行い、乳幼児の育ちを支える保育者の役割について学ぶ。				
授業科目の目的	乳幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心と身体的基础を作る重要な時期である。子どもの健康を守り育てるためには実際の保育現場で子どもの発達をどのように捉え、どのような内容について、どのように指導し支援するのが効果的かについて積極的に関与し、適切な指導方法を身に付けることを目的とする。				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもが基本的な生活習慣を獲得するための指導および援助ができるようにします。</li> <li>2. 運動遊びを理解し、発達に合わせて適切な内容を選ぶことができるようにします。</li> <li>3. 健康に関する内容について、指導案を作成することができるようにします。</li> <li>4. 健全な発育発達を阻害している問題を認識・考察し、健康維持の生活についてアプローチをしようとする力を身につけることができるようにします。</li> <li>5. 安全教育を理解し、管理および指導の方法が分かるようにします。</li> </ol>				
テキスト	幼稚園教育要領解説(最新版)／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説書(最新版)／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説(最新版)／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館				
参考書	講義内で適宜、知らせる。				
の方法 フィードバック	授業の初めに、前回の授業のフィードバックから始めていきます。				
成績評価基準	<p>受講態度 20%：領域「健康」を理解しようと意欲的に受講し、質疑応答を積極的に行う態度、保育者を目指すものとして、グループワークで自分の意見や考えを述べながら、グループの考えを1つにまとめようと協働する態度などを基準とする。</p> <p>課 題 30%：発達に合った指導案作成、指導案を用いた模擬保育発表などの姿勢を基準とする。</p> <p>単位認定試験 50%：授業で取り扱った内容について、保育者としての視点から深く論じていることができているかどうかを基準とする。</p> <p>上記3領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。</p>				
受講の心構えと メッセージ	<p>講義内容を実習で応用するつもりで学んでください。幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領(最新版)について基本的なことを復習しておいてください。乳幼児が登場する映画を保育者の立場で視聴することを心がけましょう。グループワークは、積極的に参加し、主体的に取り組みましょう。さらには、自身の健康管理には十分責任をもちましょう。</p> <p>予習：要領、指針、保育要領の領域「健康」を毎回熟読し、類似点や相違点を理解しておいてください。(所要時間90分から120分)</p> <p>復習：毎回授業内で復習課題を提示します。授業内容や新聞、図書館を利用し、整理して述べられるようにしてください。(所要時間90分から120分)</p>				
のそ 事項 他	必要に応じて参考になるプリントを配布しますので、ファイルしておいてください。				

## 授業内容進行表

1 回	<領域「健康」の意味（保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領のねらいと内容の理解）、保育の意義と児童観> こどもの姿を「みる」「みきわめる」そして、「かかわる」ことからの「こども理解」
2 回	<乳幼児の心身の発育発達、幼児期の心の発達、幼児期の身体発達> 発達過程に応じた保育の基本
3 回	<子どものこころの健康、こころの発達とストレスのサイン> 子どもの健康と虐待
4 回	<基本的生活習慣の獲得、幼児の生活スタイルの現状と問題点> 食育と健康との関わり
5 回	<子どもの遊びの発達と健康、幼児の遊びを豊かにするための保育者の役割> 幼児の遊びを引き出す環境づくり
6 回	<安全管理と安全教育、交通安全指導、避難訓練> ケガや病気などの体調異常に対する処置法
7 回	<健康と自然環境、園外保育の活動内容> 園外保育の留意点
8 回	<領域「健康」のまとめ> 保幼小連携について
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの指導法「人間関係」	1年・後期	演習	15時間 (1単位)	原田敬文
実務経験の概要				
授業概要	<p>こどもたちを取り巻く「人間関係」のあり方や「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」と「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深めるとともに、様々なかかわりとおした人間関係の発達について実践のエピソードを取り上げ解説していく。</p> <p>また、保育者としてどのようにこどもの人とかかわりを育てていくのか、保育者としてこどもとどのような関係性を築いていくのか、こども－養育者、こども－保育者、保育者－養育者、さらには保育者－保育者という様々な関係性について考察していく。</p>			
授業科目の目的	<p>近年わが国では、急速な情報化の進展によりインターネットや携帯電話等を利用した多様なコミュニケーションが頻繁になされるようになった。反面、かつて家庭や地域社会にあった対面での相互交流とおした豊かな人間関係を築いていく基盤が失われつつある。</p> <p>「ヒト」は人と人との豊かなかかわりをもてるようになることで「人間」になっていく。こどもたちが、人的物的環境にかかわり、主体的に活動をすることや、互いに支え合って生活をしていくことに喜びや充実感を感じるために、保育者の適切な援助方法や「人間関係」についての基礎の習得を目的とする。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいや内容、内容の取り扱いについて説明することができるようにします。</li> <li>2. 人間関係の発達や自立心・道徳性の発達など子どもを深く理解し、保育実践に応用することができるようにします。</li> <li>3. 養育者・保育者・地域の人々など、子どもを取り巻く人的環境における関係性について考察することができるようにします。</li> </ol>			
テキスト	授業中に適宜プリントを配付します。			
参考書	<p>「幼稚園教育要領解説」(最新版)／文部科学省／フレーベル館</p> <p>「保育所保育指針解説」(最新版)／厚生労働省／フレーベル館</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館</p>			
フィードバックの方法	授業の初めに、前回の授業のフィードバックからはじめていきます。特に事例の振り返りを行い、さらに各自の復習で深まった点を聞き、教員がさらに補足します。			
成績評価基準	定期試験(60%)、レポート(25%)、講義への参加の態度等(15%)により総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>こどもの人間関係を学ぶには、普段からこどもの人間関係を観察し、記録にまとめておく必要があります。授業では、これらの事例をもとに授業を進めます。</p> <p>復習は、毎回配られる事例を繰り返し読み返すことでこども理解が深まります。予習は、各自で指導案を作成するために、幼稚園教育要領(最新版)等の読み込みをしておいてください。予習復習は各々90分から120分の学習時間を要します。</p>			
その他	授業で配布する資料は、各自ファイルに綴じておくこと。			

## 授業内容進行表

1 回	<領域「人間関係」> ねらいと内容及びその取扱い ・ 保育者としての役割
2 回	<保育者としての環境作りと評価> こどもの人間関係を見つめる目と環境設定（情報機器含む） 保育構想と指導案（模擬保育）
3 回	<こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助 1 > 対人意識、自己概念の発達 自己理解と他者理解を支える保育者の工夫
4 回	<こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助 2 > 個と集団の育ちの姿 ・ こどもの心の拠り所である保育者の工夫
5 回	<こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助 3 > 人とかかわりとこどもの心の揺れ動きを支える保育者の工夫 集団におけるこども同士の芽生え、調和を支える保育者の工夫
6 回	<こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助 4 > こどもの自己発揮・自己抑制を支える保育者の工夫 こどもの大切な育ちを捉える保育者の視点
7 回	<こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助 5 > こども同士を結び付ける保育者の遊びの役割 こども同士を結び付ける遊びの保育計画（情報機器を活用した保育計画を含む指導案、模擬保育）
8 回	<保育計画の展望> 地域の人々との多様なかかわりを導く保育計画及び小学校との交流を導く保育計画 （情報機器を活用した保育計画を含む指導案、模擬保育）
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの指導法「環境」	2年・前期	演習	15時間 (1単位)	栗岡 あけみ
実務経験の概要	幼稚園に33年勤務した実務経験があります。その間、クラス持ち主任(6年)、専任の副園長(2年)と園長(9年)をさせていただきました。(栗岡)			
授業概要	こどもは、様々な環境の中で生活をしている。それは家庭・地域社会・保育所・幼稚園・認定こども園であり、また「物的環境」「人的環境」「自然環境」「社会環境」の中で生きている。様々な生活経験を通して、人格形成をはじめ思考力・創造力・想像力等を学んでいく。本科目では、環境とは何かを理解しそこにどう関わるかを中心に、保育現場における具体的事例を上げて学習していく。 また、グループ学習を含め、視聴覚教材を使用し、より深く学んでいく。			
授業科目の目的	乳幼児期のこどもの発達と環境の関係性を考えることにより、より良い保育を実践する重要性を認識する必要がある。また保育者が保育環境の構成をどうデザインするかということについても学ぶ。環境を通して行う保育の意味について考えていく。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育内容「環境」のねらいと内容を理解することができるようにします。</li> <li>2. こどもを取り巻く様々な環境(人的・物的・自然・社会・文化)について理解し、関心をもつことができるようにします。</li> <li>3. 保育者の役割を常に考え、保育を実践できる力をつけることができるようにします。</li> </ol>			
テキスト	幼稚園教育要領解説(最新版)/文部科学省/フレーベル館 2018年 保育所保育指針解説書(最新版)/厚生労働省/フレーベル館 2018年 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)/内閣府/フレーベル館			
参考書	「新子どもと環境」－理論編 小田 豊監修(三晃書房)(ISBN:9784783080022) 「新子どもと環境」－実技・実践編 小田 豊監修(三晃書房)(ISBN:9784783080039) 「子ども環境から考える保育内容」大橋喜美子・三宅茂夫編著(北大路書房)(ISBN:9784762826917)			
フィードバックの方法	授業は、前回の授業のフィードバックからはじめていきます。特に、様々な環境の振り返りを行い、さらに各自の復習で深まった点の発表を行い、教員がさらに補足します。			
成績評価基準	<p>受講態度 20%：授業内での関心・意欲・思考力・判断力を基準とする。</p> <p>課題 30%：グループワークでの発表内容を基準とする。</p> <p>定期試験 50%：授業の内容を踏まえ、保育者を目指す上での体験を生かし、解答することができるかを基準とする。</p>			
受講の心構えとメッセージ	この科目の授業形態は「演習」科目です。従ってテスト成績が良いだけでは不十分です。 保育者として、子どもとどのように関わり、どのように成長・発達を支援するかを考えて、保育力・教師力を身につけることを目指して授業に参加してください。こどもの立場に立って指導することを念頭におき、ひとつの事例に対して自分ならばどのように環境構成を行い誘導・指導するか、できるかを常に具体的に考えて積極的に取り組んでください。日常的に、社会事象、天体、身近な自然事象、人のかかわりの様子について興味をもち、よく観察して保育の眼を養う努力をしてください。毎回授業前には、テキスト領域「環境」を熟読して予習し、授業後には、配付資料に目を通し復習することが大切です。(予習復習には90分から120分の学習時間を要します)			
その他	資料を配付します。ファイルを準備しておくこと。			

## 授業内容進行表

1 回	<環境とは> 環境という言葉、環境の定義 環境を通して行う保育の意味
2 回	<領域「環境」の位置づけ> ねらいと内容 指導上の留意点と指導計画、評価の考え方
3 回	<身近な環境の構成（指導案の構成と作成）> 人的環境・物的環境 自然環境、社会・文化環境
4 回	<保育における環境の重要性と小学校との連続性> 好奇心・探究心 思考力の芽生え
5 回	<保育環境のデザイン> 室内環境における模擬保育と振り返り1 室外環境における模擬保育と振り返り2
6 回	<保育者の3つの役割> 環境要素の一つ 保育実践から見えるコーディネーター的役割 子ども同士のかかわりあいから考える保育構想
7 回	<さまざまな環境との出会い> 標識・文字との出会い 数量と図形・ものの性質との出会い
8 回	<こどもの遊びの世界における「3間」の意味と保育の課題（小学校との連携など）> まとめ
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの指導法「言葉」	1年・後期	演習	15時間 (1単位)	長谷雄一
実務経験の概要				
授業概要	乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、言葉を育む保育者の言葉のあり方、関わり方などについて学習を深めるとともに、日本語の持つ美しさ、伝統の豊かさを知り、言語教材に生かす方法を学びます。乳幼児期に言葉を獲得することの意義を探究します。			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児期の言葉がどのような過程を経て獲得されるのかを学び、人とのふれ合いや環境をふまえ、より良い発達のための関わりを考察します。</li> <li>2. 子ども自らが言葉を発することの意味を保育者、友達、保護者との関係から認識し理解します。</li> <li>3. 乳幼児期の言葉を育む児童文化財（絵本・紙芝居・シアター類・お話し・言葉遊び・文字体験）などの特色や扱いを学びます。</li> <li>4. 子どもの表現や行動に表れる心情や思考をくみ取り、より良い発達をサポートできる方法を学びます。</li> <li>5. 言葉の障がい、外国にゆかりのある子どもについて問題点を認識し、配慮、支援のあり方を理解します。</li> </ol>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児期の言葉の発達過程を学び、簡単に説明できるようにします。</li> <li>2. 子どもが経験したことや考えたことを楽しく話し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育てるための関わり合い方を理解することができるようにします。</li> <li>3. 子どもが生活や遊びを通して、日本語の美しさや伝統の豊かさを感じ取れるようにする工夫を保育に生かされるようにします。</li> <li>4. 子どもの豊かな言葉を育む文化財の特色を知り、それらの用い方を理解し、実演することができるようにします。</li> <li>5. 言葉に問題があったり、遅れがあったりする幼児、また外国にゆかりのある子ども等について理解を深め、個々に応じた配慮、支援があることを知ります。</li> </ol>			
テキスト				
参考書	事例で学ぶ保育内容 領域言葉／無藤 隆監修 宮里暁美編／萌林書林 保育所保育指針解説書（最新版）／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼稚園教育要領解説（最新版）／文部科学省／フレーベル館			
フィードバックの方法	各講義共必ず講義ごとにリアクションペーパーを回収し、講義の気づき・質問を書いてもらい、次講義の時に、教師からフィードバックするようにする。また次講義のポイントを話し、予習を促す。			
成績評価基準	定期試験50%、授業・課題、提出物に取り組む姿勢20%、提出物・実践30%により総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	言語獲得期の子どもにとって、そのモデルとなる保育者の言葉への感覚や表現は、極めて重大です。あなた自身が、日本語の美しさ、伝統の豊かさを知り、感性を磨くことが大切です。そして、子どもたちが心から会話を楽しみ、相手の話を聞こうとする意欲や態度を育み、それぞれの個性の違いに気づけるような心を育むにはどうすれば良いか考えてみてください。また、言葉を育む文化財を演じる時は、心から楽しんでください。積極的な授業参加を望みます。			
その他	授業の進行に関して、都合により入れ替えることがあります。			

## 授業内容進行表

1 回	<p>&lt;幼児教育と言葉&gt; 言葉とは何か。人間とことば。乳幼児期の言葉の発達と保育者の役割 領域「言葉」の位置付けと他領域との関わり 生活と言葉（聞く、話す、読む、書く）、言葉環境としての保育者の言葉のあり方</p>
2 回	<p>&lt;乳幼児期の言葉の発達過程と保育者としての評価&gt; 領域「言葉」指導上の留意点と評価 0歳～5歳における言葉の発達、6歳の就学に向けた取り組み</p>
3 回	<p>&lt;言葉を豊かに育む活動(1)&gt; 言葉遊びに関する教材の活用（情報機器を利用した活用例の紹介を含む） わらべうた、なぞなぞ、しりとり、ごっこ遊び、劇遊び等、言葉遊びによる指導案作成 及び模擬保育体験と振り返り</p>
4 回	<p>&lt;言葉を豊かに育む活動(2)&gt; 言葉から文字へ、文字による環境 文字体験としてのカルタ・双六・絵カード等の制作（情報機器活用による制作例の紹介を含む） 及び模擬保育体験と振り返り</p>
5 回	<p>&lt;保育者と言葉のあり方&gt; 言葉の遅れや障がいをもつ乳幼児の捉え方と支援 外国の子どもとの対応</p>
6 回	<p>&lt;言葉を豊かに育む活動(3)&gt; 言語教材としての絵本の意義 絵本と、デジタル教材と保育現場の実際及び言語教材を用いた指導案について</p>
7 回	<p>&lt;言葉を豊かに育む活動(4)&gt; 絵本、お話等の指導法と情報機器の利用について 絵本、お話等の実践による指導案作成及び模擬保育体験と振り返り</p>
8 回	<p>&lt;言葉の年間授業計画と幼稚園、保育園、こども園と小学校との連携&gt; 学習のまとめ</p>
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
<p>【定期試験】 (有) ・ 無</p>	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの指導法「リズム表現」	1年・前期	演習	15時間 (1単位)	茨木金吾
実務経験の概要				
授業概要	<p>幼児にとって、音楽と身体は自己表現と切り離せないほど密接な関係にあります。本授業では幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の内容を主軸として他領域での知識や技能と関連させながら、こどもにとっての表現について、その意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践方法を学習していきます。さらに、小学校以降の教科とのつながりを見通した授業構想を指導案作成と共に実践できるよう、指導援助者としてのあるべき姿を追求していきます。</p>			
授業科目の目的	<p>保育内容を理解し、表現遊びを展開するために必要な知識や技術を表現領域から見出し、保育指導法を修得していくことを目的とします。また、こどもの表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識をも併せて修得していきます。さらに、表現に関する知識や保育技術の修得と、実践を通じた感性や人間力の育成を目指します。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園教育要領、保育所指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」(特にリズム表現(含む身体表現))の位置づけと設定が理解できるようにします。</li> <li>2. 基礎リズムパターン(歩く、走る、スキップ、ギャロップなど)の理解とその指導法が習得できるようにします。</li> <li>3. 幼児のイメージを豊かにする指導法の実践を通して、それに必要な知識や技術が習得できるようにします。</li> <li>4. 童謡やわらべうた、動作カードを活用した多様な振付の実践及び手作り楽器の製作と活用を通して、幼児の表現したい気持ちを育む指導法が習得できるようにします。</li> <li>5. 領域「表現」と小学校教科等とのつながりが理解できるようにします。</li> <li>6. 模擬保育の実践を通して、保育構想を発展させることができるようにします。</li> <li>7. 表現への意欲と喜びを育むリズム遊びのあり方が実践を通して習得できるようにします。</li> </ol>			
テキスト	<p>たのしく遊べるこどものうた [改訂版] / 大山美和子・田中常雄・磯貝静江・茨木金吾著 / すずき出版  幼稚園教育要領(最新版) / 文部科学省 / フレーベル館  幼稚園教育要領解説(最新版) / 文部科学省 / フレーベル館  保育所保育指針(最新版) / 厚生労働省 / フレーベル館  保育所保育指針解説書(最新版) / 厚生労働省 / フレーベル館  幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版) / 内閣府・文部科学省・厚生労働省 / フレーベル館</p>			
参考書	<p>こどものうた [簡易伴奏曲付] / 田中常雄監修 平島美保・木村鈴代・小杉裕子編著 / 圭文社  楽しく遊べる子どもの音楽表現 手あそび・指あそび・歌あそび・絵かきうた / 田中常雄監修 茨木金吾・伏見千悦子・野口雅史著 / ㈱大学図書出版  1～5歳のかんたんリトミック / 神原雅之著 / ナツメ社  リズム&amp;ゲームにどっぷり！リトミック77選 / 神原雅之編 井上恵理・菅沼邦子・小見英晴・有谷英彰著 / 明治図書  乳幼児のダンスABC / 猪崎弥生・山田悠莉著 / 一二三書房</p>			
フィードバックの方法	<p>授業の中での皆さんの疑問や理解できなかった点、授業を通して気付いたこと、感想などについて、修正や再度の説明が必要な個所について、次回の授業で、資料を用いて口頭で説明していきます。  小テストを実施した場合は、次回の授業時に返却し、その試験結果を分析し、再度学習する必要がある場合は、資料を用いて口頭で説明します。  小テストの結果は、次回以降の授業で振り返りを行い、さらに理解を深めてほしい部分については、再度授業の中で取りあげていきます。  レポート課題を課した場合は、コメントを付したのちに次回以降の授業時に返却します。  授業の初めに、前回の授業のフィードバックから始めていきます。  定期試験の結果及び、実践課題の内容評価については教務学生課の成績公表後、希望すれば、各自が研究室に訪問した際にフィードバックします。</p>			
成績評価	<p>授業態度(10%)、定期試験(50%)、実践課題の内容(40%)により、総合的に数量化して評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 積極的に動き、グループ内での協調性を大切にいき、保育者を目指して学習しているのだという目的意識を持って、授業に望むことが大切です。</li> <li>2. 学びを確実なものにするためにも学び得られたものを復習することはもちろんですが、次への学びを容易にするためにも、必ず予習をするなど次回へ繋がる取り組みをしてください。</li> <li>3. 多くの内容を習得して行かなくてはならないことを自覚し、欠席、遅刻、早退することなく出席してください。  予習：授業内容進行表には&lt;&gt;内にそれぞれの回のテーマが記され、習得していく内容が理解及び実践等の形で表されています。これらの内容をより深く習得するには事前にそれらを自学自習し、実践せねば予習とならないものについては事前の実践練習をしておくことが重要です。この予習には約90～120分の学習時間を要します。  復習：予習により学び得たものが、本授業を通してどう深まり、それがどう実践で活かすことができるものであるのかを、授業内で学んだ内容とテキスト、参考書を用いて、それらを重要事項としてまとめておきましょう。この復習には約90～120分の学習時間を要します。</li> </ol>			
その他事項	<p>実践を通しての学びが多くなりますので、常に運動のできる服装で臨んでください。また、ホールを使用する場合は、上履きが必要になりますので準備しておいてください。</p>			

## 授業内容進行表

1 回	<p>&lt;領域「表現」についての基本的な考え方&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 古代から近代における幼児教育の歴史的系譜をもとに「表現」についての洞察</li> <li>2. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の指導において求められる表現の捉え方と評価及び小学校の教科等とのつながりについての理解</li> </ol>
2 回	<p>&lt;基礎リズム&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歩く、走る、スキップ、ギャロップなどの基礎リズムパターンの理解と指導上の留意点</li> <li>2. 幼児期の身体的・精神的発達をふまえた指導法の理解</li> </ol>
3 回	<p>&lt;基本動作&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児の心情・認識・思考及び動き等をふまえた基本動作の実践</li> <li>2. 日常生活が表現につながる可能性に気づき、観察や模倣を通して幼児のイメージを豊かにする指導法の実践</li> </ol>
4 回	<p>&lt;多様な振り付けの実践と理解&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 童謡やわらべうた、動作カードを活用した多様な振付の実践</li> <li>2. 幼児の表現したい気持ちを育む指導法の実践</li> </ol>
5 回	<p>&lt;楽器の製作と活用&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 楽器の取り扱いと身近な素材を使ったオリジナル楽器の製作と活用</li> <li>2. 指導案作成の基礎を理解し、オリジナル楽器を使った指導案の作成</li> </ol>
6 回	<p>&lt;領域「表現」と小学校教科等のつながり&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オノマトペ（擬態語・擬音語・擬声語）の表現方法について</li> <li>2. 領域「表現」と小学校教科等とのつながり</li> </ol>
7 回	<p>&lt;表現する力を育てるための保育者の役割と援助&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 絵本のストーリーを取り入れた模擬保育の実践</li> <li>2. 保育構想発展のための相互発表による振り返り</li> </ol>
8 回	<p>&lt;リズム遊び&gt;</p> <p>幼児が持つ表現への意欲と喜びを育むリズム遊びの創作と実践</p>
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
<p>【定期試験】 (有) ・ 無</p>	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの指導法「造形表現」	2年・前期	演習	15時間 (1単位)	岩田 健一郎
実務経験の概要				
授業概要	乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴の理解に向けた学習をする。さらに材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」などの題材や環境構成、指導・援助のあり方についての知識と製作体験とを関連づけながら学習を深める。			
授業科目の目的	保育の内容を理解し、乳幼児を含めた子どもの造形の指導・援助者として、子どもの発達と保育の中で取り扱う教材に必要な知識、さらに材料・用具の操作体験など実践学習を通して学習することを目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できるようにします。</li> <li>2. 乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できるようにします。</li> <li>3. 乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術を習得できるようにします。</li> </ol>			
テキスト	造形表現論／岩田健一郎他／豊岡短期大学 幼稚園教育要領解説（最新版）／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説（最新版）／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館			
参考書	授業の中で紹介します。			
フィードバックの方法	小テスト（造形あそびの手法）の結果は返却し、必要な個所は説明し理解を深めます。製作体験を通して始めて分かる各手法のポイント、幼児に指導する教材の留意点等を振り返り押さえていきます。			
成績評価基準	定期試験70%、課題、小テスト、受講姿勢30%で評価する。			
受講の心構えとメッセージ	<p>乳幼児がモノに触れ、操作していく表現活動は、子どもたちの豊かな育ちのために重要かつ不可欠なことです。皆さんは乳幼児がこれからの時代を生きていくための思考力・判断力・表現力の土台になる力を育むことを理解し、保育者として子どもの姿を現実的にイメージし、実践できる力を貪欲に身に付けてください。</p> <p>授業時間外の前習や復習の学習として、授業前にシラバスとテキストの関連個所に目を通して準備することと、課題が時間内に終わらなかった場合には、提出締め切りまでに復習を兼ね、じっくりと学習してください。この前習復習には、各々90分から120分程度を要します。また、幼稚園、保育所等の現場での造形物や子どもが遊ぶ姿を観察し、発達段階と表現の関係を深めていくことも心がけてください。</p>			
その他事項	テキスト、デザインセットは毎回持って来てください。その他の教材は準備します。絵具等を使用する授業回はエプロン等を準備してください。			

## 授業内容進行表

1 回	<p>&lt;オリエンテーション（授業概要と成績評価）&gt;                      &lt;幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「表現」領域及び小学校との連携（「図画工作」の学習指導要領）&gt;                      保育内容「表現」領域</p>
2 回	<p>&lt;造形教育の思潮と指導法の推移及びこどもの発達段階における表現の特徴&gt;                      造形教育の思潮の変遷 こどもの発達段階と表現の特徴</p>
3 回	<p>&lt;こどもの発達段階における表現の指導・援助（指導案）と評価&gt;                      各発達段階における指導・援助</p>
4 回	<p>&lt;教材研究を伴う製作1（えがく）&gt;                      実際の教材を踏まえた材料（コンテパステル）によるえがく製作体験（手）</p>
5 回	<p>&lt;教材研究を伴う製作2（つくる）&gt;                      実際の教材を踏まえた材料（紙）によるつくる製作体験（花）</p>
6 回	<p>&lt;教材研究を伴う製作3（造形あそび）&gt;                      実際の教材を踏まえた版画手法による造形あそびの体験（型染め）</p>
7 回	<p>&lt;実践的な指導法（模擬保育等）の学習（えがく・つくる・造形あそび）&gt;                      テーマをもとに導入段階の実際</p>
8 回	<p>&lt;えがく、つくる、造形あそびの保育展開（指導法）と情報機器及び教材の活用&gt;                      &lt;まとめ&gt;                      指導のねらいと指導案（3歳児と5歳児）情報機器の可能性 振り返り</p>
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
<p>【定期試験】 (有) ・ 無</p>	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
こどもの指導法「言語表現」		2年・後期	演習	15時間 (1単位)	長 谷 雄 一
実務経験の概要					
授業概要	<p>子どもの言語発達を促す児童文化財（絵本・紙芝居・シアター類・ことば遊び・子どもの歌など）について学び、文化財の作製や扱いが上手にできる技術を身に付けます。子どもの年齢（月齢）に即した言語表現を知り、その表現をより良く発展させられる保育の構築を目指すための基本姿勢を学びます。自らが作品を創り、楽しみ、言語による表現ができるようになります。</p>				
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童文化財（絵本・紙芝居・シアター類・伝承遊び・子どもの歌など）の特徴と演じ方を学びます。</li> <li>2. 子どもの年齢（月齢）に即した言語表現を知り、適した文化財の使用や表現法を学び、実演してみます。</li> <li>3. 情報機器の使用によって新しい児童文化財の創作の幅を広げ、保育に役立つ方法を考えます。</li> <li>4. 児童文化財を創作し、表現するための指導案を作成でき、演じられるようになる。自己評価、相互評価をします。</li> </ol>				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの言語表現についての知識を学び、児童文化財の必要性、特色が説明でき、演じられるようにします。</li> <li>2. 一つの教材を多面的に捉え、工夫、創作することから、こどもの言語表現活動に役立つ力が身につくようにします。</li> </ol>				
テキスト	<p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館          幼稚園教育要領(最新版)／文部科学省／フレーベル館          幼稚園教育要領解説(最新版)／文部科学省／フレーベル館</p>				
参考書	<p>ことばと表現力を育む児童文化／川勝泰介、浅岡靖央、生駒幸子編著／萌文書林          演習 児童文化－保育内容としての実践と展開／小川清美編／萌文書林          うたってかんたん パネルシアター／古宇田亮純監修／ひかりのくに          保育所保育指針解説書(最新版)／厚生労働省／フレーベル館          幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館</p>				
フィードバックの方法	<p>各講義共必ず講義ごとにリアクションペーパーを回収し、講義の気づき・質問を書いてもらい、次講義の時に、教師からフィードバックするようにする。また次講義のポイントを話し、予習を促す。</p>				
成績評価基準	<p>定期試験30%、授業・課題、提出物に取り組む姿勢20%、課題・提出物、レポート30%、実践20%により総合的に評価します。</p>				
受講の心構えとメッセージ	<p>単に児童文化財を作製して演じるだけでなく、同じ絵人形を使いながらも子どもの年齢（月齢）ごとの言語表現に合わせた言葉選びや表現ができるようになりますように。できるだけ、時間がかからない絵人形制作の工夫や、情報機器や便利グッズを使った作製方法を紹介しますので、柔軟な発想で制作に取り組み、楽しく演じて表現してください。</p>				
その他事項	<p>制作のためにハサミ、油性マジック、アクリル絵の具、筆、色紙、画用紙、端切れ、廃材などが必要になります。文具・材料費500円程度を心づもりしておいてください。Pペーパーやパネルシアター舞台などは大学で用意します。</p>				

## 授業内容進行表

1 回	<p>&lt;授業ガイダンス&gt;                      &lt;子どもの言語獲得の過程と言語表現&gt;                      子どもの身体的発達と言語獲得の筋道</p>
2 回	<p>&lt;言語前期の子どものための児童文化財&gt;                      発音を覚える時期のおもちゃと手遊び、わらべ唄                      児童文化財とは。児童文化財を使った指導案の作成</p>
3 回	<p>&lt;1～2歳児の言語獲得の過程と言語表現&gt;                      物の名前と結びついたマグネット人形の作製 情報機器の利用                      さまざまな絵人形や指人形を使った語彙増加と表現への育み</p>
4 回	<p>&lt;3歳児の言語獲得の過程と言語表現&gt;                      想像力と言語表現を豊かにするごっこ遊び教材の作製</p>
5 回	<p>&lt;絵本の種類と特色、屏風絵本の作成&gt;                      絵本の種類と特色、読み方                      屏風絵本を楽しむ 屏風絵本に適した作品を考える</p>
6 回	<p>&lt;さまざまな児童文化財&gt;                      紙芝居とシアター型の児童文化財 さまざまな絵人形作製の基礎                      情報機器を使ったシアターの作製法</p>
7 回	<p>&lt;ペープサート&gt;                      ペープサートの特色と演技方、作製の方法 DVDの視聴</p>
8 回	<p>&lt;パネルシアター&gt;                      パネルシアターの特色と演技方、作製の方法                      子どもが手にとって遊ぶパネルシアターのバリエーション</p>
9 回	<p>&lt;遊び歌を使ったシアター型文化財の作製&gt;                      歌を使ったパネルシアター、ペープサートを作製する                      構想、指導案を考える。情報機器を使って演じる方法</p>
10 回	<p>&lt;絵本を使ったシアター型文化財の作製&gt;                      絵本を使ったパネルシアター、ペープサートを作製する                      構想、指導案を作成する。台本を書く</p>
11 回	<p>&lt;児童文化財の作製&gt;                      歌や絵本を使ったパネルシアター、ペープサートの絵人形や背景を作る 演じる練習</p>
12 回	<p>&lt;演じる、評価する&gt;                      屏風絵本、ペープサート、パネルシアターなどを演じ、自己評価、相互評価する</p>
13 回	<p>&lt;児童文化財の演技方を年齢別に应用する&gt;                      自分の作製した絵人形を使って、年齢別に演技分ける工夫を考える                      言葉を引き出す語りかけや、表現への感性を磨く方法を知る</p>
14 回	<p>&lt;文字環境を整える児童文化財&gt;                      伝統的な言葉遊びを学ぶ 運筆表や文字カードを作製する                      小学校国語への連携を学ぶ</p>
15 回	<p>&lt;こどもの言語表現における課題&gt;                      障害を持つ子どもへの児童文化財の工夫を学ぶ                      グローバル化、情報化社会を生きる子どもの保育における課題を学ぶ                      振り返り</p>
<p>【定期試験】 (有) ・ 無</p>	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
こどもの指導法「音楽表現」		1年・通年	演習	60時間 (2単位)	國光みどり・田上栄美子 大江美歩子・大谷妃早子 松本 裕子
実務経験の概要		國光：幼稚園に14年、幼保連携型認定こども園に2年勤務した実務経験があります。 その間、クラス持ち主任(2年)、専任の副園長(4年)、園長(2年)に従事。			
授業概要	感性と表現に関する領域「表現」における幼児期の終わりまでに育ってほしい「豊かな感性と表現」を育む重要な領域である。領域「表現」の目標を理解するとともに、音楽を通した様々な表現活動の在り方や実践の方法を具体的に理解します。また、小学校における教科「音楽」とのつながりについても触れていきます。				
授業科目の目的	感性と表現に関する領域「表現」における「音楽表現」に視点を置き、音楽表現活動の理解と保育者として必要な知識や技能をもつことを目的とします。また、感性と表現に関する領域「表現」の全体目標への到達を目指し、より具体的、実践的、対話的な保育実践の方法を理論・実践を交え習得することを目的とします。				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感性と表現に関する領域「表現」を理解するとともに、保育における音楽表現の意義や役割を理解することができるようにします。</li> <li>2. 保育の場において子どもの発達過程を素地としながら、子どもとの関りを大切にした音楽表現活動を実践することができるようにします。</li> <li>3. 音楽表現活動を実践するにあたり、必要な音楽的基礎知識とピアノの表現技術を習得するようにします。</li> <li>4. 小学校「音楽科」への接続と学びの連続性を視野に入れた保育を理解できるようにします。</li> </ol>				
テキスト	こどもと音楽表現／西野洋子著／豊岡短期大学 保育者のためのピアノでうたえる歌曲集 子どものうた村 保育の木／小川宣子／フレーベル館 新版実践 保育内容シリーズ5 音楽表現／谷田貝公昭[監修]／一藝社				
参考書	幼稚園教育要領解説(最新版)／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説(最新版)／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館				
フィードバックの方法	授業中の皆さんの疑問や気付き及び感想などの小レポートについて、修正や再度の説明が必要な個所については次回の授業で口頭により説明していきます。				
基準 成績評価	学習意欲10%、成果発表40%、定期試験(後期に実施)50%を数量化し、総合的に評価します。				
受講の心構えとメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアノ弾き歌いの技能については、学生のみなさん一人ひとり、経験に個人差があります。各自が「今」をスタートラインと捉え目標に向かって積極的・意欲的に日々精一杯の努力を重ねましょう。</li> <li>・予習：授業で出された課題を十分弾きこなし、自信をもって表現できるように、主体的に取り組みましょう。この予習にはピアノ補習(90分間)を活用したり、日々30分の学習時間を要します。</li> <li>・復習：練習が不十分だった楽曲においては、読譜・リズム唱、階名唱、奏法の間違いを再確認するなど十分行いましょう。この復習には、ピアノ補習(90分間)を活用したり、日々30分の学習時間を要します。</li> <li>・保育はチームで行う営みです。グループワークの場では仲間と協調しながら、各自が主体的・積極的に取り組む姿勢で学び合いましょう。また、各時間の中で出された課題レポートは学びを振り返り保育のあり方を考える重要な復習となります。熱心に取り組み、必ず提出することを心掛けてください。</li> </ul>				
その他					

## 授業内容進行表

1 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>感性と表現に関する領域「表現」におけるねらいと内容の理解</li> <li>表現活動を支える器楽伴奏についての基礎知識の習得と実践</li> </ul>	16 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育実践における「歌」の理解と弾き歌いの指導法（季節の歌を通して）</li> <li>日本における四季の移ろいをイメージする季節の歌と、その弾き歌いの実践</li> </ul>
2 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>発達過程に応じた音楽表現の理解（0、1、2歳児）</li> <li>0、1、2歳児の表現活動における器楽伴奏の方法と実践</li> </ul>	17 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育実践における「歌」の理解と弾き歌いの指導法（生活の歌を通して）</li> <li>仲間と生活する様々な保育場面で歌う歌の理解と弾き歌いの実践</li> </ul>
3 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>発達過程に応じた音楽表現の理解（3、4、5歳児）</li> <li>0、1、2歳児の表現活動における器楽伴奏の方法と実践</li> </ul>	18 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育実践における「歌」の理解と弾き歌いの指導法（日本の文化・行事の歌を通して）</li> <li>日本の節句・年の始まり・園の行事で歌う歌を理解するとともに弾き歌いの実践</li> </ul>
4 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>映像視聴による身近にある音風景「自然の音」や「身の周りの音」への気付きと表現方法</li> <li>サウンドスケープや映像視聴などの実践と楽器による表現及び伴奏法</li> </ul>	19 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>感性と表現に関する領域「表現」と他の領域とのかかわりの理解と応用</li> <li>「身体の歌」、「友だちの歌」、「遊具」・「飼育動物・花など」をテーマにした歌、「言葉であそぶ歌」等の理解と弾き歌いの実践</li> </ul>
5 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近にある音風景「子どもの身の周りの音」の気付きと表現</li> <li>保育の場面で使用する楽器を活かすための器楽伴奏法</li> </ul>	20 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育の音楽環境と保育者の援助について（こどもの身の回りにある幼児楽器とのかかわり）</li> <li>簡単なリズム楽器を用いて楽しむ楽曲の理解と器楽伴奏法の実践</li> </ul>
6 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>声の仕組み、乳幼児の歌唱能力など「歌う」表現活動</li> <li>乳幼児の発達とその表現活動を促す器楽伴奏法</li> </ul>	21 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育の音楽環境と保育者の援助について（こどもの身の回りにある鍵盤楽器とのかかわり）</li> <li>鍵盤ハーモニカ等を用いて楽しむ楽曲の理解と器楽伴奏法の実践</li> </ul>
7 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>映像を活用した0、1、2歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践</li> <li>乳幼児の「声」に合わせた表現活動を育む伴奏法</li> </ul>	22 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画に基づいた指導案の作成のポイントと模擬保育の進め方</li> <li>模擬保育での歌や曲の選曲及び教材研究とその伴奏・効果音の研究</li> </ul>
8 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>映像を活用した3、4、歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践</li> <li>乳幼児の「声」に合わせた表現活動を育む伴奏法</li> </ul>	23 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画に基づいた指導案の作成と実践過程の留意点</li> <li>模擬保育での歌や曲の選曲及び教材研究と伴奏法の研究</li> </ul>
9 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>映像を活用した5歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践</li> <li>乳幼児の「声」に合わせた表現活動を支え引き出す伴奏法</li> </ul>	24 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>模擬保育「いろいろな音を集めてあそぼう」の実践と指導案の討議</li> <li>模擬保育での弾き歌い・伴奏法の実践</li> </ul>
10 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>「わらべうた」や伝承あそびなどに親しむための指導法</li> <li>乳幼児の伝承遊びと器楽における簡単な即興演奏の実践</li> </ul>	25 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>模擬保育「わらべうた・伝承遊びを楽しむ」の実践と指導案の討議</li> <li>模擬保育でのわらべうた・伝承あそびの弾き歌いと伴奏法の実践</li> </ul>
11 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の「伝統的な遊びうた」などに親しむための指導法</li> <li>5音音階（ペンタトニック）の理解とそれに基づく器楽伴奏及び即興演奏の実践</li> </ul>	26 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>模擬保育「自然物や身近な素材を活かして楽器あそびをしよう」の実践と指導案の討議</li> <li>模擬保育での弾き歌い及び楽器あそびの教材研究と伴奏法の実践</li> </ul>
12 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>各国の「遊びうた」などに親しむための指導法</li> <li>各国の遊びを伴う「遊びうた」の歌唱とその器楽伴奏法の実践</li> </ul>	27 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>模擬保育の振り返りと評価</li> <li>模擬保育における伴奏法のまとめ</li> </ul>
13 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞の意味を理解しながら「歌を歌う」活動</li> <li>歌詞の意味を伝え、表情豊かに歌う弾き歌いの実践</li> </ul>	28 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポर्टフォリオなどの作成方法</li> <li>音楽表現活動の実践を豊かにする音楽とその器楽伴奏の実践</li> </ul>
14 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>イメージを共有して「歌を歌う」活動</li> <li>遊びや生活での経験からイメージを広げ仲間と共有しながら「歌う」活動を支える器楽伴奏法</li> </ul>	29 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポर्टフォリオなどを使用して模擬保育を振り返り「保育の可視化」の実践と発表</li> <li>ポर्टフォリオを見ながら「思い出の活動を音楽でつづる」器楽伴奏法の実践</li> </ul>
15 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>仲間の声を聴きながら「歌を歌う」活動について</li> <li>仲間と声を合わせる響きの美しさや楽しさを感じられる器楽伴奏法の実践</li> </ul>	30 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校への接続と学びの連続性についての理解と学習のまとめ</li> </ul>
		【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教育方法論	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	原田 敬文・稲田 達也 大塚 貴之
実務経験の概要				
授業概要	教育方法とは何か、その定義と意義などについての知識を習得したのちに、教育方法の歴史の変遷を概観することを通して、先人がどのような思想のもとに教育方法を展開してきたのかを考察します。さらに、教育に活用できる情報機器、教材・教具についての理解を深めたのちに学習指導の理論と授業の方法、および評価について理解し、それらをもとに授業づくりを構想していきます。後半では、幼児教育（保育）の方法、並びに小学校教育との連続について考察します。最後に教育方法における課題と今後の展望について検討していきます。			
授業科目の目的	教育方法の定義、意義などの基本的知識を習得し、教育目標、教育内容、評価の関係性についての理解を深めるとともに、教育（保育）現場における様々な課題を解決する手立てとなる教育（保育）方法とその活用についての理解を深め、幼稚園教諭として必要な資質を養うことを目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育方法の定義、意義、守備範囲などの概念についての基本的知識を理解することができるようにします。</li> <li>2. 教育方法の歴史の変遷について理解できるようにします。</li> <li>3. 授業についての概要を知り、学習指導の形態と方法について理解することができるようにします。</li> <li>4. 教育技術の革新について理解するとともに情報機器の活用を説明することができるようにします。</li> <li>5. 生徒指導の原理と方法及びその実際について知り、学習指導と生徒指導の関係について理解することができるようにします。</li> <li>6. 幼児の発達と幼児教育（保育）の方法について理解することができるようにします。</li> </ol>			
テキスト				
参考書	幼児学用語集／小田 豊等監修／北大路書房 保育所保育解説（最新版）／厚生労働省／フレーベル館 幼稚園教育要領解説（最新版）／文部科学省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館			
の方法	ファイルバック 授業中に課した小レポートについては、修正や再度の説明が必要な個所については次回の授業で口頭にて説明します。小テスト及びレポートについては、次回以降の授業時に返却し、コメントの書き込み又は全体への説明が必要なものについては授業の中で取り上げます。			
基礎	成績評価 定期試験（60%）、レポート・小テスト（25%）、講義への参加の態度等（15%）により総合的に評価します。			
メッセ	受講の心構えと 本授業では、こどもの成長に合わせた、教育方法について考えます。また、保幼小の連携も視野に入れた学びの連続性についても考える機会とします。そのため、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領について、事前に熟読して理解しておくようにしておいてください。 また、保育や教育系の雑誌などを読み、常に、自身の情報量を増やすよう、心がけてください。 予習・復習について 予習：毎回の授業の中で、予習課題を出します。インターネットや参考図書等で調べることが必要なものもあります（所要時間90分から120分）。 復習：毎回の授業の中で、復習課題を出します。授業の中の説明やインターネット、参考図書等も必要に応じて用いながら整理して記述するようにしてください（所要時間90分から120分）。			
その他	その他 授業で配布するプリント類は、各自ファイルしておくこと。			

## 授業内容進行表

1 回	<教育方法とは> 教育方法の定義・意義と守備範囲
2 回	<教育方法の歴史的展開1> 西欧の教育方法
3 回	<教育方法の歴史的展開2> 近・現代の教育方法
4 回	<教育方法の歴史的展開3> 日本の教育方法
5 回	<教育技術の革新> 視聴覚教材・情報機器の活用
6 回	<様々な教材・教具> その種類と活用
7 回	<特色ある授業実践> 種々の学習方法及び形態の特徴
8 回	<教育現場における授業技術> 学習方法とその目的
9 回	<授業分析と授業評価> 授業分析と授業評価の方法とその活用
10 回	<授業展開の構想> カリキュラム編成と学習指導案
11 回	<幼児の理解と幼児教育（保育）の方法> 乳児・幼児と遊びの関係、児童・生徒と学習について
12 回	<近代以降の幼児教育（保育）方法> 近代以降の教育思想家と時代ごとの教育観
13 回	<幼稚園教育要領と幼保連携型認定こども園教育・保育要領> 幼稚園教育要領と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の関連と取り組み方
14 回	<幼児教育（保育）内容と小学校の教育内容> 保幼小の連携とその指導計画
15 回	<教育方法の課題と展望> 義務教育の在り方、学習指導の在り方
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの理解と相談支援	2年・後期	演習	30時間 (2単位)	原田敬文
実務経験の概要				
授業概要	相談支援の究極的な目的は、こどもの人間形成、人格形成にあります。幼児、児童、生徒を対象にした現場における相談支援に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導、しつけ、学習適応等について学びます。また、カウンセリングの基本的態度や技法について学び、様々な心理アセスメントの内容・活用について理解を深めていきます。			
授業科目の目的	子どもを理解するために、乳幼児の発達及び学び並びにその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理について学びます。また、その対応の一つの幼児教育（保育）現場における相談支援を学び、子どもが自己理解を深め、好ましい人間関係を築き、集団生活の中で適応できる力を育むことを支援できることを目指します。そのために、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動の在り方について、こどもの発達の状況に即した支援ができるよう、心理的特質や教育的課題を捉える力を身につけるとともに、本人またはその親や保育者などに助言、指導、そして場合によってはカウンセリングを行えるようになることを目指します。この授業では、より良い教育の方向を求めて指導助言ができる基礎理論と実際について学びます。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児教育の課題と家庭との連携の在り方、心理アセスメントの活用について論理的に説明できるようにします。</li> <li>2. カウンセリングの基本と心理アセスメントの活用、保・幼・小及び家庭との連携が理解し、実践に活かすことができるようになります。</li> </ol>			
テキスト	適宜プリントを配布します。			
参考書	幼稚園教育要領解説（最新版）／フレーベル館 保育所保育指針解説（最新版）／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）／フレーベル館			
フィードバックの方法	前回の授業の振り返りを、授業の初めに、前回おこないます。その際に、各自家庭で収集した事例を発表し合い、理解を深めます。また、家庭での復習した内容の質問に対して、教員が説明します。前回までの学習内容を十分に理解したうえで、毎回の授業を始めます。			
成績評価基準	定期試験（60%）、レポート（25%）、講義への参加の態度等（15%）により総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>この授業では、子どもの発達をどのように理解するか、また、子どもと子どもに関わる人（保護者、友人）などに対して、どのような支援をしていくかを学びます。ここで、必要なことは、普段から子どもを取り巻く諸問題に対して、常に関心をもつということです。</p> <p>講義にのぞむにあたっては、ニュースや新聞から子どもの問題について、事例を集めるように心がけ、どの事例にどのように対処するか、考えをまとめておいてください。この予習作業に90分から120分かかります。</p> <p>また、授業で配布するプリントを読み返し、自分なりに要点をまとめください。この振り返りに、90分から120分かかります。</p>			
その他				

## 授業内容進行表

1 回	<こどもの実態に応じた発達や学びの把握> こどもの理解の意義、養護保育の一体的展開、幼児理解を深める教師の基礎的な態度
2 回	<相談支援の基本> 相談支援の基本・カウンセリングの基本（意義・理論）とカウンセリングの基本的な方法（受容的態度と共感、傾聴）
3 回	<こどもを理解する視点1> こどもの生活や遊び、保育の人的環境、こども相互の関わり、集団における経験
4 回	<こどもを理解する視点2> 葛藤やつまずき、保育環境の理解と構成、環境の変化や移行
5 回	<こどもを理解する方法1> 知能検査・発達検査・行動観察法、他
6 回	<こどもを理解する方法2> 観察・記録・省察・評価
7 回	<こどもを理解する方法3> 職員間の情報共有、保護者との情報共有
8 回	<こどもの自己理解を進める技法> こどもの自己表現と自己理解の発達
9 回	<幼児・こども理解とカウンセリング・マインド> 実際のカウンセリングと教師の行う相談支援の違いを理解する・教師の行う相談支援の理解を深める
10 回	<幼稚園・保育園における教育相談> 幼稚園・保育園における園児への心理的援助及びその保護者との相談支援
11 回	<小学校における教育相談> 小学校における児童への心理的援助及びその保護者との相談支援
12 回	<相談支援の実際1> 発達障害、知的障害、自閉・情緒障害、特別な配慮を要するこどもたち
13 回	<相談支援の実際2> 不登園・不登校、いじめ、虐待・非行と小・中学生の心理アセスメント
14 回	<相談支援と家庭・学校・地域との連携と相談支援> 幼・小の連携、親との連携
15 回	<相談支援の課題と対応> 教育相談における校内支援体制、相談支援計画の作成
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
乳幼児保育 I	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	國光みどり
実務経験の概要	幼稚園に14年、幼保連携型認定こども園に2年勤務した実務経験があります。 その間、クラス持ち主任(2年)、専任の副園長(4年)、園長(2年)に従事。			
授業概要	乳幼児保育の歴史的な歩みと現代における乳幼児保育の現状など、乳幼児保育の基本的な知識を身に付けます。また、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と、安全管理・保育現場における具体的取組や連携などの運営体制を学びます。さらに乳幼児保育の場における職員間の連携・協働のあり方や保護者との連携や子育て支援への理解を深め、保育者としての人と人の関係性やその重要性を学びます。乳幼児期は生涯にわたる大人との愛着関係や社会への信頼を築き、自我や自立の芽生えを育み、人としての基礎を培う最も重要な時期です。保育者としてその時期の乳幼児に関わることへの深い認識をもち、具体的な保育のあり方や心構えを学んでいきます。			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歴史とともに変遷を重ねてきた乳幼児保育を概観しながら、現代における乳幼児保育の重要性やそのあり方、子育て支援の重要性についての知識を広げていきます。</li> <li>2. 保育所・乳児院等多様な乳幼児保育の実際を学び、保育所以外での乳幼児保育に携わることができ柔軟な保育者としての専門性と資質を養います。</li> <li>3. 乳児期の心身の発達を学び、子ども一人ひとりへの応答的・感性的な関りの実際と、その重要性を理解し、実践につながるようにします。</li> <li>4. 園(所)内外における様々な連携について学び、保育実践に活かすことができるよう知識を広げます。</li> </ol>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児保育の理念と歴史の変遷及び乳幼児保育の役割について、現代社会の保育と関連付けて考えることができるようになります。</li> <li>2. 保育所・認定こども園・乳児院等多様な保育の場における乳幼児保育の現状と課題について理解できるようにします。</li> <li>3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた実践的な保育内容のポイントを理解できるようにします。</li> <li>4. 乳幼児保育における職員間の連携・協働及び地域の関連機関との連携のあり方と重要性を実践に結び付けて考えられることができるようになります。</li> </ol>			
テキスト	乳幼児保育 I / 國光みどり・山中ます子他著 / 豊岡短期大学 保育所保育指針解説(最新版) / 厚生労働省 / フレーベル館			
参考書	授業の中でプリント、資料を配布します。			
フィードバックの方法	皆さんの授業中における気付き及び感想などのレポートについて、修正や再度の説明が必要な個所については次回の講義で口頭により説明していきます			
基準 成績評価	授業態度10%、課題・レポート提出30%、定期試験60%により数量化して総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>新しい保育制度の中で、乳児・1歳以上3歳未満児の保育の重要性が改めて強調されています。乳幼児は保育者の心のこもった養護と、心と心のふれあいを通して乳幼児の情緒が安定し、人や自分の生活する世界への信頼感を獲得していきます。保護者同様、乳幼児にとって最も身近な存在である保育者の関りが、乳幼児の人格形成に大きな影響を与える、といっても過言ではありません。</p> <p>真摯な気持ちで受講してください。予習として、授業前にはテキストを読み疑問点があれば各自で調べておくようにしましょう。授業後には学びを確認するための復習として課題レポートの作成を行い確実に提出するよう心がけましょう。予習90分から120分、復習90分から120分の学習時間を要します。</p>			
その他				

## 授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 「乳幼児保育」とは何か
2 回	<乳幼児保育の意義・目的と役割 1 > 乳幼児保育の意義・役割と歴史の変遷
3 回	<乳幼児保育の意義・目的と役割 2 > 乳幼児保育の役割と機能、養護と教育
4 回	<乳幼児保育の現状と課題 1 > 乳幼児保育及び子育て支援をめぐる社会的状況と課題
5 回	<乳幼児保育の現状と課題> 保育所における乳幼児保育
6 回	<乳幼児保育の現状と課題 3 > 保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）、家庭的保育等における乳幼児保育
7 回	<3歳児未満児の発育・発達を踏まえた保育 1 > 3歳未満児の生活と環境
8 回	<3歳児未満児の発育・発達を踏まえた保育 2 > 3歳児未満児の遊びと環境
9 回	<3歳児未満児の発育・発達を踏まえた保育 3 > 3歳以上児の保育に移行する時期の保育
10 回	<3歳児未満児の発育・発達を踏まえた保育 4 > 保育者の援助 保育における配慮
11 回	<乳幼児保育における指導計画 1 > 保育の計画の必要性 全体的な計画・指導計画
12 回	<乳幼児保育における指導計画 2 > 指導計画に基づく保育実践・省察・評価
13 回	<乳幼児保育における連携・協働 1 > 職員間の連携・協働
14 回	<乳幼児保育における連携・協働 2 > 保護者との連携・協働
15 回	<乳幼児保育における連携・協働 3 > 自治体や地域の関係機関等との連携・協働
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
乳幼児保育Ⅱ		2年・後期	演習	15時間 (1単位)	國 光 みどり
実務経験の概要		幼稚園に14年、幼保連携型認定こども園に2年勤務した実務経験があります。 その間、クラス持ち主任(2年)、専任の副園長(4年)、園長(2年)に従事。			
授業概要	乳幼児保育Ⅱでは、乳幼児保育Ⅰで学習した基礎的知識を踏まえながら、より実践的な乳幼児との関わりや意義や具体的な方法を学び、一人ひとりの子どもと受容的、応答的な関わりができるように数多くの保育技術を習得します。3歳未満児の発育・発達をふまえた子どもの生活援助や保育環境の構成及び、子どもの成長発達を促す遊びや玩具について演習を行いながら、さらに専門的知識を深めていきます。3歳未満児の集団保育における安全や心身の健康管理への配慮の実際を理解し、総合的な視点から乳幼児の指導案が作成・実践できるように学びを進めていきます。				
授業科目の目的	乳幼児保育Ⅰでの基礎的知識を素地として、3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえたより実践的な援助や関わりを理解します。養護と教育の一体性をふまえ、3歳未満の子どもたちの生活や遊びと保育の方法及び環境について理解するとともに、保育者としてより実践的な保育技術を習得します。事例研究、グループワークを通して、乳幼児保育における配慮の実際を具体的に体験し、乳幼児への視野を広げていきます。多面的な保育の視点を養い、学びを集結し乳幼児の保育計画の作成についての知識を深めます。				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 3歳未満児の発育・発達の特性を理解し、実践的な援助や関わり方を理解できるようにします。</li> <li>2. 3歳未満児の発達を理解し、子どもの発達を促す遊びやその遊びに必要なおもちゃの制作を通して、子どもにふさわしい遊びの環境づくりが理解できるようにします。</li> <li>3. グループワーク・模擬保育を通して乳幼児保育の実際を体験し、子どもたちに必要な援助・配慮の在り方を理解し、実践に応用できるようにします。</li> <li>4. 各年齢における乳幼児の生活を多面的に理解し、具体的な保育を想定した指導案の作成をすることができるようになります。</li> </ol>				
テキスト	随時、配布します。				
参考書	保育所保育指針解説(最新版)／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)／内閣府、厚生労働省、文部科学省／フレーベル館				
フィードバックの方法	皆さんの疑問や気づき及び感想などのレポートについて、修正や再度の説明が必要な個所については、次回の授業のなかで説明・補足していきます。				
成績評価基準	授業態度10%、レポート30%、定期試験60%により、数量化して総合的に評価します。				
受講の心構えとセッション	皆さんが保育者として自信をもって社会で貢献していくことができるように、乳幼児保育Ⅱでは乳幼児保育Ⅰで学んだ基礎知識を基にして、より専門性を高めていくための学びを多く取り入れています。また、保育実習での経験を活かして、グループワークなどのより実践的な授業にしていきたいと思っています。予習では、授業内に配布されるプリントを熟読し、学びのポイント・キーワードを理解しておきましょう。この学びには45分の学習時間を要します。 復習では毎回の授業を振り返りながら、レポートをしっかりと作成し学びのポイントをまとめておきましょう。この復習には90分の学習時間を要します。				
その他					

## 授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション「乳幼児保育の基本1」> 子どもの主体性の尊重と自己の育ち（事例で学ぶ）
2 回	<乳幼児保育の基本2> 個々の子どもに応じた援助、受容的・応答的な関わり
3 回	<乳幼児保育における子どもの発達・発育を踏まえた生活と遊びの実際1> 0歳児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際
4 回	<乳幼児保育における子どもの発達・発育を踏まえた生活と遊びの実際2> 1～3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際
5 回	<乳幼児における発育・発達と遊びの実際1> 手作りおもちゃの研究・制作1
6 回	<乳幼児における発育・発達と遊びの実際2> 手作りおもちゃの制作2
7 回	<乳幼児における発育・発達と遊びの実際3> 手作りおもちゃの発表・評価
8 回	<乳幼児保育における発育・発達と生活の援助 まとめ> 沐浴・調乳・授乳演習
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
社会的養護Ⅱ		1年・後期	演習	15時間 (1単位)	西村重喜 室谷雅美
実務経験の概要	西村：中学校の特別支援学級にて教科担任を2年間経験。幼稚部を有する特別支援学校に校長として3年間勤務。				
授業概要	子どもを育むことは一義的には親の責任であるが、それが果しにくい状況にある家庭が増えていることが現代社会の課題となっており、多くの子どもに社会的養護が必要になってきています。施設で暮らす子どもたちにどのような援助がおこなわれているかを学び、福祉に関わる実践力を身につけます。社会的養護の基礎的な内容を学び、保育士として社会的養護に関わる相談援助の技術を習得します。個別支援計画の作成の仕方や記録及び自己評価について理解し身につけます。適宜グループ・ワークを実施し、意見交換をします。				
授業科目の目的	社会的養護を通して、子ども虐待の防止・家庭支援・児童福祉施設についての理解や認識を深めます。社会的養護の全体像を把握し、養護を要する子どもの自立支援のための知識、技能の習得を目的とします。社会的養護は、こどもの最善の利益を追求し、社会がどのような支援ができるかについて学ぶ授業です。本来、こども達は、家庭で養育されることが望ましいですが、様々な要因により、施設の支援を必要とする子どもも多くいます。そのような、こどもの最善の利益とは、どのようなものかについて、具体例を交えて紹介し、実習での体験につながることを目的とします。				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解できるようにします。</li> <li>2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解できるようにします。</li> <li>3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解できるようにします。</li> <li>4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解できるようにします。</li> <li>5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解できるようにします。</li> </ol>				
テキスト	保育福祉小六法／保育福祉小六法編集委員会 編／みらい／2020年				
参考書	新・基本保育シリーズ 社会的養護Ⅱ／相澤 仁・村井美紀・大竹 智編集／中央法規／2019年				
フィードバックの方法	レポート課題は、次週以降にグループで確認し合い、理解が不十分な点は教員から説明をし、補足していきます。				
成績評価基準	授業態度10%、提出物・小テスト30%、定期試験60%により総合的に数量化して評価します。				
受講の心構えとメッセージ	<p>施設で生活する子どもたちをどのように支援していくべきなのか、みなさん自身もしっかり考えるようにしてください。そのためにも、日ごろから予習・復習に努め、理解を深めましょう。該当する配布資料の箇所を読み、内容を整理しておくこと。この予習には30分～60分程度の学習時間を要します。</p> <p>復習には、授業内容を振り返り、学んだことを理解できたか確認をします。この復習には、約30分の学習時間を要します。</p>				
その他					

## 授業内容進行表

1 回	<社会的養護における子どもの理解> 子どもの権利擁護／子どもの理解を深める
2 回	<社会的養護の内容> 日常生活支援／心理的支援／自立支援
3 回	<施設養護の生活特性及び実際> 乳児院／障害児施設／母子生活支援施設 等
4 回	<家庭養護の生活特性及び実際> 家庭養護とは／里親制度
5 回	<アセスメントと個別支援計画の作成> アセスメントと個別支援計画／自立と自立支援計画
6 回	<社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践> 相談援助の定義／ソーシャルワークにおける支援
7 回	<社会的養護に関わる専門的技術> 社会的養護における保育の専門性
8 回	<社会的養護における家庭支援> 家庭支援をするとはどういうことか
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
教 育 実 習		1年・後期～ 2年・前期	実習	160時間 (4単位)	宿 南 久 美 子
実務経験の概要		幼稚園に40年間勤務した実務経験があります。 その間、クラス担任 (30年)、教育委員会 (4年)、園長 (6年) に従事。			
授業概要	実習現場で幼児との関わりを数多く経験しながら幼児理解を深めます。また、保育の内容・方法・保育者の役割等を理解し、実践力を養います。				
授業科目の目的	実習は、幼児や保育に関して習得した知識や理論を保育の実際の中で確認し、体験的に学ぶ機会です。「実習で何を学びたいか」という明確な目的や課題をもち、保育者をめざそうとする心構えで積極的に臨むとともに、教員としての能力・適性についての自覚を得ることが目的となります。				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児の観察や関わりを通して、幼児への理解を深め、説明できるようにします。</li> <li>2. 幼稚園教諭・保育教諭の専門性と職業倫理について、具体的な実践に結び付けて理解できるようにします。</li> <li>3. 幼稚園教諭・保育教諭としての自己課題を明確にし、言葉で表現できるようにします。</li> </ol>				
テキスト	教育実習事前・事後指導／田治米富子・堀 和弘／豊岡短期大学				
参考書	幼稚園教育要領解説 (最新版)／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説 (最新版)／文部科学省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 (最新版)／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館				
フィードバックの方法	(豊岡キャンパス) 前期の実習中 (このとり認定こども園での実習) に、「教育実習事前・事後指導」の授業が入ります。その授業の中では、実習で困ったり迷ったりしていることを取り上げ、皆の問題として学び合います。また、責任実習をした後の反省会をもち、一喜一憂するのではなく、課題を探り一人ひとりが自分の課題として次に活かすことを大切にします。このことを積み重ねることにより力を付けていきます。 実習を終えて提出された実習簿について、コメントを添えて、各々に返却します。 (姫路キャンパス) 10月に実施する実習が充実するように、幼児理解、幼児の発達の特長や発達過程を踏まえた指導案の作成は勿論のこと、手遊び・絵本の読み聞かせ・製作等の引き出しを多く身に付けて臨みます。				
成績評価基準	(豊岡キャンパス) 各実習園からの評価(実習態度・資質・指導能力) 80%、実習簿の内容20%により総合的に評価します。 (姫路キャンパス) 実習園からの評価(実習態度・資質・指導能力)80%、実習簿の内容20%により総合的に評価します。				
受講の心構えとメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習現場では、学生であっても子ども達にとっては「先生」です。保育者としての自覚をもち、身だしなみ、言葉遣い、所作等わきまのある態度で臨んでください。</li> <li>・幼児をさまざまな視点から観る目と、感性を養う努力をしてください。また、先輩保育者から学ぼうとする謙虚な姿勢と意欲をもって臨んでください。</li> <li>・先生が楽しければ幼児も楽しいのです。何よりも保育の楽しさを見つけましょう。</li> <li>・体調管理に心掛けましょう。また、諸注意を遵守し責任をもって行動しましょう。</li> </ul>				
その他					

## 授業内容進行表

### 実習期間

実習期間は、以下の予定です。ただし、実習先の状況により変更する場合があります。

#### ○令和元年度入学生

##### 豊岡キャンパス

[ここのとり認定こども園での実習]

令和2年2月10日(月)～3月19日(木)のうち4日間

令和2年4月16日(木)～7月16日(木)のうち7日間

(A・Bクラスに分かれ、隔週の木曜日に実習をする)

[学外幼稚園(認定こども園)での実習]

令和2年9月1日(火)～9月14日(月) 2週間

##### 姫路キャンパス

令和2年10月5日(月)～10月30日(金) 4週間

#### ○令和2年度入学生

##### 豊岡キャンパス

[ここのとり認定こども園での実習]

令和3年4月5日(月)～7月15日(木)のうち10日間

(A・Bクラスに分かれ、隔週の月曜日に実習をする)

[学外幼稚園(認定こども園)での実習]

令和3年9月6日(月)～9月18日(土) 2週間

##### 姫路キャンパス

令和3年10月4日(月)～10月30日(土) 4週間

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
教育実習事前・事後指導		1年・後期～ 2年・通年	演習	45時間 (1単位)	宿 南 久美子 國 光 みどり
実務経験の概要		宿南…幼稚園に40年間勤務した実務経験があります。 その間、クラス担任(30年)、教育委員会(4年)、園長(6年)に従事。 國光…幼稚園に14年、幼保連携型認定こども園に2年間勤務した実務経験があります。 その間、クラス持ち主任(2年)、専任の副園長(4年)、園長(2年)に従事。			
授業概要	教育実習は、学生の立場から幼児を導く立場に立って考える機会です。実習に向けて、実習生としての心構えを学びます。また、実習の意義・目的を理解し、保育についての知識・技能、態度等を総合的に学びます。				
授業科目の目的	教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学びます。また、幼児の発達の特長や発達過程を踏まえ、観察の視点と方法、指導案の作成等を習得することを目的とします。 また実習後、総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にすることを目指します。				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児教育の基礎理論を学ぶことができるようになります。</li> <li>2. 実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶことができるようになります。</li> <li>3. 保育者の専門性と職業倫理について学び説明することができるようになります。</li> <li>4. 観察や幼児との関わりを通して、幼児への理解を深め記録することができるようになります。</li> <li>5. 幼児理解や教師の援助の方法、環境構成等について学び、指導案を作成することができるようになります。</li> <li>6. 事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確に立てることができるようになります。</li> </ol>				
テキスト	教育実習事前・事後指導／田治米富子・堀 和弘／豊岡短期大学				
参考書	幼稚園教育要領解説(最新版)／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説(最新版)／文部科学省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館				
フィードバックの方法	子ども達から見れば、実習生ではなく大人であり保育者です。一人の人としての振る舞いが身に付くよう普段の学校生活の中で、挨拶・言葉遣い、気遣い等に声掛けをしていきたいと考えています。勿論、保育についての知識、実習日誌の記録方法、発達年齢に合った指導案の立案等も身に付けます。 提出物は、コメントを添えて、各々に授業計画や実習スケジュールを鑑みながら適宜、返却していきます。				
成績評価基準	授業態度・意欲40%、観察記録・指導案等の提出物60%により総合的に評価します。				
受講の心構えとメッセージ	<p>実習を通して「保育者になりたい」という気持ちが高まることを願っています。そのためには、実習で子どもと関わることの楽しさ・保育の楽しさを体験することです。事前指導で、実習生に求められる心構え、身だしなみ、言葉遣いを始め、実習の意義・目的、幼児への理解・観察の視点、さらに指導案の作成等を学びます。しっかり学んで自信をもって臨みましょう。</p> <p>予習：各回の授業前に、テキストの内容をしっかり読んでおいてください。この予習には45分を要します。</p> <p>復習：この授業は実習に関わる多くの事前準備を整えることとなります、そのためには心構えや指導案の作成を含むこととなります。各回の授業後、その内容について、自分自身の考えをまとめたり、必要な資料等を作成してください。この復習には90分を要します。</p>				
その他					

## 授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 幼稚園教育の特質・実習の意義と目的	16 回	<指導案の作成 3> 4歳児の指導案立案
2 回	<保育者としての倫理> 実習生としての心構え・守秘義務	17 回	<指導案の作成 4> 5歳児の指導案立案
3 回	<実習の内容と方法> 観察・参加・責任実習	18 回	<責任実習の振り返り 1> 自己評価と課題
4 回	<幼児理解と保育> 幼稚園・認定こども園の役割	19 回	<責任実習の振り返り 2> 自己評価と課題
5 回	<教育課程・指導計画> 長期指導計画・短期指導計画	20 回	<責任実習の振り返り 3> 自己評価と課題
6 回	<保育観察 1> 環境構成・幼児理解	21 回	<学外実習 直前指導> 実習生としての心構え・準備物 身だしなみ等の確認
7 回	<実習日誌の記録方法 1> 環境構成・幼児理解	22 回	<学外実習の振り返り 1> 実習体験発表
8 回	<保育観察 2> 環境構成・幼児理解 教師の援助の在り方	23 回	<学外実習の振り返り 2> 自己評価と課題・実習体験集作成
9 回	<実習日誌の記録方法 2> 環境構成・幼児理解 教師の援助の在り方	24 回	
10 回	<実践的演習 1> 幼児に即した歌・手遊び	25 回	
11 回	<実践的演習 2> 絵本・紙芝居等の導入からの方法	26 回	
12 回	<オリエンテーション> こうのとりの認定こども園での実習に向けての 心構え	27 回	
13 回	<1年次の実習の振り返り> 報告会と自己評価	28 回	
14 回	<指導案の作成 1> 指導案とは何か	29 回	
15 回	<指導案の作成 2> 3歳児の指導案立案	30 回	
			【定期試験】 有 ・ (無)

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
保育実習Ⅰ		1年・後期	実習	160時間 (4単位)	栗岡あけみ・西村 重喜 原田 敬文・稲田 達也
実務経験の概要		<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園に33年勤務した実務経験があります。その間、クラス持ち主任(6年)、専任の副園長(2年)と園長(9年)をさせていただきました。(栗岡)</li> <li>・中学校の特別支援学級教科担任として2年、特別支援学校(幼稚部・小学部・中学部・高等部)の校長として3年しました。(西村)</li> </ul>			
授業概要	保育実習Ⅰは、保育所実習と施設実習からなります。実際に保育所、福祉施設において乳幼児(利用者)とかかわり、保育士の仕事に助手的な形で携わることを通して、授業で学んだ内容と実践の統合を図る科目です。				
授業科目の目的	保育現場の実際に接し、子ども(利用者)の観察やかかわりを通して、子ども(利用者)への理解を深めます。そして、実習施設の役割や機能、保育士の役割や職務内容を具体的に理解することが目的です。				
学習成果	<p>【保育実習Ⅰ(保育所)】(2単位)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の生活に参加し、保育所及び乳幼児理解を確かなものにする。</li> <li>2. 保育所の機能と保育士の職務内容や職業倫理、チームワークについて理解する。</li> <li>3. 生活や遊びの一部を担当し、保育技術を身に付ける。</li> </ol> <p>【保育実習Ⅰ(保育所以外の児童福祉施設)】(2単位)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 居住型児童福祉施設の生活に参加し、施設及び利用者とその家族について理解を深めることができるようになります。</li> <li>2. 居住型児童福祉施設の機能と保育士の職務について理解し、身につけることができますようになります。</li> <li>3. 生活や援助の一部を担当し、養護技術を習得できるようになります。</li> </ol>				
テキスト	保育実習指導/戸江茂博・岩田健一郎・國光みどり/豊岡短期大学 保育所保育指針解説書(最新版)/厚生労働省/フレーバル館				
参考書	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)/内閣府・文部科学省・厚生労働省/フレーバル館				
の方法	2年生前期で、保育実習Ⅰの振り返り授業を行います。その時は、実習簿を利用し、振り返りを行いますので、きちんと実習先(施設・保育所)に提出して最終返却してもらい、授業時には、実習簿を携帯して臨みましょう。				
成績評価基準	実習簿の内容20%、各実習園による評価(実習態度、保育所理解、施設理解、乳幼児・児童の理解等)80%で総合評価します。				
受講の心構えとメッセージ	<p>実習はこれまでの講義や演習で得られた知識や技能をもとに、多くの学びが得られるものです。そのためにも、以下のことに注意し実習に臨んでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現場でどんなことを知りたいのか、自分の課題を最初に立てておきましょう。</li> <li>・記録はとても大切です。自分の考えや感想などを文章で適切に表現できるようにしましょう。</li> <li>・体調管理をしっかりと行い、諸注意を厳守し、責任を持って行動しましょう。</li> <li>・学生指導委員会の指導を繰り返し受けた人は、実習に臨めない場合があります。学生便覧「学生生活」をよく読み、保育者となる人として、ふさわしい生活態度を心がけましょう。</li> </ul>				
のその他事項	<p>【本実習科目の履修条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士資格取得必修科目(1年次科目)8教科中、5教科以上の修得が必要です。</li> </ul> <p>☆注意しましょう。</p>				

## 授業内容進行表

### 実習期間

以下はおおよその日程です。実習先の状況により前後する場合があります。

#### 【保育実習Ⅰ（保育所実習）】 10日間（80時間）

豊岡キャンパス（下記の1～3のいずれか12日間）

- 1 令和3年2月8日（月）～ 2月19日（金）
- 2 令和3年2月22日（月）～ 3月6日（土）
- 3 令和3年3月8日（月）～ 3月22日（月）

姫路キャンパス

令和3年2月15日～3月29日の間で10日ずつ

#### 【保育実習Ⅰ 居住型児童福祉施設等における実習】 おおむね10日間（80時間）

豊岡キャンパス

令和3年2月中旬～3月下旬 観察実習・参加実習

姫路キャンパス

令和3年2月15日～3月29日の間で10日ずつ

#### <履修上の注意事項>

保育実習指導Ⅰの履修が必要です。実習の詳細については、保育実習指導Ⅰで提示します。

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
保育実習指導 I		1年・前期～ 2年・前期	演習	60時間 (2単位)	栗岡あけみ・西村 重喜 原田 敬文・稲田 達也
実務経験の概要		<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園に33年勤務した実務経験があります。その間、クラス持ち主任(6年)、専任の副園長(2年)と園長(9年)をさせていただきました。(栗岡)</li> <li>・中学校の特別支援学級教科担任として2年、特別支援学校(幼稚部・小学部・中学部・高等部)の校長として3年しました。(西村)</li> </ul>			
授業概要	<p>保育実習指導 I では、1年次に実施される保育実習 I (保育所・施設) の事前学習を行います。児童福祉法に規定される施設(保育所2週間(80時間)、乳児院・児童養護施設・障害者支援施設など(80時間)) の実習において要求される事前手続きから、基礎的な知識や社会人としてのマナー、実習生としての配慮などを学びます。</p>				
授業料目の目的	<p>児童福祉施設における保育実習を円滑かつ効果的に進めるために、実習の意義、目的、方法などを明確にし、保育士の専門性について理解を深めます。また、保育所の子どもや施設の利用者の理解を深め、保育士の役割や仕事について学習します。</p> <p>その上で、実習の結果について自己評価を行い、今後の保育士としての自己課題を明確にします。</p>				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習の意義と目的、内容を認識し、保育所・施設実習に必要な専門知識、援助技術を理解し、実習に生かすことができるようにします。</li> <li>2. 保育実習への基本姿勢、実習に必要な書類や手続き等について理解することができるようにします。</li> <li>3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解できるようにします。</li> <li>4. 実習計画、実践、観察、記録、評価の方法について具体的に文章で記すことができるようにします。</li> <li>5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を自分の言葉で説明したり文章に記したりすることができるようにします。</li> </ol>				
テキスト	<p>保育実習指導/戸江茂博・岩田健一郎・國光みどり/豊岡短期大学 保育所保育指針解説書(最新版)/厚生労働省/フレーベル館</p>				
参考書	<p>授業の中でプリント、資料を適宜配付します。ファイル(授業で渡されたプリントなどを整理できるもの)を必ず持参すること。</p>				
ファイルバックの方法	<p>2年生の保育実習指導1の授業で、実習簿を使った、振り返り授業を行います。授業に実習簿が携帯できるように、実習園への最終提出や受取日に留意しましょう。</p>				
成績評価基準	<p>受講態度・学習への関心30%、提出物(身上書、ワクチン接種済み書など)、課題(指導案、製作物など)の取り組み40%、発表態度や内容など30%を総合して評価します。</p> <p>ただし、実習意欲が感じられないと判断される者は、実習先に迷惑がかかるため、実習を取り止めることがあります。授業には緊張感をもって臨んでください。</p>				
受講の心構えとメッセージ	<p>実際に子どもたちと共に生活する実習では、机上の学びでは体験できない出会いや、感動がたくさん待ち受けていることでしょう。同時に自分が試されたり、揺らぎを感じたりすることもあります。子どもの傍らにある保育者として、共感すること、子どもを受け止めることはどういうことかを一緒に考えていきましょう。実りある実習にするために、基本的な知識を身につけながら、自身の保育観を養ってください。そのためには、テキストや保育所保育指針解説書(最新版)を読み、予習することが大切です。心構えがあれば、楽しい授業に自ら作り上げられます。是非、学びを深めてください。</p>				
その他事項	<p>学生便覧「学生生活」を熟読しておきましょう。園見学や実習事前打ち合わせ(オリエンテーション)では、スーツ着用です。準備しておきましょう。園見学については、園との日程調整でシラバスが変更になる場合があります。第1回～第20回保育所実習(前期後期)・第21回～第30回施設実習(後期)です。時間割表を確認してください。</p>				

## 授業内容進行表

1 回	前期<オリエンテーション> 2年間における保育実習の回数・期間・種類・準備する書類について	16 回	<指導案を使つての模擬保育> (保育所) 実践するときのポイント
2 回	<保育実習の内容と位置づけ> 実習目的とその概要について	17 回	後期<保育所実習直前指導> まとめ 準備事項の確認
3 回	<保育所実習園への依頼と安全管理の重要性> 実習先への依頼方法と手続き 守秘義務の重要性	18 回	前期<実習体験の振り返り> (保育所) 体験発表と記録に基づく自己評価
4 回	後期<保育所実習の方法と理解> 映像を通して	19 回	<全体総括1> (保育所) 保育実習課題の明確化
5 回	<保育所保育指針から> 子どもの発達と特徴と保育所生活について	20 回	<全体総括2> (保育所) 保育実習課題の明確化
6 回	<実習における基本的態度・マナーと意識> 実習生の生活習慣・健康維持・マナーと生活から	21 回	<施設実習オリエンテーション> ・施設実習の心構え ・観察実習を通したこども理解
7 回	<実習簿の書き方1> (保育所) 実習簿の意義・記入上の諸注意	22 回	<施設実習の課題の明確化> 児童福祉施設における保育士
8 回	<実習簿の書き方2> (保育所) 観察記録の取り方・記入方法	23 回	<施設実習の意義と目的> 施設実習の性格と内容・意義
9 回	<保育所見学のまとめ1> 子どもの姿・保育者の関わり・環境構成について	24 回	<施設の実際> 実習施設の機能と役割
10 回	<保育所見学のまとめ2> 観察記録への記入方法	25 回	<施設実習の心構え> ・実習前の自覚 ・実習中・実習後の心構え
11 回	<保育所見学のまとめ3> 実習日誌の書き方	26 回	<施設実習における実習簿の書き方> ・記録の取り方 ・実習簿への記入の仕方
12 回	<指導案を立てるときの基本1> (保育所) 実習における指導案	27 回	<施設実習直前指導> ・事前指導のまとめ ・準備事項の確認
13 回	<指導案を立てるときの基本2> (保育所) 指導案を立てるときのポイント	28 回	<実習体験の振り返り1> (施設) 体験発表と記録に基づく自己評価
14 回	<実習園でのオリエンテーションについて> 連絡方法・態度・持ち物・事前準備・その重要性	29 回	<実習体験の振り返り2> (施設) 施設専門職としての保育士の役割理解
15 回	<指導案を立てるときの基本3> (保育所) 保育計画に基づく指導案の作成	30 回	<全体総括> (施設) 保育実習課題の明確化
		【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習Ⅱ	2年・前期	実習	80時間 (2単位)	栗岡あけみ 原田 敬文・稲田 達也
実務経験の概要	・幼稚園に33年勤務した実務経験があります。その間、クラス持ち主任(6年)、専任の副園長(2年)と園長(9年)をさせていただきました。(栗岡)			
授業概要	社会の状況が変化し「子育て・子育て」の課題が複雑化する中、支援の拠点として保育所はこれまで以上に重要な存在となっています。そこで活躍する保育士の役割も多岐にわたり、より高い専門性が求められています。保育士をめざす者は、各教科で学んだ内容を結びつけ、保育の実践現場で活用したり応用したりできるような学びが求められます。そこで、「保育実習Ⅱ」では、各教科で習得した知識や技能の内容と「保育実習Ⅰ」における保育現場での学びをもとに実習を進めていきます。			
授業科目の目的	保育実習Ⅱは、保育実習Ⅰを基礎とした指導実習です。保育所の生活に参加し、乳幼児の内面理解と保育所機能を深めるとともに、子育て支援や保護者との連携など保育士の職務について学ぶことを目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 積極的に保育実践に参加し、保育に必要な知識や技術を習得することができるようにします。</li> <li>2. 既習学習の内容を活かしながら保育の計画を立て、自ら実践することができるようにします。</li> <li>3. 指導計画の作成、実践、観察、評価を行い、その重要性を説明することができるようにします。</li> <li>4. 子どもの個人差やニーズについて理解し、その対応について説明することができるようにします。</li> <li>5. 保育士の職務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて説明することができるようにします。</li> <li>6. 保育士としての自己課題を自分の言葉で説明することができるようにします。</li> </ol>			
テキスト	保育実習指導／戸江茂博・岩田健一郎・國光みどり／豊岡短期大学			
参考書	保育所保育指針(最新版)／厚生労働省／フレーベル館 保育所保育指針解説書(最新版)／厚生労働省／フレーベル館 保育用語辞典(最新版)／ミネルヴァ書房 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館			
フィードバックの方法	実習終了後、実習簿を利用した振り返り授業を行います。			
成績評価基準	実習園による評価(実習態度・保育所理解・幼児理解など)80%、保育実習簿の内容(字の丁寧さ・ねらいと内容の理解・保育の考察力・内省力など)20%を総合して評価します。			
受講の心構えとメッセージ	実習はこれまでの講義や演習で得られた知識や技術をもとに、多くの学びが得られるものです。そのためにも、以下のことに注意し実習に臨んでください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・現場ではどんなことが知りたいのか、自分の課題を最初に立てておきましょう。</li> <li>・記録はとても大切です。自分の思いや考えなど文章で適切に表現できるようにしましょう。</li> <li>・体調管理をしっかりと行い、諸注意を厳守し、責任をもって行動しましょう。</li> </ul>			
その他事項	本実習科目を履修するにあたっては、保育実習Ⅰ(保育所)及び保育実習Ⅰ(施設)を履修していることが必要です。			

## 授業内容進行表

### 実習期間

以下はおおよその日程です。

#### 豊岡キャンパス

保育実習Ⅱ（保育所実習） 12日間（80時間）

令和2年8月17日(月)～8月29日(土)

参加実習・指導実習

#### 姫路キャンパス

令和2年8月31日(月)～9月11日(金)

#### 実習計画

- ・＜保育全般への参加と保育技術の習得＞
- ・＜子どもの個人差理解と対応方法の習得＞  
個々の発達や生活環境にともなう子どものニーズ理解とその対応
- ・＜指導計画の立案と実践＞
- ・＜子どもの家族とのコミュニケーション方法の習得＞
- ・＜地域社会（保護者）に対する理解と連携方法＞
- ・＜子どもの最善の利益への配慮＞
- ・＜保育士としての職業倫理理解＞
- ・＜保育所の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己課題の明確化＞

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習指導Ⅱ	2年・通年	演習	15時間 (1単位)	栗岡あけみ 原田 敬文・稲田 達也
実務経験の概要	・幼稚園に33年勤務した実務経験があります。その間、クラス持ち主任(6年)、専任の副園長(2年)と園長(9年)をさせていただきました。(栗岡)			
授業概要	保育実習指導Ⅱは、保育所実習の準備と事後学習のためのものです。「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」の継続性を理解し、指導実習に必要な保育指導案の立て方について学んでいきます。また、保育所実習全体を通して、子ども、家庭、地域への理解を深め、子育て支援の必要性や内容を学習します。実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にしていく授業です。			
授業科目の目的	保育実習Ⅱの学びを深めることを目的にした科目です。保育実習Ⅰにおける学びや反省を踏まえ自己の課題を明確にして主体的に学びます。観察・参加・指導実習のなかで子どもや保育の理解を深められるよう、子ども理解の方法、指導計画作成の実際について学びます。 また、子ども・保護者・同僚とのコミュニケーション能力を身につけ実践力を養い、家庭や地域を理解することも学びます。実習後は、実習を丁寧に振り返り、自己評価、グループ演習などを通して自己課題を明確化することが目的です。			
学習成果	【事前指導】 ・保育実習Ⅰとの違いと保育実習Ⅱの内容を理解し、自己課題をもち積極的に実習に臨むことができるようになります。 ・子どもの最善の利益を理解したうえで、個々の発達を踏まえた指導計画を立てることができるようになります。 ・観察、記録、自己評価などの方法について具体的に理解し、実習簿に記述できるようになります。 【事後指導】 ・実習先での学習を客観的に振り返ることができるようになります。 ・自身の今後に繋がる成果と課題を明らかにし、文章化することができるようになります。			
テキスト	保育所保育指針解説書(最新版)／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書(最新版)／フレーベル館 一年次に購入したテキストを継続して使用します。			
参考書	必要に応じて随時紹介します。 授業の中でプリント、資料を配付します。(リングファイルを準備しておくこと)			
フィードバックの方法	実習後は、実習簿を使って実習記録や指導案の見直しを行い振り返ります。振り返り授業までに実習先から受け取りを済ませて、授業に臨みましょう。また、実習体験を文集にまとめ、自己課題を明確にします。			
成績評価基準	期末定期試験は実施しません。受講態度30%、提出物とレポート40%、発表態度と内容30%を総合して評価します。			
受講の心構えとメッセージ	保育士を目指すためには、子ども、家庭、地域への理解まで求められます。「専門職になる」という意識を常に持ち、授業に出席してください。これからの授業の学びと実体験を繋げていきましょう。先輩保育士から学ぶ謙虚な姿勢で臨み、積極性と意欲をもって多くを吸収しましょう。 子どもの良いモデルとなれるよう言葉遣い、態度、所作に日頃から注意しましょう。また、保育関係の図書を読み、子どもの育ちや保育者の役割、保育のあり方について、自主的に学習したり、他教科より保育に関係する社会的課題や子育て支援等についても理解を深める努力が必要です。実習前には教材研究、保育の計画、指導案の作成などを行い実習先で困惑しないように、積極的に教員の助言を求めて準備をしましょう。実習後は実習記録や指導案の見直しを行います。実習簿の提出期日を遵守し、振り返り授業に臨みましょう。			
その他の事項	保育士資格を取得するための履修科目が不十分な者、事前・事後指導を正当な理由なく欠席した者、課題・手続きが未了の者、指示・指導に従わない者は、実習の履修あるいは単位を認めない場合があります。また、実習意欲が感じられないと判断される者は、実習先に迷惑がかかるため、実習を取り止めることもあります。授業には緊張感をもって臨んでください。出欠日数に気を付けましょう。			

## 授業内容進行表

1 回	<保育実習における総合的な学び> 保育実習Ⅱの心構え（子どもの最善の利益） 諸手続きについて
2 回	<子どもの保育と保護者支援> 保護者支援の基本とコミュニケーション 職業倫理
3 回	<保育の実践力の育成1> 実習日誌の記入方法 総合（全日）実習（遊びと教材研究）
4 回	<保育の実践力の育成2> 事前訪問について（実習先の理解） 指導計画の立案・作成について
5 回	<保育の実践力の育成3> 子どもの状態に応じた適切なかかわり 表現技術を生かした保育実践
6 回	<実習直前指導> 実習課題の明確化と礼状の書き方
7 回	<事後指導における実習の総括と評価1> 実習の総括と自己評価
8 回	<事後指導における実習の総括と評価2> 自己課題の明確化
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習Ⅲ	2年・前期	実習	80時間 (2単位)	西村 重喜 原田 敬文・稲田 達也
実務経験の概要	西村：中学校の特別支援学級にて教科担任を2年間経験。幼稚部を有する特別支援学校に校長として3年間勤務。			
授業概要	保育所以外の児童福祉施設実習であり、8月中旬～下旬に10日間(80時間以上)の実習を行います。1年次からのすべての学びと実習の経験を生かし、さらに専門性の高い実習を行います。			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉施設の役割や機能について、実践を通して理解を深めることを目的とします。</li> <li>2. 子ども・施設職員との関わりを通して、保育士の業務内容や職業倫理について理解することを目的とします。</li> <li>3. 家庭と地域の生活実態にふれ、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解を深めることを目的とします。</li> <li>4. 実践を通して、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得することを目的とします。</li> <li>5. 実習を通して、自らの福祉観・援助観を構築し、保育士としての自己の課題を明確化することを目的とします。</li> </ol>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して理解できるようにします。</li> <li>2. 施設における支援の実際について理解できるようにします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設利用児の生活や思いを把握し、その背景もふまえた援助を実践できるようにします。</li> <li>・多様な専門職との連携について理解を深め実践できるようにします。</li> <li>・地域との連携や家庭への支援の実態について認識を具体化します。</li> </ul> </li> <li>3. 保育士の多様な業務と職業倫理について実践を通して説明できるようにします。</li> <li>4. 保育士としての自己課題を認識できるようにします。</li> </ol>			
テキスト	授業内でプリント等を配付します。			
参考書	保育所保育指針解説書(最新版)／厚生労働省編／フレーベル館 五訂 福祉施設実習ハンドブック／岡本幹彦他編／みらい 実習ステップブック／山本美貴子他編／みらい			
フィードバックの方法	実習期間中に訪問先を訪問し、実習内容や実習態度に関する面談を行います。 面談では、実習前半の振り返りを行うとともに、後半に向けての指導助言を行います。			
成績評価基準	実習施設評(実習態度・実習内容)80%、実習日誌の内容(文字の丁寧さ・ねらいと内容の理解・考察力など)20%で総合評価します。			
受講の心構えとメッセージ	福祉の現場で実習の機会をいただくことに感謝し、誠実かつ意欲的に取り組みましょう。利用者の心に寄り添い、より良い支援ができるよう努力を重ねることが必要です。一生懸命な姿勢が何より大切です。 体調管理には十分に気をつけ遅刻や欠席は絶対にしないこと、身だしなみを整えること、諸注意を厳守し各自が責任をもって行動することが望まれます。自立した人間としての強い自覚の上、職業実習として捉えることが望まれます。			
その他事項	本実習科目を履修するにあたっては、保育実習Ⅰ(保育所)及び保育実習Ⅰ(施設)を履修していることが必要です。			

## 授業内容進行表

「保育実習Ⅲ」は、8月中旬～下旬の10日間で80時間以上の実習を行います。

実習の概要は次に示しますが、具体的には、各施設の指示によって実施していきます。

1. 実習施設の役割と機能について理解する。
2. 実習施設における支援内容の概要を把握する。
3. 利用者を理解し、個々に応じた支援を実践する。
4. 個別の支援計画に沿った支援を実践する。
5. 利用者の家族への支援について学ぶ。
6. 他職種との連携について学ぶ。
7. 地域の子育てへの支援など、地域社会との連携について学ぶ。
8. 多様な業務及び職業倫理について学ぶ。
9. 実習日誌の記入によって考察を深める。
10. 実習を通して自己の課題について考察し、今後の目標を明確化する。

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習指導Ⅲ	2年・通年	演習	15時間 (1単位)	西村 重喜 原田 敬文・稲田 達也
実務経験の概要	西村：中学校の特別支援学級にて教科担任を2年間経験。幼稚部を有する特別支援学校に校長として3年間勤務。			
授業概要	保育実習Ⅲの事前学習と事後学習を行います。事前学習では、保育実習Ⅰ（施設）で学んだことを基礎に、本実習の意義・目的・方法等を明確にし、より専門的な実習となるよう学びを深めます。さらに実習計画の立案や事前手続きを行います。また、実習に必要な社会人・職業人としてのマナーを身につけます。事後学習では、実習の振り返りとまとめを行い、保育士としての新たな目標、自己の課題や認識を明確にします。			
授業科目の目的	(実習前) ・実習施設の理解、利用者、職員、専門知識・技術について理解することを目的とします。 ・利用者の人権の尊重や実習生としての心構えなど実習に際しての留意事項を理解することを目的とします。 ・実習簿の記録方法、実習計画の作成方法、事前準備や手続きについて理解することを目的とします。 ・社会人、専門的職業人の視点に立った実践力と自覚を高めることを目的とします。 (実習後) ・施設保育士の役割について、発表や文章化を通して、再度考察を行い認識を深めることを目的とします。			
学習成果	1. 保育実習Ⅲの意義や目的を言葉で説明できるようにします。 2. 実習や既習の教科内容を関連付けて、保育実践力を養うことができるようにします。 3. 観察、記録、評価に基づいた保育の方法について意識し実践できるようにします。 4. 児童福祉施設の機能、そこで暮らす児童の状況、利用者の自立を支える保育士の役割について、具体的に述べるできるようにします。 5. 実習での体験を普遍化し、現在の保育現場の課題、自己の保育者としての課題を明確化できるようにします。			
テキスト	授業内において適宜資料を配付します。			
参考書	五訂 福祉施設実習ハンドブック／岡本幹彦 他／みらい 実習ステップブック／山本美貴子 他／みらい 児童養護施設運営ハンドブック（最新版）／厚生労働省 乳児院運営ハンドブック（最新版）／厚生労働省			
フィードバックの方法	「実習生身上調書」と「実習計画書」の作成については、完成まで添削と面談を行います。 実習後の授業では、実習簿を使った振り返りを行います。授業に実習簿を持参できるように、実習先への最終提出及び受取日に留意してください。 実習後の課題総括については、別途、体験文集の原稿作成を通して行います。			
基準 成績評価	受講態度30%、提出物など40%、発表態度と内容30%を総合して評価します。			
受講の心構えとメッセージ	施設実習実施のための必須科目であることを自覚してください。授業では、施設保育士の業務を理解し実践力を高めるために、事例討議や課題学習への積極的な取り組みを期待します。この科目の提出物は、実習施設に提出する大切なものが多く、期限を守り、確実に提出することが必要です。実習に向けて、自らの体調管理に努めるとともに、社会人としての自覚を高め、諸注意を厳守して行動することの必要性を認識し、より良い実習ができるよう学びましょう。実習では利用者とともに生活させていただくので、普段から社会で暮らしていく基本的な生活習慣について、考えながら行動していきましょう。			
その他事項	以下の教科の内容が十分に理解できていることを前提として授業を運営します。 「社会福祉論」、「こどもの発達と家庭支援」、「社会的養護Ⅰ」、「社会的養護Ⅱ」、「障害児保育」			

## 授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 施設実習の意義と目的
2 回	<施設の機能と役割1> 養護系施設実習の意義と目的
3 回	<施設の機能と役割2> 障害児系施設の理解
4 回	<実習計画の作成と事前準備> 実習計画と事前書類の作成等
5 回	<実習日誌の記入方法> 実習日誌の意義・記入の仕方
6 回	<実習直前指導> 実習生としての心構え・準備物
7 回	<実習体験の振り返り1> 体験発表
8 回	<実習体験の振り返り2> 自己評価と課題
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 有 ・ (無)	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
保育・教職実践演習(幼稚園)		2年・後期	演習	30時間 (2単位)	宿 南 久美子 國 光 みどり
実務経験の概要		<p>・宿南…幼稚園に40年間勤務した実務経験があります。 その間、クラス担任(30年)、教育委員会(4年)、園長(6年)に従事。</p> <p>・國光…幼稚園に14年、幼保連携型認定こども園に2年勤務した実務経験があります。 その間、クラス持ち主任(2年)、専任の副園長(4年)、園長(2年)に従事。</p>			
授業概要	<p>これまでの授業や実習などで形成してきた教師・保育者としての資質能力を確認し、これからの自己の課題の自覚と克服に努めます。</p> <p>さらに、専門職業人としての円滑なスタートができるように、保育・教育現場に立った様々な場面でのリスクマネジメントや保育カンファレンス等を通して、実践的指導力を身につけます。</p>				
授業科目の目的	<p>本授業では、幼稚園教諭・保育士の養成課程で学んできた知識と保育・教育実習等で得られた実践力の統合を図り、教師・保育士としての使命感や責任感のある実践的指導力を身につけていきます。また、専門職業人としての研修の必要性和自己研鑽に努める自覚をもち、人を教え育てる専門家としての生活の円滑なスタートを目指すことを目的とします。</p>				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教師・保育士としての資質・能力とは何か、また教員として働く意味や使命感・責任感について再確認し、高めることができますようにします。</li> <li>2. 教師・保育士に求められる社会性や対人関係力を高めることができますようにします。</li> <li>3. 教師・保育士としての実践的な指導力を保育カンファレンス等を通して身につけることができますようにします。</li> </ol>				
テキスト	保育・教職実践演習／上長 燃・國光みどり／豊岡短期大学				
参考書	<p>幼稚園教育要領(最新版)／文部科学省／フレーベル館</p> <p>幼稚園教育要領解説(最新版)／文部科学省／フレーベル館</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館</p>				
の方法 フィードバック	<p>レポートは、その日の学習の要点となります。次週の授業で振り返り、さらに理解を深めてほしい部分については再度授業の中で取り上げていきます。</p>				
基準 成績評価	<p>定期試験60%、授業態度・グループワークへの参加状況40%で、総合的に評価します。</p>				
受講の心構えと セッション	<p>本授業は、教職課程の科目やさまざまな活動を通して得た力が、教師・保育士として必要な資質能力として身に付いているか確認していく。また、将来教師・保育士になる上で自己の課題が何であるか、現時点で不足しているものは何かを見つめ、補いながらその定着を図ることで教師・保育士生活をスタートできるようにすることを目的としています。</p> <p>本授業を通して、教師・保育士という職業を見つめ返し、現時点よりさらに力を付けて保育現場に飛び込んでいけるようにしましょう。グループ討議の場を大切にしたいと考えています。予習・復習を心がけ意欲的に参加してください。</p> <p>予習：テキストの該当部分をしっかり読み、疑問点等を整理しておいてください。(所要時間90～120分程度)</p> <p>復習：講義のレジュメ、配布資料や実践事例を用いての口頭説明など、学びの要点をまとめておきましょう。(所要時間90～120分程度)</p>				
のそ 事項 他					

## 授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 授業の概要と到達目標の確認、学生自身による自己目標の設定
2 回	<教師という職業1> 教職の意義、教師にもとめられる資質と能力
3 回	<教師という職業2> 「教師」「保育者」になる
4 回	<保育者としての学級経営1> 学級とは、学級担任の役割
5 回	<保育者としての学級経営2> 課題のある子どもへの対応
6 回	<保育者としての学級経営3> 発達に遅れのある子どもへの対応
7 回	<保育者としての学級経営4> 保育者と保護者
8 回	<保育者としての学級経営5> 人権教育の観点から保育—子どもの権利条約—
9 回	<特別支援への理解と対応> 特別支援教育と教師・保育者における役割と支援
10 回	<保育カンファレンス1> 生きる力を育てる保育—まなび—
11 回	<保育カンファレンス2> 生きる力を育てる保育—かかわり—
12 回	<保育カンファレンス3> 生きる力を育てる保育—いのち—
13 回	<信頼される保育者> 危機管理と危機対応
14 回	<保幼小連携> 幼保小のなめらかな接続のために
15 回	<学習のまとめ> 自己の振り返り、今後に向けての課題
【定期試験】 (有) ・ 無	



所 版

有 権

令和2年度 授業概要

令和2年4月1日発行（非売品）

編集兼  
発行者 **豊岡短期大学**

〒668-8580 兵庫県豊岡市戸牧160番地  
発行所 **豊岡短期大学**  
電話 (0796) 22-6361

印刷所 **喜多見印刷株式会社**  
豊岡市中陰546番地の2  
電話 (0796) 23-3685(代)